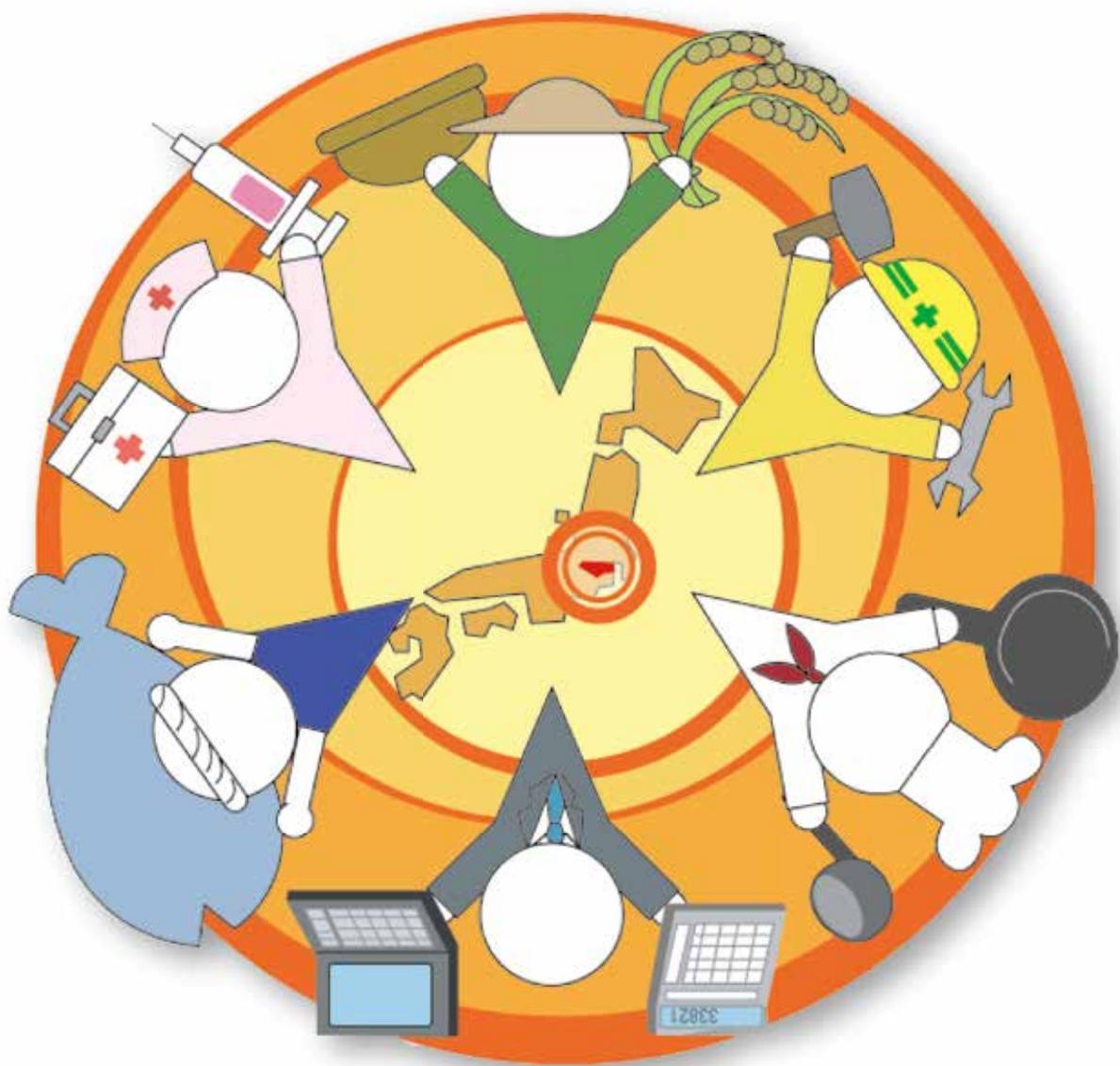


東京の産業教育

特集 特色ある産業教育を目指して
—各校・各学科の取組—



平成29年度 第55号
東京都産業教育振興会

仕事のやりがいがあって やってみなくちゃわからない。

中学生職場体験、高校生・高専生インターンシップ受入れ中！

やってみなくちゃ・その1

クルマの調査実習

実際の車両を使い、カーナビの取り付け・取り外しや、クルマの電気回路の調査を行います。



やってみなくちゃ・その2

3D CAD 実習

開発担当者が利用している最新の3D CADソフトを使い、好きなクルマを立体的にデザインします。



やってみなくちゃ・その3

経理業務実習

売上伝票や発注伝票等の伝票整理や集計表・精算書等の書類作成を行います。



…そんな私たちの貢献活動です。



社会貢献活動の一環として毎年地域中学校、高等学校、高専及び大学の实習受け入れを行い、次世代技術者の育成に力を注いでいます。インターンシップをご希望の学校がございましたらお問い合わせください。



東京の産業教育 第55号 目次

巻頭のことば

「日本を支える有為な人材の育成に向けて」

東京都教育庁教育監 出張 吉訓・・・1

特集 特色ある産業教育を目指して—各校・各学科の取組—

- 1 特色ある産業教育を目指して
—都立高校における農業系学科等の特色ある教育実践及び事例—
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 坂口 雄一・・・4
- 2 地域連携型の学校経営—社会に開かれた教育課程モデル校—
東京都立園芸高等学校長 徳田 安伸・・・6
- 3 総合技術科改編20年を経て
東京都立足立工業高等学校長 小堀 隆・・・8
- 4 「チャレンジ赤商」—赤羽商業高校の取組—
東京都立赤羽商業高等学校主幹教諭 鎌守 真由美・・・10
- 5 特色ある産業教育を目指して—生活デザイン科における取組—
東京都立瑞穂農芸高等学校長 小堀 紀明・・・12
- 6 特色ある産業教育を目指して—『葛飾アントレ』を通して—
東京都立葛飾総合高等学校主任教諭 大宮 理明・・・14
- 7 特色ある産業教育を目指して
—多様化する鉄道ビジネスに対応する実践的で総合的な専門教育を行う—
岩倉高等学校副教頭 吉澤 啓一・・・16
- 8 ICT(情報通信技術)を活用した先進的な教育環境の取り組み
中央学院大学中央高等学校教頭 大橋 治久・・・18
- 9 中学校技術・家庭科 家庭分野の取組
—家庭生活と地域社会とのかかわりを考える学習—
中野区立第四中学校長 佐藤 明子・・・20
- 10 私立女子中学高等学校普通科における園芸教育のとりくみ
恵泉女学園中学・高等学校副校長 松井 信行・・・22
- 11 日本工学院八王子専門学校の『つながる』専門教育の実践
—地域・産業界等との連携教育の事例報告—
日本工学院専門学校・日本工学院八王子専門学校学校長 千葉 茂・・・24
- 12 産業技術高専におけるエンジニアリングデザイン教育
東京都立産業技術高等専門学校 荒川キャンパス教務主事 降矢 典雄・・・26

東京の産業界

- 1 小さな世界企業への途 —1人一人が花になる—
株式会社ハチオウ代表取締役社長 森 裕子・・・28
- 2 地域の皆様からは“セイワ”さんと呼ばれます。
青和信用組合理事長 堀澤 等・・・30

情報スクエア

- 1 平成 29 年度高校生夕張キャンプ第 1 期に参加して
東京都立荒川商業高等学校長 長 江 誠・・・ 32
- 2 平成 29 年度「教員海外産業教育事情研修」報告
―農産物輸出大国オランダの産業教育研究―
東京都立園芸高等学校長 徳 田 安 伸・・・ 34
- 3 フランス政府の招聘による日本の農業高校指導者の
フランス派遣事業に参加して
東京都立農産高等学校長 並 川 直 人・・・ 36
- 4 アジア地区家政学会スクールビジット実施報告
東京都立忍岡高等学校長 岡 島 まどか・・・ 38
- 5 第 15 回創造ものづくりフェア in TOKYO
東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長
台東区立駒形中学校長 瀬 川 眞 也・・・ 40
- 6 第 27 回全国産業教育フェア秋田大会 さんフェア秋田 2017 事 務 局・・・ 42
- 7 第 59 回全国産業教育振興大会（秋田大会） 事 務 局・・・ 43

報 告

- 1 平成 29 年度 総会・講演会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- 2 平成 29 年度 講演会・講演要旨
「イノベーションの先に立つ社会、教育」
首都大学東京学長補佐 川 上 浩 良 氏・・・ 46
- 3 平成 29 年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰・・・・・・・・ 56
- 4 平成 29 年度 東京都産業教育振興会後援事業・・・・・・・・ 57
- 5 平成 29 年度 産学懇談会（第 1 回）・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
- 6 平成 29 年度 産学懇談会（第 2 回）・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
- 7 平成 29 年度 第 28 回東京都産業教育振興会作文コンクール
(1) 入選者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
(2) 最優秀作文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
(3) 応募校一覧・応募数の推移・分野別応募数・応募男女比等・・・ 68

本会の概要

- 1 平成 29 年度 事業経過報告（平成 30 年 2 月 20 日現在）・・・・ 72
 - 2 平成 28 年度 決算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
 - 3 平成 29 年度 予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
 - 4 平成 29 年度 役員、委員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
 - 5 本会会則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
 - 6 平成 29 年度 会員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
 - 7 入会案内・編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
- 広告目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98

日本を支える有為な人材の育成に向けて

東京都教育庁教育監 出張 吉訓



1 戦後の産業教育が果たしてきた役割

戦後日本の復興と産業や社会の発展は、国際社会から「東洋の奇跡」と呼ばれた。その一翼を担ってきたのが、専門高校で学び、様々な分野で日本の経済を支えてきた人々である。この専門高校での職業教育は、戦後の物資が極めて乏しい中で、当時の教員の努力や産業界の協力を支えられながら始められた。そして、昭和26年の産業教育振興法の制定により、専門高校の施設・設備の充実が図られ、実験や実習を積極的に取り入れた実践的な学習が行われるようになった。これらの取組により、専門高校は、経済成長の中で科学技術の振興や中堅産業人の育成などの社会的要請に応えてきた。

2 産業教育を取り巻く社会の変遷と現状

高度経済成長による社会の発展と豊かな生活は、人々のものの考え方やライフスタイルなどに様々な変化をもたらした。

学校教育では、少子化が進む中、高校進学率は昭和30年の51.5%から昭和50年には91.9%に上昇するとともに、普通科高校への進学希望が増えるようになった。また、高学歴志向の強まりと大学入学定員の増加などを背景に大学進学率も上がっていった。一方、専門高校では、専門学科の教科・科目を中心に実践的な教育課程を編成することで、即戦力としての専門的人材を育成し、社会に送り出していったが、東京都においては専門高校への入学希望者の割合は減少していった。

産業社会においても、専門分野の細分化・高度化、職業の多様化など、産業構造の変化と大学進学率の上昇に伴い、採用計画を高等学校卒業者から大学卒業者へ変更する企業が多くなった。しかし、企業に就業した卒業者の数から見れば、専門高校は高等教育機関よりもはるかに多くの人材を輩出し、就職先での活躍を背景に、その後も多くの産業界から専門高校卒業者が求められ、その役割を果たしてきた。

しかし、近年、国際社会の中で変化する産業や企業活動に対応できる人材を十分には育成できていないとの指摘もされている。背景としては、社会のグローバル化などの社会の急激な変化の中で、専門分野における基礎的・基本的な知識・技術に加え、課題を発見

し合理的に解決する能力、職業人としてのコミュニケーション能力、倫理観、産業振興や社会貢献に主体的で協働的に取り組む態度など、必要とされる資質・能力が変化してきたことが挙げられる。

このことは、平成28年12月に示された学習指導要領改訂に向けた答申においても「近年顕著となってきているのは、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきている」と指摘している。

教育行政及び各専門高校においては、これらの状況を踏まえ、見据えるべき社会状況を整理するとともに、産業界で必要とされる資質・能力を的確に把握し、高等学校学習指導要領改訂の機会を好機ととらえ、教育課程の在り方や指導内容・方法の検討、専門性の高い教職員の採用と育成、処遇など、具体的な議論をしていくことが必要である。

3 今後の社会変化について

専門高校が見据えなければならない社会の変化について見てみると、「持続可能な社会の構築」、「情報化の一層の進展」、「グローバル化への対応」などの視点が重要となる。

具体的には、「持続可能な社会の構築」では、安全・安心な農作物や水産資源などの持続的・安定的な生産と供給、地球温暖化防止に向けた環境対策、資源やエネルギーの有効活用や再生可能エネルギーの開発などが挙げられる。また、「情報化の一層の進展」については、IoT技術を活用した機器の開発、インターネット社会におけるビジネスモデルの構築、医療用機器や介護ロボットの開発が考えられる。「グローバル化への対応」では、製品の規準・規格のグローバルスタンダード化、国や地域を越えた人材や資本の流動化などがある。

また、産業界の状況に目を向けると、子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就き、今後10年から20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性があるとの予測も出されている。その背景には人工知能いわゆるAIの急速な発展がある。これからの時代を担う生徒は、AIを正しく理解するための基礎知識を習得し、AIを取り入れた新たなシステムやツールを使いこなす能力を身に付けることが必要となる。その上で、AIでは困難とされる答えのない課題に多様な人々と協働して、より良い回答を見出していく創造力・判断力や人間的なコミュニケーション能力も重要となる。

4 これからの産業教育に期待すること

今後の産業教育では、変化の激しい社会において、本当に必要な基礎的・基本的な専門知識・技術をしっかり身に付けさせた上で、様々な状況に対応できる課題解決力を育成す

る汎用性の高い専門教育に変えていくことが重要となる。

先にも述べたが、社会は予測困難な時代に突入しようとしている。現在、教育している指導内容が10年後に通用する可能性は低い状況にある。専門高校に最新の施設・設備を導入して指導するこれまでの方法は、専門分野が細分化・高度化すればするほど難しくなっている。これからは、ミニマムの基本となる施設・設備を十分に活用して、基礎・基本の専門性を十分に育成し、変化の激しい先端的な専門性は、地域企業や大学等と連携することで、生徒一人一人の適性に応じて育成していくことが重要である。

その一方策として、東京都教育委員会が都立工業高校で導入しているデュアルシステムがある。今後、その具体的な方法を他の学科にも導入していくことを検討する必要がある。また、これまで専門高校で実施している課題研究や国家資格の取得、検定試験、各種競技会への参加などについて、思考力・判断力・表現力など、これから必要となる能力の育成との関連性を明らかにして実施していくことが大切である。さらに、生徒が身に付けた専門性を記録するポートフォリオ評価の活用も検討するべきである。

そして、これらの教育を実現するためには、教員の資質・能力の育成がこれまで以上に重要になる。専門学科の教員研修は、施設・設備の問題や専門の細分化・高度化により、これまで十分には研修が実施できていない。今後は、これまでの企業連携による外部指導員による校内研修の実施や企業・大学等への教員派遣研修など、専門高校における研修の在り方を抜本的に見直し、社会状況を踏まえた体系的な研修を構築していく必要がある。

その際には、中央教育審議会答申にもある「課題の発見」「課題解決の方向性の検討」「計画の立案」「計画の実施」「振り返り」といった学びの過程を大切にした指導を充実し、生徒一人一人に学びに向かう力や人間性、思考力・判断力・表現力、専門的な知識・技術を活用する力の定着と伸長を図っていくための研修体系としていくことが大切である。

資源の乏しい我が国において、国を支えているのは産業でありそこで働く人々である。その産業社会の一翼を担っているのは間違いなく専門高校で学んだ生徒であると確信している。これからも専門高校には、時代の変化を受けとめて課題に取り組み、日本を支える有為な人材を育成してほしいと切に願っている。

- ※ 産業教育とは就職を前提とした職業教育と今日的な専門教育の総称として使用
- ※ 専門教育は特定の職業分野の学習を基本とし、多様な進路に対応できる教育として使用

特 集



特色ある産業教育を目指して

—都立高校における農業系学科等の
特色ある教育実践及び事例—

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 坂口 雄一

1 はじめに

産業構造の変化や科学技術の進展等に伴い、職業人に求められる技術・技能は高度化・多様化しており、これらに対応できる人材の育成が求められている。このような中、都立の専門高校では、社会の変化と期待に応える人材の育成を目指し、生徒の能力の伸長と進路実現を図るため、教育内容等を見直し、魅力ある専門高校づくりを進めていく必要がある。

今回は都立高校における農業系学科等の特色ある教育実践や取組を紹介する。

2 農業系学科等の特徴

東京都で農業科目（園芸系、環境系、食品系、畜産・動物系）を学べる都立高校は、9校（園芸、農芸、農業、農産、瑞穂農芸、大島、八丈、三宅、青梅総合）である。

東京都の農業科における入学者選抜の応募倍率は平成27年度が1.11倍、平成28年度が1.25倍、平成29年度が1.31倍とここ数年上昇傾向にあり、中学生や保護者の関心も高まっている。また、卒業後の進路状況として、他の専門学科に比べ進学率が約6割と高く、就職者の割合が低い状況である。

3 特色ある教育実践

(1) 第3次アクションプラン（全国農業高等学校長協会）

平成18年度に「エコロジカル・アグリハイスクール宣言」を行い、「5つの基本方針」、「10の行動計画」からなる第1次アクションプランを策定し、9校が農業教育において向かうべき

方向性を共通認識して取り組むとともに、平成24年度からの第2次アクションプランでは、生徒の生きる力、心の教育、キャリア教育の充実を図ることを目的として取り組んできた。

さらに、平成29年度からの第3次アクションプランでは「我が国の未来を担う人材を育て地域で活躍させる」ためには、農業高校の価値と役割を考え、「世界規模で考え、足元から行動する学校」に強みがあるとして、新たに「グローバル・アグリハイスクール」を宣言し、取り組んでいる。

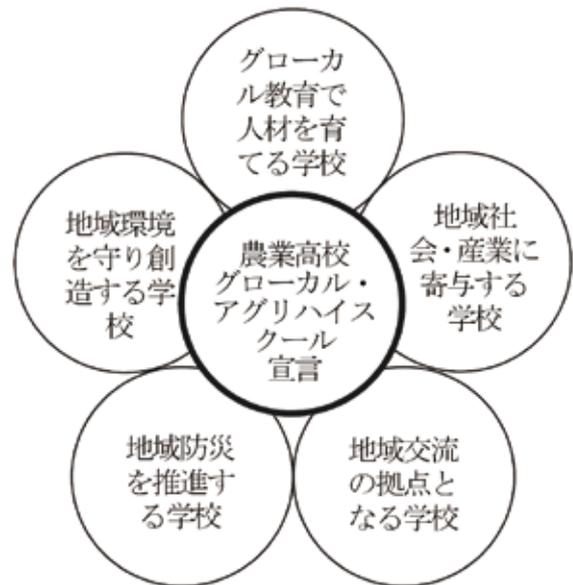


図1 第3次アクションプラン

(2) 技能スタンダード

平成27年度から全ての専門高校で取り組んでいる「都立専門高校技能スタンダード」について、これまでの取組の成果を検証し、産業界が求める技術・技能など、生徒の専門性向上に資する改善を図っている。

(3) アグリマイスター顕彰制度

農業系学科等の生徒が日頃の農業学習や職業資格の取得、技術・技能検定の合格を通して、農業に関する知識・技術・技能を習得し、自信と誇りをもって、産業界で活躍できるよう励ますことを目的として、アグリマイスター顕彰制度を平成28年度から導入し、生徒の専門性の向上を図っている。

(4) 東京都農業高等学校教育研究会（都農研）

平成28年度から、農業高校の教員の資質の向上を図ることを目的として、生物生産部会、資源活用部会、環境部会、教養部会の4部会を新たに立ち上げ、年3回（4月、8月、1月）、総会・研究協議会を実施している。

4 特色ある取組事例

(1) 地域連携、学校間連携

ア 葛飾区の地域団体との連携（農産高校）

どこでも水やりおまかせ型フラワーモニュメント「フラワーメリーゴーランド」を葛飾区の地域団体等と共同で開発し、実証実験を行っている。

イ 荒川区との連携（農産高校）

荒川区と連携を図り、三河島菜の江戸みそ漬けの開発を行い、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け江戸・東京商品の新しい価値を生み出す取組を行っている。

ウ 杉並地域との連携（農芸高校）

杉並地域に多く自生し染料として利用されていた「ムラサキ」（絶滅危惧ⅠB類）の保存活動に地域と連携して取り組んでいる。

エ 瑞穂町との連携（瑞穂農芸高校）

瑞穂町の農業生産者、加工業者等と連携して、収穫された原材料を加工し、瑞穂七色唐辛子を開発し、地元の六次産業化を目指す取組を行っている。

オ 愛知県立安城農林高等学校との連携（園芸高校）

愛知県立安城農林高等学校と学校間連携を行

い、生徒・同窓会・PTA等が参加し稲刈交流等を行っている。

(2) 販売・出展

ア スムージーの販売（農業高校）

スムージーをJAマインズと共同開発し、7月8日（土）、9日（日）に食品科学科、食物科1・2年生が新宿JA東京アグリパークで販売を実施した。

イ 東京都農業祭

東京の農業を広く都民に紹介する「東京都農業祭」にて、収穫した作物の販売を行っている。

ウ 日比谷ガーデニングショー（農産、園芸、農芸、農業）

花と緑に係る技術の向上、人材育成を図ることを目的とした「日比谷ガーデニングショー」に作品を出展している。農産高校（定）が昨年度は農林水産大臣賞を受賞し、今年度は都知事賞を受賞した。

(3) 小笠原体験学習（瑞穂農芸高校）

「生命（いのち）に学ぶ学校」として、小笠原体験活動を今年度から実施し、自然・環境・農業体験を実施している。

5 まとめ

今回は都立高校における農業系学科等の特色ある教育実践などを紹介した。農業系学科等では、第3次アクションプランに基づき取組を行っている。また、関連機関との連携を図り興味・関心を高めるとともに、専門性の高い農業教育を実践し、さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の食の提供に向け、食品の安全を確保するGAP認証取得に取り組んでいる。今後も、地域などとの連携やGAP認証取得などの取組により、農業高校の更なる発展に期待したい。



地域連携型の学校経営

—社会に開かれた教育課程モデル校—

東京都立園芸高等学校長 徳田 安伸

1 はじめに

新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」が眼目である。この「社会に開かれた」とは、地域との連携を重視し、必要に応じて地域の力を学校教育の中に取り入れて生徒を育てる、それを「教育課程」として展開していくことを意味している。幼稚園・小学校・中学校では、高い割合で「社会に開かれた学校経営」がなされているが、高校レベルではまだまだの感がある。

そこで、東京都教育委員会は28年度末に高等学校における「地域連携型の学校経営を行うモデル校（国庫補助事業）」を募集した。その結果、本校を含めた3校（東部・中部・西部の支援センター毎に1校）が指定され、29年4月から2ヶ年間のモデル校事業がスタートした。

2 園芸高校の「地域連携・協働本部」

元来、農業は「地域密着型の産業」である。本校は世田谷に9万㎡の広大な校地（東京ドーム2.3個分）を有する農業の専門高校ということもあり、従前より多様な団体と交流活動を行ってきた。同窓会やPTAは勿論のこと、バラ園協議会、造園教育支援協議会、7校2園協議会、獣医師会など合わせて20を超える団体・組織と連携している。

そこで、本校では今回の都モデル校指定を機に新たに「地域連携・協働本部」を立ち上げた。団体間の連携に「横申し」を通し、相互の連携を強化するためである。去る7月7日には、発会式として第1回協議会を開催した。加盟団体の代表が互いの団体紹介を通して「協働本部」結成の意義を共有することができた。

3 「協働本部」の運営

協働本部には20以上の団体が加盟していることから、それぞれの団体の活動の整理を行う必要がある。そこで部会制とし、以下の3部会を立ち上げた。

- (1) 総務部：NPO法人「園芸アグリセンター」、同窓会、全PTA、定PTAの4団体
- (2) 地域部：地元町会、商店会、若者サポートステーション、国際ソロプチミスト等9団体
- (3) 専門部：東京農業大学、調理師専門学校、造園協議会、バラ園協議会、盆栽協会等8団体

4 司令塔としての総務部の役割

総務部は、本校に日常的に来校されている団体で組織し、協働本部全体の世話役を担ってもらうこととした。中でもNPO法人「園芸アグリセンター」は、本校の誇る社会貢献事業である「三宅島緑化プロジェクト」の支援を15年近く行っており26年度には都からの表彰も受け、本校最強の支援組織である。

同窓会は、来年度開催する「創立110周年」記念事業を現在進行形で進めている。本校の百年ハナミズキの原木苗を全国関係機関に贈呈したり、米国ワシントン州ポトマック河畔公園でイベントを開き、代表生徒を米国に派遣したりしている。

全日制PTAには雑誌デザイナー等の特殊能力をもった方がいらっしゃることから、平成30年度向けの「学校案内」を編集依頼した。昨年5月にプロジェクトチーム（PT）を立ち上げ、構成や写真ロケなど約1年間の活動を経て、このほど新装丁の「学校案内」が発行され、学校とPTAの協働事業による「作品第1号」が完成した。

5 教育を支える地域部

地域部は、地域コミュニティーや町会、商店会等をメンバーとしている。地域コミュニティーと町会は、地域のフリーマーケットや神社の夏祭り・古布回収事業などを主催しており、本校生徒も毎年ボランティアとして参加している。

定時制では、毎年地域の独居老人宅訪問を「人間と社会」の授業の一環として行っているが、町会が事前に独居老人の皆様に事前に説明し、話を通しておいて下さることにより生徒たちは安心して訪問することができている。最近では独居老人を招いて「園芸教室」も開催している。定時制には対人関係が不得意であったり、発達に課題のある生徒も相当数在籍していることから、さくらんぼ教室と連携してコミュニケーション上達のための講座も開催して生徒たちの変容に役立っている。せたがや若者サポートステーションには就職につなげるための種々の実践的な来校支援事業（アウトリーチ）をお願いして成果を上げている。

国際ソロプチミストは、国際的な女性の活躍支援団体であり、6月に来校され本校生徒と女子大学生を対象にキャリアサポートイベントを実施して下さった。また、3月には桜に関する交流も実施し、福田康夫元総理も来校されるなどVIPとの交流も実現した。

6 専門技術を深化させる専門部

専門部は専門教育機関と専門技術団体とで組織しており、本校生徒の専門的技術向上を支援してもらっている。

東京農業大学は世田谷区内にある専門系大学で、本校は全国の農業高校の中で最も近い位置に立地していることから、種々の連携交流を行っている。本校生徒が大学の研究室で分析実験を体験させてもらったり、農大生が本校の圃場で農業体験をしたりなど双方向での連携が進んでいる。連携の深化に伴い進学希望者が増え、昨年度は17名が同大学に進学するに至った。

東京誠心調理師学校は本校生徒のダブルスク

ールの受入れ学校である。食品科・調理コースの生徒の希望者（例年7～10名程度）は、2年生になると本校での授業が終わると調理師学校の夜間課程に出かけ週3日、2年間かけて調理師免許を取得する。卒業時には双方の学校の卒業生としてホテルやレストラン、割烹に就職できている。現在、東京2020オリンピック・パラリンピックも近づき、内外の注目度は極めて高い。

造園技能教育支援協議会は、本校OBを中心に組織され、造園のプロである親方衆が直接的に生徒に技術指導を行っている。目玉は造園技能五輪への出場であり、選手は7月～11月の間、土日休日を活用して高度な専門技術指導を受けている。その甲斐あって、一昨年ついにメダル獲得ができた。

バラ園協議会は、バラの普及と本校バラ園の活性化に貢献している団体である。バラの栽培管理に関する授業を本校生徒と共に受けたボランティアとOBにより組織され、土曜日を活用して生徒と一緒にバラ園の管理を行い、年間2万人近い見学者の案内も担当している。本年からはバラ園のHPも立ち上げ、季節のバラを紹介している。

7 まとめ

本校は「園芸・食品・動物」に特化した教育を行う専門高校である。専門技術は主に教員により行われるものであるが、教員の異動や経験年数の程度により指導力は安定的ではない。そこでトップ技術を持った専門集団との連携により専門性が担保され、協働することにより双方により良い結果が生まれる。いわゆるWIN-WINの関係が構築できる。また、急速に増えた多様な特性をもつ生徒たちに相応しい教育環境を整える観点からも、外部との連携は有効である。これからの学校は、そういった適切な外部機関と協働しながら、生徒の前向きな「未来自立」を支援していかなければならない。管理職としても地域連携の「腕の見せ所」の時代がやってきた。

4 メダル協力回収ボックス

昨年度、小池百合子都知事が本校に訪問されたことが縁で、環境局からメダル協力ボックスの依頼を受け、製作を開始しました。

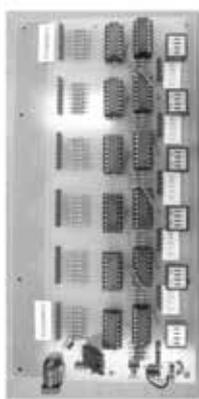
環境局から提示された機能は、該当する小型電子機器を投入するごとに個数を表示する表示ボックスを備えたメダル協力ボックスであったことや製作期間が2週間であることを踏まえ、本体は環境局で製作済みのメダル協力ボックスを参考に新たに製作することとし、表示ボックスの表示部は5桁、個数を感知するセンサーは接触センサー、カウント制御はハードウェアで製作することにしました。

以上を踏まえて製作した第1号機が下図です。

下図の主制御回路は投入口から小型電子機器が投入されことを受け、個数を1つカウントアップした後、それまでに投入された総個数を表示ボックスの表示部へ出力する役割を担っている中心的な回路です。



本体



主制御回路

第1号機の製作に際しては実践的なものづくり技術を試す良い機会であると思い、ロボット製作を主な活動としているマシクラフト部に参加を促し、製作に参加させました。精力的に製作に携わってくれたので、短い納入期日に間に合うことができ、実践力の高さを再認識しました。

第2号機は、第1号機の製作している途中で触発されたマシクラフト部の生徒から企画・設計・製作したメダル協力ボックスを作りたい

という要望があり、第1号機の完成を待たずして第2号機の製作を決定しました。

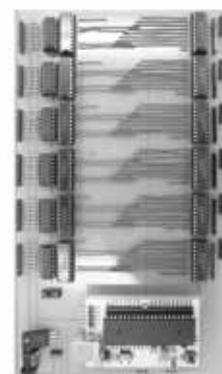
第2号機は第1号機が完成してしばらくしてから生徒との仕様に関する検討を開始し、生徒の希望、第1号機で実現できなかった機能や改良点を含め、第1号機と同様のサイズで新たに製作、取り入れ口はスマートフォン1台程度入れられる大きさにして、取り入れ口に扉をつける、表示部は6桁、センサーは光センサーに変更、カウント制御はソフトウェアに変更することとした。

その製作した第2号機は下図のとおりです。

下図の主制御回路の役割は第1号機と変わっていませんが、カウント制御をハードウェアからソフトウェアに変更したので、制御動作の点検を含めたソフトウェアの開発に多くの時間を費やすことになりました。



本体



主制御回路

5 おわりに

都知事の来校をきっかけとした環境局からの要請で始まったメダル協力ボックスの製作ですが、製作をお受けした目論見通りに、生徒の技術力向上に結びつけることができました。

また、これとは別にオリンピック・パラリンピックへの貢献や環境保全に対して、今後本校がどのような取り組み方で関わることができるかを考えるきっかけになりました。

今後、生徒会を通じて、本校の取り組み方が話し合われることとなります。オリンピック・パラリンピックへの貢献や環境保全への理解度を高めてくれることを期待しています。



「チャレンジ赤商」

—赤羽商業高校の取組—

東京都立赤羽商業高等学校主幹教諭 鍛守 真由美

1 はじめに

本校は、昭和38年に創立された商業高校である。卒業生は15,000人を超え、公認会計士、税理士、会社社長、警察官、教員など多様な分野で活躍する人材を輩出している。

生徒の進路希望を実現するには、組織的・計画的なキャリア教育が必要である。本校では「チャレンジ赤商」のスローガンのもと、特色ある取組を多数行い、平成28年11月、第10回キャリア教育に関する文部科学大臣表彰の受賞校となった。以下、これまでの歩みを紹介したい。

2 規範意識向上推進モデル校

本校の学校教育目標の一つである「知・徳・体のバランスのとれた心豊かな人間を育成」を実現するには、規範意識の醸成が不可欠である。モデル校の指定を受けた期間は平成26～27年度であるが、現在も挨拶、言葉づかい、身だしなみ指導の徹底を継続している。平成26年度以降は遅刻者の増える6月、11月に照準を合わせて「遅刻ゼロ週間」を実施し、遅刻者減少に効果を上げた。

3 国際ロータリーとのインターンシップ実施校

本校におけるインターンシップは平成16年度より始まった。就業先は地元の十条銀座商店街である。当初は生徒会役員10名程度であったが、平成17～20年度は第3学年の「課題研究」として、毎年20名前後の生徒が就業体験を実施している。

平成20年度以降は国際ロータリークラブとの連携事業を開始し、第2学年全員が就業体験をすることになった。中学校での職業体験とは異なり、販売、介護、事務、配送、調理、看護、保険、

証券、銀行、幼児教育、印刷、ホテル、製造、美容、取材見学、国際交流、公園管理、食器洗浄などの多様な職種から将来を見据えて選ぶことができる。

受入先の8割は国際ロータリークラブからの紹介事業所であるが、残りの2割は十条銀座商店街に加えて赤羽スズラン通り商店街、卒業生就職先となっている。卒業生就職先を選んだ生徒には、3年に進級したのち就職活動で同じ企業を受験する者もいる。また、「キャリア教育アンケート」を実施したところ、生徒の64%が「インターンシップは将来の進路選択に役立つ企画である」と回答しており、勤労観や職業観の育成に大きく役立っていることがわかった。



印刷会社における製本作業の体験

4 N I E 推進協議会「N I E 実践指定校」

今年度で2年目となる取組である。平成28年度に本校第1学年全生徒を対象とした「新聞に関する調査」を行ったところ、「自宅で新聞を読んでいる」生徒はわずか4%に過ぎなかった。商業科の核となる経済やビジネスは、社会での出来事や動向と密接な関連を持っている上、入社試験や入学試験で時事問題が出題されることも多い。

このような現状を打破すべく、本校では新聞の常備や推奨図書の選定を図り、防災教育・商業教育・共通教科でのN I E授業・ホームルームでの活用といった4つの角度からN I E活動を実践している。

防災教育では、「科学と人間生活」における「自然災害」の単元で新聞記事を取り上げ、災害の発生現場、時間、規模、被害の状況を読み取り発表させた。「人間と社会」では、被災地におけるボランティア活動の新聞記事を基に「支え合う社会」というテーマを考えさせることができた。

商業教育では、「ビジネス基礎」の夏休みの課題として第1学年全生徒が「一緒に読もう新聞コンクール」に取り組んだ。日常的に新聞に触れる機会のない生徒も食い入るように記事を読み、優秀学校賞と個人優秀賞を受賞することができた。「課題研究・プレゼンテーション」でも、新聞記事から「世の中で困っていること」を探し解決する取組が評価され、東京都生徒商業研究発表大会優良賞受賞、高校生ビジネスプラングランプリベストプラン100に選出、表彰されている。

共通教科の授業では、「現代文」の「銃乱射事件から考える」、「現代社会」の「時事問題について意見をまとめる」、「保健」の「環境汚染・ごみ処理などの記事をまとめる」、「コミュニケーション英語Ⅰ」の「英字新聞を外国人講師が読み、リオ・オリンピックでの日本選手の活躍を聞き取る」などを取り上げた。

ホームルームでは、日直が気になる新聞記事を選び、全員の前で紹介スピーチを行う取組をいくつかのクラスで実施した。他の生徒からの質疑応答も交えた後に、切り取った記事にコメントを添え教室掲示している。

5 総合的な学習の時間

本校では平成14年度より、各学年に週1時間「総合的な学習の時間」を設置した。加えて、学期に4時間以上の進路行事の実施により、キャリア教育にあてる授業時数確保に努めている。

商業高校では就職を希望する生徒が多い。第1・2学年では職業の種類などを学習していくが、本格的に就職活動の始まる第3学年では、北区産業振興課と連携した取組をいくつか実施している。6月には北区発行の冊子「子どもの就職」を保護者会等で配布したところ、就職のスケジュールが理解できてわかりやすいと好評であった。8月には、企業人事に精通した外部講師による北区主催の模擬面接を実施し、内定後は2月に新社会人準備講座を開講し早期離職防止に努めた。

また、12月には東京都社会保険労務士会と連携し、給料明細の見方や社会保険のしくみに関する講演会を実施している。

6 地域に根ざした活動

本校は国立スポーツ科学センターに隣接しているため、毎年10月、体育の日に開催されるスポーツ庁主催の「スポーツ祭り」の運営スタッフとして、生徒会や部活動の生徒が参加している。

8月、10月には赤羽消防署西が丘出張所と連携し、有志生徒等が地域防災活動や、特別支援教育理解啓発推進事業「中部フェスタ」に参加した。

1月には北区健康生きがい課と連携し、「北区みんなで楽しむ食育フェア」に保健委員会生徒が、2月には北区教育委員会と連携し、北区指定無形民俗文化財「道観山稲荷初午祭」に生徒会生徒が参加し、地域文化に触れることができた。

7 おわりに

本校では、全教員が卒業生の就職先やインターンシップ受入事業所への訪問を行っている。平成32年3月の閉校が決定してからは、卒業生就職先企業からは「どの学校から採用すればいいのか」との相談を受け、商店街振興組合から「インターンシップができなくなる」との声を聞いた。新しくできる学校にも、可能な限り、生徒の進路を実現する力を引き継いでいきたい。



特色ある産業教育を目指して

—生活デザイン科における取組—

東京都立瑞穂農芸高等学校長 小堀 紀明

1 はじめに

本校は昭和24年、東京都立農林高等学校定時制課程瑞穂分校として創立、昭和40年に独立して東京都立瑞穂農芸高等学校として開校した。現在は全日制課程に家庭科として生活デザイン科、農業科として畜産科学科、園芸科学科、食品科の3学科、定時制課程に併合科として農業科と普通科を設置する専門高校である。

開校当時から常に地域に密着した教育活動を行い、家庭及び農業の専門教育を積極的に推進してきた。また、社会に有意な人材の輩出を目指す教育理念を受け継ぎ、「生命（いのち）に学ぶ学校」としての特色を生かし、「生命（いのち）に学び夢を叶える ～ Learn about life and realize your dreams ～」をキャッチフレーズに全日制は「わかる」「できる」「つかう」のステップで教育を進めている。

生徒は、家庭および農業に関する専門教育を通じて、一人一人の将来の夢の実現、社会に役立つ人間になることを目指して学校生活を送っている。

2 生活デザイン科の教育活動

(1) 生活デザイン科の目標

生活デザイン科は衣食住、ヒューマンサービスなどに関する職業への関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し活用する意欲と態度を育てること、また、様々な授業や体験活動を通して、自らの生活を豊かにする工夫と努力のできる人材を育成することを学科の目標としている。

(2) 教育課程（平成29年度入学生）

生活デザイン科では、1学年で家庭科に関する基礎的な内容を学習し、2学年から保育・福祉、服飾デザイン、食物・調理の3類型の中から1つ

を選択させより詳しく専門的な内容を学習している。さらに、各類型に関連する資格取得を推進している。

(3) 教育課程 (表中の数値は単位数)

	科目	1年	2年	3年	備考
共通科目	生活産業基礎	2			○
	課題研究			3	○
	生活産業情報	2			○
	子どもの発達と保育		2	3▲	
	リビングデザイン			3▲	
	ファッション造形基礎	2	2	3▲	
	服飾手芸			3▲	
保育・福祉類型	フードデザイ	2	2	3▲	
	子ども文化		2	3	
	生活と福祉		2		
服飾デザイン類型	手話			2	■
	ファッション造形		4	5	
食物・調理類型	食文化			2	
	調理		4	3	

○必履修科目、■学校設定科目、▲印から1科目を選択

(4) 保育・福祉類型の主な取組

子どもや高齢者、障害者に関する学習を通して「人とのかかわり」について学習している。「保育」では、パネルシアターやおもちゃの製作、人形劇の製作を行い文化祭（以下瑞高祭）で披露している。また、近隣の保育園や幼稚園に訪問し園児と手遊びや運動の補助、弁当を持参し昼食と一緒に食べるなど体験的に保育について学習している。



「福祉」では、補助具を実際に付けての移動や

車いす、白杖を使って校内の移動を体験することで、高齢者や障害者が生活するうえで感じている状況を体験し、相手の立場に立った接し方を学習している。さらに障害者ケアの専門スタッフによる訪問入浴やベッド上の洗髪などの講習も体験している。

また、保育技術検定4級・3級、手話検定5級の全員取得を目指して取り組んでいる。

(5) 服飾デザイン類型の主な取組

被服に関する基礎的な技術と知識を学ぶことを目的としている。

2学年では浴衣製作、セミタイトスカート製作、デザイン画実習、製図実習を通して服飾の基礎技術を習得している。3学年では2学年での知識技術をもとに、ウェディングドレス、フォーマルドレス、スーツなどの製作やCADソフトを使用した製図実習を行っている。

11月上旬に実施する瑞高祭では、3年間の集大成として自作のドレスやスーツでファッションショーを行っている。ファッションショーは3学年が中心となって2学年と協力しテーマの決定、ポスターの作成やBGMの選曲、ライティング等の演出まで行っている。1年生の希望者も出演している。

また、被服製作技術検定4級、3級の全員合格を目指して取り組んでいる。



(6) 食物・調理類型の主な取組

食物や調理に関しての基礎的な知識や技術を専門的に学習している。

2学年では、味噌や豆腐等の加工食品についてや和菓子、洋菓子、中国点心の製造、テーブルコーディネートについて学習している。3学年では日本料理や西洋料理、中華料理の調理やマナーに加え世界の食文化を学ぶことを目的として世界各国の料理や郷土料理についても学習している。

瑞高祭では、食物展として研究成果を発表するとともに、3年生が講師となって料理教室も実施している。

また、食物調理技術検定4級、3級の全員合格を目指して取り組んでいる。



(7) 学校家庭クラブ活動と地域連携

学校家庭クラブ活動の一環として地域社会との交流や社会奉仕活動に努めている。瑞穂町総合防災訓練に3年前から参加し、小型消防ポンプ（D級ポンプ）による消火活動の演習を行い高い評価を得ている。

校内で出るペットボトルキャップの回収活動を行っている。これらは、NPO法人を通して現金に換金し世界の子どもたちのためのワクチンや地雷除去の資金として使われている。また、社会福祉法人東京都共同募金会が実施している「赤い羽根共同募金」の募金活動にも参加している。

生活デザイン科として農業科と協力し瑞穂町「シルバーまちかど」でハンドベルの演奏やエプロン販売を行っている。

3 結びに

生活デザイン科で学ぶ生徒は入学前から保育士になりたい、ファッションショーに参加したい、調理の専門的な勉強がしたい等、明確な目標を持っている者とそこまでの目標は持っていない者がいる。しかし、本校の学習を通して人の命や糸が布になることを学び、食育の中で自らの興味関心を高め、将来の明確な目標（夢）を持つことができている。日常生活や身の回りのことを科学的にとらえよりよい生活を創造することを学習の根幹としている家庭科教育には生徒の成長を支援する力があると考えます。本校に入学した生徒全員が夢を持ち、その夢を叶えるための教育に全力で取り組みたい。



特色ある産業教育を目指して —『葛飾アントレ』を通して—

東京都立葛飾総合高等学校
総合学科推進部 主任教諭 大宮 理明

1 はじめに

東京都立葛飾総合高等学校は、平成19年東京都の東部地域に初めて誕生した全日制の総合学科高校である。江戸川と中川のせせらぎに囲まれ、緑豊かな水元公園に隣接した恵まれた自然環境の地にあり、「進取創造」「自主自律」を校訓に掲げている。生徒一人一人が興味・関心や進路希望に応じて、多様な普通科目・専門科目・学校設定科目の中から、自ら科目選択して時間割を組み立て、自己の個性や能力を伸ばして進路希望の実現を目指している。

本校の特色のひとつは、3年間を通じてキャリア教育を学ぶ時間として「キャリアコアタイム」を設けていることである。キャリアコアタイムは、1年次の「産業社会と人間」、2・3年次の「総合的な学習の時間」で構成されている。この時間は自分の個性を探究し、学ぶことや働くことについて理解を深め、自分の将来をデザイン・計画するための「自分のコア（芯）」をつくることを目的としている。具体的にはグループでの話し合い活動やプレゼンテーションを行ない、調査研究の方法を学び、自分で課題を設定して解決する、といった学習活動を通して「総合的学力」を確実に身につけていくことを目指している。1年次「自分を見つけ、夢を創る」、2年次「自分と向き合い、夢を育てる」、3年次「自分を活かし、夢をつなぐ」ことをテーマに3年間の教育活動を行っている。

2 「葛飾アントレ」とは

1年次では入学後すぐに「葛飾アントレ」という新入生宿泊行事を行ない、キャリア教育の出発点として「自分の人生を切り開くために『高校三年間ですべきこと』は何か」について考える研

修を行なっている。「葛飾アントレ」とは葛飾総合高校でアントレプレナーシップ（起業家精神）を養うきっかけとするため名付けたものである。その後、学びとは何か、仕事とは何かを理解するとともに、自己理解を深め、自分の進路のための情報を活用する能力を高めることを目指している。

3 「葛飾アントレ」の活動について

メイン研修テーマ「自分の人生を切り開くために『高校三年間ですべきこと』は何か」について、人生の先輩方のアドバイスを参考に、“なりたい自分”になるためにどのような高校生活を送っていけばよいのか考えることで、高校三年間のイメージ作りと目標設定をする。

(1) 事前研修（入学前課題）

(a) 保護者をはじめ、人生の先輩に高校時代の夢や目標、実現するための困難や乗り越えるため努力したことなどを2人の方にインタビューをする。(b) インタビューをもとにその感想をまとめる。

(2) 事前研修

(a) クラス内研修グループごとに、インタビューの感想を発表する。(b) 各自の感想からメインテーマにつながる【自己の主張】を考える。(c) それぞれが発表した内容を付箋に書き出す。(d) 意見を整理し、グループディスカッションを通して仮説を立てる。(e) 各グループで訪問する事業所を分担し、事業所概要などを調べる。

これらの研修は入学直後に行われ、大切な位置を占める行事である。宿泊を伴うため、生活指導

も含め、指導する教員が同じ姿勢で生徒と向き合う必要がある。新学期早々、引率の担任・副担任が何度も会議を開き、共通理解を図っている。

(3) メイン研修 (アントレ中)

(a) 事前研修でグループごとに立てた仮説を実証するためのインタビュー項目を検討・決定し、練習する。(b) グループメンバーが別々の事業所を訪問し、インタビュー調査を行う。(c) グループに戻り、各自のインタビュー結果を報告し合い、グループの主張をまとめる。(d) グループ毎に主張をプレゼンテーションする準備・リハーサル、クラス内でグループ毎のプレゼンテーション大会を行い、代表グループを選出する。(e) クラス全員で代表グループのプレゼンテーションをより良いものに仕上げた後、最終日にクラス代表グループによる全体プレゼンテーション大会を実施する。



【研修中の生徒の様子】

生徒や担任・副担任も入学してすぐの2泊3日の研修であるため、現地で新たな発見をすることにもなる。短期間だが、時間が経つにつれてお互いを知ることができる。生徒たちは皆、研修グループのメンバーとコミュニケーションを図り、意見交換をし、課題解決に向けて話し合いを進めていく。事業所訪問では、社会人の方から課題解決に必要なアドバイスをもらうためのインタビュー内容を考え、実際にインタビューをすることになる。自分のグループの課題解決のためのアドバイスを懸命にメモをとる。次々と追加の質問をする様子から真剣に取り組む気持ちが伝わってくる。

社会人にインタビューをするという初めてのことを通して生徒には総合的な学力が身に付いていく。それぞれの事業所から戻ると、仮説に対してインタビュー結果を踏まえた検証を行い、

結論を導く。最後に参加生徒全員の前で全体プレゼンテーションを行いメイン研修が終了する。プレゼンテーションの提示資料は、手書きでイラストを描くなどして見やすいものを作成する。クラス内でアドバイスをしながらアイデアが浮かび、劇を取り入れたり会話形式にしたりといった創意工夫を見せるグループも出て、生徒の持つ能力に感心させられる。短い間に、1回目にはうまくいかなかったことも、次回には修正し、成長していく生徒の様子を目の当たりにすることができる。



【最終日全体プレゼンテーションの様子】

【平成 29 年度葛飾アントレ訪問施設】

山梨県立富士湧水の里水族館	山梨赤十字病院
富士が「ラント」トギパーク	シチズン電子
山梨県富士山科学研究所	富士河口湖町役場
松山油脂株式会社	富士急ハイランド
河口湖北原ミュージアム	河口湖ハーブ館
レクリエイト「おんみづのさと」	久保田一竹美術館

(4) 事後学習

- (a) 「私のアントレレポート」を作成する。
- (b) 「事業所への御礼状」を郵送する。

4 まとめ

1期生からスタートした「葛飾アントレ」であるが、11年後の現在もその主な研修内容や研修で身に付けさせているスキルは開校当初のときからほぼ変わっていない。この行事は葛飾総合高校生にとって、自分の将来像を見つめる第一歩となっている。「葛飾アントレ」が行われた後は、「キャリアコア1 (産業社会と人間)」を中心に本校のキャリア教育が進んでいくことになる。



特色ある産業教育を目指して

— 多様化する鉄道ビジネスに対応する 実践的で総合的な専門教育を行う —

岩倉高等学校副教頭 吉澤 啓一

1 はじめに

本校は1897年(明治30年)に、日本初の鉄道学校として神田錦町に創立し、その後、1903年に岩倉鉄道学校、1948年に岩倉高等学校へと名称を変え、2017年6月5日に創立120周年を迎えました。「岩倉」の名は、日本の鉄道の発展に大きく貢献し、維新の十傑として知られる岩倉具視公にちなむものです。鉄道運輸業界を中心に21世紀を担う、思考力・行動力に優れた社会人を輩出し、10年後の社会を支える人材の育成を目指しています。

2 2科体制・共学化

2013年度までは、運輸科・機械科・商業科・普通科の4科体制の男子校として入学生を迎えていましたが、2014年度入学生より、機械科・商業科を統合した新たな「運輸科」と「普通科」の2科体制による「共学校」となりました。

運輸科は就職・進学に限らず、一般教養を重要視し、普通科と同様に進学に対応できるカリキュラムの編成をしています。専門教育においては鉄道、工業(技術)、商業(ビジネス)の分野を総合的に学習し、社会の変化に対応した鉄道教育を実践するためのカリキュラムを編成しています。また、企業と連携した課題解決型学習プログラム「企業インターンワーク」やインターンシップ「鉄道実習」も取り入れています。

3 運輸科の専門教育(一部)

(1) ホスピタリティⅠⅡ

駅や車掌の業務を円滑に行うために欠かせない「サービス介助」の内容を中心に学習します。高

齢者や介助が必要な方への正しい知識と理解で、鉄道係員としての心構えを習得します。また、バリアフリーやユニバーサルデザインについて見識を深め、お客さまの立場に立って行動できるスキルと言葉遣いを身につけます。鉄道業界に限らず、幅広い分野で活用できます。

(2) 課題研究

オリジナルな観光企画を競い合う「全国高等学校観光選手権大会」決勝出場を目標に、グループ毎に観光プランを作成します。それぞれの企画についてプレゼンテーションを行い、校内での選考を勝ち抜いたグループがコンテストにエントリーします。全国大会準優勝の実績もあります。また、日本全国の観光地や温泉などの特徴を学習し、旅行地理検定の合格を目指します。

(3) 工業演習B

2年次に工業技術基礎を必修科目として学習し、3年次に選択科目として設定しています。ロボット制御、CAM、鉄道技術の3テーマを学習します。鉄道技術では、台車、基礎ブレーキ装置、集電装置、レール(超音波探傷検査)、踏切保安設備、自動列車停止装置(ATS)などの基礎的な知識を実習で学習します。



鉄道車両用台車

(4) 商業演習A（企業インターワーク）

企業と連携したプログラムです。各企業の一員として課題解決に取り組むことで、自分自身の働く力、生きる力を見つけていくことを目標としています。複数のチームを構成し、各企業から課題を受け取り、協力してアイデアを出し、承認とアドバイスをもらいます。チーム毎にプレゼンテーションで成果を発表し、体験を振り返って、自分たちの力を確認します。

教科	科目	1年	2年	3年
鉄道	営業概論Ⅰ	2		
	旅行実務	2		
	営業概論Ⅱ		2	
	ホスピタリティⅠ		1	
	鉄道概論		2	
	課題研究			3
	運転業務			2
	電車工学			2
	ホスピタリティⅡ			2
	鉄道実習			選択1
工業	工業技術基礎		2	
	工業演習B			選択2
商業	情報処理	2		
	簿記		2	
	商業演習A		2	
	商業演習B			選択2

4 インターンシップ「鉄道実習」

キャリア教育の一環として鉄道企業において「鉄道実習」を実施しています。インターンシップと位置づけており、鉄道会社への就職を希望している生徒や、企業でのインターンシップを希望する生徒を対象に、鉄道各社で駅業務全般を体験します。主な内容は旅客案内業務ですが、施設や研修所の見学などをすることもあります。多くのお客様が利用する駅の旅客案内等を通じて、駅業務や鉄道業務全般について、学内の授業で学んだ

知識を実際の現場で体験学習することができます。また、この実習により生徒自身のコミュニケーション力を高めることも目的としており、今後社会人になるにあたっての円滑な人間関係の構築、人格の形成に役立つと考えています。鉄道実習は学校設定科目とし、卒業認定単位に含める選択希望科目1単位とし、事前指導・インターンシップ・事後指導等を含む35時間で実施しています。評価方法は5段階評価とし、教員による巡回、実習駅からの報告・提出物等により総合的に判定しています。今年度は170名が参加します。

◎ご協力を頂いている企業

東日本旅客鉄道(株)【首都圏の各支社】、東海旅客鉄道(株)、東武鉄道(株)、東京地下鉄(株)、小田急電鉄(株)、京王電鉄(株)

本校で実施しているキャリア教育の一部を紹介致します。

- ・3年生就職内定者、OB、外部講師による講話
- ・校内開催の企業説明会
- ・就職試験対策講座、面接練習会 など



インターンシップ「鉄道実習」

5 おわりに

運輸科では、多様化する鉄道ビジネスに対応するための鉄道業務を総合的に学びながら、サービスや旅行・観光分野の見識も深めています。また、様々な進路指導を通じて、生徒一人ひとりの夢を具体化し、現実へと近づけ、行動力を引き出すための岩倉独自のサポート体制が整っています。



ICT（情報通信技術）を活用した 先進的な教育環境の取り組み

中央学院大学中央高等学校教頭 大橋 治久

1 はじめに

本校は1900年の創立以来、建学の精神『誠実に謙虚に生きよ 温かい心で人に接し 奉仕と感謝の心を忘れるな 常に身を慎み反省と研鑽を忘れるな』の下、倫理観を持った誠実な人間の育成を指導理念として、人格教育を実施している。

110年を超える歴史と伝統の中で、温かく家庭的な校風を一貫して持ち続けている。

生徒一人ひとりときちんと向き合えるよう、本校は少人数を採用している。少人数のクラス編成による、お互いの顔が見える距離での丁寧な授業と、生徒の抱える疑問や悩みを素早くキャッチし、きめ細かな対応を心がけている。習熟度別授業や特別講習は、更に徹底した少人数で授業を展開するなど、生徒一人ひとりの興味・関心・能力を見極め、秘めた可能性を引き出す成果を得た。

日々の学習に集中することは勿論、部活動やホームステイ、学校行事による多くの体験を積み、他人への気配りといたわりが出来る人材を育成し、社会に送り出している。

私たちは、保護者・生徒・学校の三者が一体となった有意義な学校生活を送れるよう教職員一同日々努力している。

2 三つの教育目標

- I. 懇切丁寧な教科指導によって、知性を磨き、人間としての教養を身につけさせる。
- II. 自主的な学習活動によって、能力や適性に応じた個性を伸ばす。
- III. 実践教育によって、社会で活躍するための技術を身につけさせる。

3 ICTを活用した教育環境

本校では平成29年度より教育・学習ツールとしてタブレット端末を導入した。授業・自学自習・コミュニケーションの活性化などに幅広く活用しており、生徒一人ひとりがこれからの社会に必要とされる。

学習意欲、思考力、判断力などの向上につながる環境で学習に取り組むことができる。

学習支援システムClassiを導入して、授業・生徒指導や生徒の予習・復習・自宅学習をサポートする。

授業用の教材や動画の配信、webドリルによる自宅学習、メッセージ機能で先生との質疑応答など生徒の学習をしっかりとサポート。データ・メッセージのやりとりもでき、グループディスカッションやプレゼンテーションなどコミュニケーション能力の向上と協働性を育む授業も活かせる。

4 ICT機器を活用する教科・科目

外国語…国語や外国語における板書の時間は、授業全体に占める割合が極めて多い。しかし、板書の代わりに英作文をダウンロードし、画面に直接添削することで授業の効率化を図ることができる。これにより目を通すことのできる情報量そのものが増加する。また、同時に読み上げる音声も添付することにより、各自のペースで何度も聞き直すことが可能となる。

継続的にタブレット端末に音声を録音することで、発音の上達具合を自分で確認でき、苦手な発音も修得することが期待できる。

国語…評論文の読み取りに生徒のグループ活動を取り入れ、互いに読み取ったことや、考えたことの根拠を示しながら意見交換をさせることによって、文章の構成や展開についての思考を深めさせる。また、小論文における問題に対し、裏付けとなる資料を収集・選択・読解し、自分が論ずる際の根幹をまとめることに活用する。

数学…生徒は数学における作図、グラフを書き込むことに慣れていない。授業の中でこれらに多くの時間を費やしてしまい、本来の演習や新たな問題の発見に到達しにくい。そこで、グラフ作成ソフトを介し、効率よく正確に描くことを学ぶ。これにより、数値の変化とグラフの変化を視覚的に捉え、視覚情報として数多く修得することにより、それらの関連を身に付けることができる。

地歴公民…プレゼンテーションソフトで静止画を提示することで、時代の流れ、出来事を視覚的に把握させることができる。また、教育番組や市販の教材DVDを活用することによって、興味関心がたかまり、生徒の理解がより深まる。

理科…タブレットの特性を生かし、実験室内でカメラ、ビデオ機能を使って実験結果だけでなく、観察の過程や経過を記録する。撮影した写真やビデオをレポートとしてまとめ、他の班と比較、共有しやすくなる。難しい操作や実験開始後に手順が分からなくなった場合に繰り返してみることができ、電子黒板等の一斉視聴教材に比べ、生徒各自の個別対応に向けている。また、実験レポートなど従来の文字で表すだけでなく、自分たちの実験の様子を動画に収め添付したり、結果を教科書の値との比較など、より実践的なものをまとめることが可能となる。

商業・情報…簿記は、商業科の必修科目となっているが、上級での検定合格は十分とはいえない。検定を合格するためには多くの時間を費やし、問題に慣れる必要があるが、それらを手助けしてくれるのがタブレット端末のアプリといえる。すべての授業の最後に、復習をしたり時間の制約の中で正答率をあげていくことが可能となる。

情報処理の教科は情報モラルや法律上の問題など、タブレット端末を今後使用する上での基礎を学ぶ。ICT教育の中で最も重要である「情報リテラシー」は、情報機器を活用し主体的に情報の持っている性質を見極めたり、積極的に扱うことのできる能力を向上させる。

5 本校の進路指導

本校は生徒一人ひとりの個性を活かした少人数教育と進路指導の徹底により、生徒の適性を活かし、希望する将来へつながる大学・短大・専門学校へ送り出している。

普通科の進学率は95%で、幅広い進路に配慮して1年次は確実に学力の向上をはかるため、放課後に特別講習を実施。大学受験で重要科目となる国語と英語の授業をフォローしながら、漢字検定・英語検定への基礎学力をしっかりと身につけさせて、教育効果を高める。

商業科の進学率は85%と非常に高く、本校は学校法人中央学院の一員であるので、千葉県我孫子市にある中央学院大学の商学部・法学部・現代教養学部の3学部への優先入学が可能である。高校と大学は7か年の連帯教育の構想をもち、個人の能力が厳しく問われる21世紀のビジネス分野で活躍できるよう配慮している。更なる知識と技術を高めるべく商学部等の経済系へ進学するケースが近年多くなってきた。また、就職希望者は年々減少の傾向にある。100年以上の伝統を誇る都内屈指の商業教育のノウハウをもとに就職対策も万全である。

6 最後に

2020年度から変化する大学入試。グローバル社会で求められる思考力・判断力を求められる時代になった。ICTを活用することにより、これからの社会に対応した「情報を生かし、判断し、自ら考えていく力」を強化していきたいと考える。



中学校技術・家庭科 家庭分野の取組 —家庭生活と地域社会とのかかわりを考える学習—

中野区立第四中学校長 佐藤 明子

1 はじめに

中学校技術・家庭科（家庭分野）の学習は、現行の学習指導要領では、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくする能力と態度の育成を重視している。

また、家庭分野の内容は、小学校家庭科の内容との体系化を図り、中学生としての自己の生活の自立を図る視点から、①家族・家庭と子どもの成長、②食生活と自立、③衣生活・住生活と自立、④身近な消費生活と環境の4つで構成され、すべての生徒に履修させることになっている。

そして、社会の変化や科学技術の進展に伴い、家庭生活も大きく変化しているが、これらの変化に主体的に対応し、よりよい生活を創造するためには、人間が生活するよりどころとなる家庭や家族の機能を理解するとともに、家族とのかかわりの中で衣食住などの生活を自立して営む力能力と態度を身に付けることを必要としている。

特に中学生期は、生徒が生活の自立を目指す中で、人々に支えられて生活していることに気付くことや自分も家庭生活を支える一員としての自覚をもち、生活をよりよくしようとする態度を育成することが大切である。そのためには、生徒が家族・家庭や衣食住、消費・環境などの内容について個別にとらえるのではなく、生活全体を見通し、総合的に課題をとらえて課題を解決する方法を見いだすなど、よりよい生活の実践に向けて学習を進めていくことが重要である。

2 「家族・家庭と子どもの成長」の学習

この学習内容は、①自分の成長と家族、②家庭と家族関係、③幼児の生活と家族の3項目で構成されている。

少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応し、幼児への理解を深め、子どもが育つ環境としての役割に気付く「幼児触れ合い体験」は重要視され、その効果は幼児に対して肯定的なイメージをもったり、生徒自身が自己有用感を高めたりする等、学習による効果が明らかにされてきている。その一方で、家庭や地域との連携、家族や地域の人々との協力によって家庭生活が成り立っていることを考えていく学習は比較的少ない状況である。

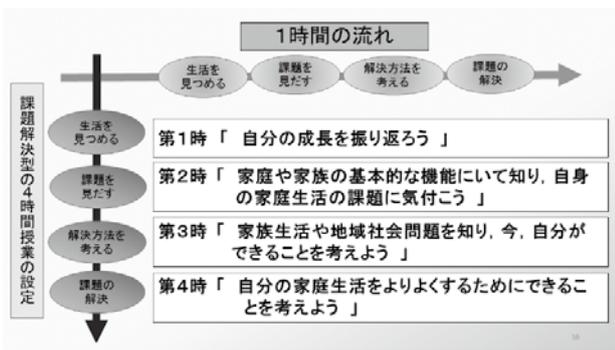
東京都中学校技術・家庭科研究会では、この状況を踏まえ、「家庭生活と地域社会とのかかわりを考える学習」について研究を進めている。

家庭生活を営む上で生じる問題を見いだして課題を設定し、自分なりに判断して解決することができ、すなわち課題解決的な学習過程を用いた実践についてここに紹介する。

3 実際の指導（全体4時間扱い）

(1) 4時間の題材構成

第1時	現在の成長を振り返り、他者との関わりを見つめる。
第2時	家庭・家族の基本的な機能を理解し、自身の家庭生活を振り返り、課題を見いだす。
第3時	地域社会における身近な課題とその改善策をまとめ、現在の自分ができることを考える。
第4時	これからの家庭生活をよりよくするために、大切にしたいことについて、自分なりの価値観をまとめる。



3 学年間にわたる家庭分野の指導計画に基づき、本研究の題材「家族・家庭生活に関する学習」の授業時数を4時間と捉え、題材構成を工夫した。

家族や地域社会の一員として家族・家庭生活を考えるためには、地域社会での支援や家庭生活を取り巻く状況から課題を見だし、その課題の解決方法を考えることが効果的であると考え、4時間には、課題解決型の学習（生活を見つめる→課題を見出す→課題の解決方法を考える→課題を解決する）を設定した。

(2) 事例〈第1時〉「自分の成長を振り返ろう」

ワークシートを活用し、まず個人で整理させ、その後、エピソードをグループで共有させ、今日の生活に至るまでに家族等、自分とかかわる人に支えられてきたことに気付かせるようにする。

《学習展開》

- ①誕生から今日までを見つめ、どのような人とかかわり、支えられてきたか等を思い出す。
- ②自分の成長の振り返りから、どのような人と触れ合い、支えられてきたかを気付く。
- ③グループワークから、自分は様々な人やできごとに支えられ、成長してきたことに気付き、家族や地域社会と協力できることを考える。
- ④この学習を通して、自分が実践できそうなことや考えたこと、気付いたことをまとめる。

(3) 事例〈第3時〉「家庭生活や地域社会に関する問題を知り、今、自分ができることを考えよう」

第2時までの生徒の学習意欲の高まりを活かし、事前に家庭生活に関することや関連諸機関等の新聞記事を集めさせる。本時では、まず、新聞記事から家族や家庭生活、地域社会等、身の周りにどのような課題があるのかを調べさせる。次に、生徒にとって最も身近である家族についての課題に焦点化し、グループで話し合わせる。その際、話し合いが円滑に進行するようにホワイトボードやICTを活用する。その後、課題の解決策や課題の発生の防止策等の対策をまとめ、家族や地域社会の一員として、家庭生活をよりよくするために今の自分ができることについて発表させる。

《学習展開》

- ①家庭生活や地域社会を見つめ、自分の身の回りで起きている課題について気付く。
- ②地域社会の課題とその状況を知り、今の自分ができることを見出す。
- ③グループ発表において、地域社会における身近な課題を共通理解し、実現できる対策を考える。
- ④地域社会における身近な課題と対策の提案を受けて、今、自分ができることをまとめる。



ホワイトボードにまとめ、発表



グループで共有後、学級全体で確認

4 おわりに

本実践では、課題解決型の授業を連続して設定したことにより、多様な価値観に基づき、課題の発見や解決方法を考えさせることができた。今後も、題材構成や学習方法の工夫により、家族・家庭の機能について理解を深めるとともに、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくする能力と態度の育成を図っていきたい。



私立女子中学高等学校普通科における 園芸教育のとりくみ

恵泉女学園中学・高等学校副校長 松井 信行

1 はじめに

恵泉女学園中学・高等学校は世田谷区にある私立の女子校で併設型中高一貫校である。創立は河井道が1929年(昭和4年)牛込神楽坂に設立した女学校で、翌年、校地が手狭になったため現在の世田谷区船橋5丁目に移転した。現在一学年は5クラス編成で約200名、全校1200名が在籍する。創立当時より生徒全員に「園芸」が必修として課されており、現在は中学1年生、高校1年生(4年生)で週1回2時限続きの授業が必修、高校2年、3年で選択として行われている。

創立者の河井は伊勢神宮御師の娘として生まれた。御師制度の廃止により、家族と共に北海道に渡り、スミス女学校(現在の北星学園)に入学、クリスチャンとなった。その後は新渡戸稲造と知遇を得て渡米、プリンマー女子大に学び、帰国後は津田英学塾(現在の津田女子大)やYWCAで働き、51歳で恵泉女学園を設立した。

恵泉女学園が「園芸」を必修とするのは河井の北海道でのSarah C. Smithとの出会いに始まる。Smithは園芸を通して自然に親しみ、創造主が造られたものをどのように利用して生活を豊かにしていくかを幼い河井に教えたといわれる。この感化は河井が長じても消え失せることはなく、設立した学校には「聖書・国際・園芸」という三つの教育の柱を据えたのである。このためその後設立された、短大、大学でも学問専門領域が異なろうとも全学生に「園芸」を必修とした。そして学園草創期には石井勇義、岡見義男、山口美智子ら園芸担当教員と共に河井自ら園芸の授業に参加し農作業に勤しんだ。このSmithから学んだ園芸は必ずしも生産を主たる目的とするのではないという特徴を持っている。生活の中で

「園芸」を楽しみ、生産物を日常生活の中で利用していくこと、労働を厭わず協力して働くこと、そして人間の思いを越えた自然の営みに感謝して目を向けることを主軸に据えた教育である。



草創期の授業 河井 道

2 教科としての園芸

園芸は「総合の時間」や「理科」ではなく、学校設定教科として位置づけられている。圃場は校内及び近隣に3か所の圃場があり、ミカン、ブルーベリーなどの果樹類も栽培している。

授業は1クラスを2分級して20人程度で行っている。一年生で栽培するのはジャガイモ、ダイコン(大蔵大根)、ミズナ、バジル、コムギ、ワタ、一年草草花(12種)、ムスカリ、原木シイタケなど、4年生(高1)



ミカンの収穫

で栽培するのはジャガイモ、ダイコン、ポップコーン、カブ、ルッコラ、ラッカセイ、一年草草花(24種)、菌床ヒラタケなどである。収穫したものは持ち帰り家庭で消費することもあるが、コムギは千歯こぎで脱穀、唐箕で選別したのち、

二年生の家庭科においてスコーンなどの材料として使われたり、ワタをスピンドルで紡いで糸づくりを体験する。イチゴの鉢栽培を観察した後、イチゴジャム作りを体験したり、一年草草花を播種から花壇づくりまで体験したのち、押し花作品に利用するなど、全て生活の中で用いること、用いられていることを確認した授業展開となっている。



唐箕を使った小麦の選別

4年生では一年生のカリキュラムを深め、品種の早晚性、加工技術の難易度の変化、草花栽培の総仕上げとしての花壇設計など内容を深めるように工夫をしている。また、選択教科として5年、6年生には圃場作業を中心に行うクラスと、校内の緑地管理を通して園芸技術を学ぶクラスが設置され、生垣の剪定、芝の管理なども学習している。また、教科以外でも2年生は夏休みに山梨県の牧場で乳牛の世話をする体験をし、牛舎清掃を行い、堆肥を作り、冬季に学校の圃場に散布している。また3、4年生の希望者は夏休みに青森県の牧場で作業を行い、鶏を解体しカレー作りを行う。このように多くの体験プログラムを有している。スタッフは専任教員3名、非常勤講師2名、助手(アルバイト)2名、圃場管理2名で行っている。

3 普通科教育としての園芸教育

上記のような内容で「園芸」教育を行っているが、本校は総合学科や農業科ではなく普通科の中で教科として園芸を展開しているに過ぎない。高等学校卒業後は全員が大学に進学する中であってこの園芸教育はどのような意味を持つのであろうか。進学先決定において農学(畜産・獣医を含む)系に進む生徒の割合は他の私立女子高に対して若干高いことは事実である。しかし恵泉の園芸がもたらす教育的な効果は必ずしも大学進学における学部選択にあるのではない。現在、「新しい学力としての三要素」として十分な知識・

技能と共に、必ずしも正解のない問題に答えを見つけ出すための思考・判断・表現力、さらに多様な人と協働して学ぶ態度が提示されているが、恵泉の園芸教育にはこれらの内容が既に内包されていると思われる。たとえば一年生のジャガイモ栽培では男爵という比較的栽培しやすいとされる品種を用いるが、班によっての収穫量は異なる。「一生懸命やったからといって収穫量が多いとは限らない」といった不条理は生徒たちにとって自分の作業内容以外にも何らかの予測できない理由があることを知る。また、作業の班分けは出席番号という機械的な班分けとなる、人間関係を構築するのが難しい相手でも、否が応でも作業を分担しない限り仕事は終わらない。はじめは話すことさえしなかった間柄であっても「仕事を進める」の一点で会話を始めていく様は、好きな者同士で物事を進められない社会生活への導入にも



クリスマス装飾品づくり

繋がるように思える。生徒と共に南三陸の被災地を訪れ漁業のボランティアを行うプログラムで、全く漁業の経験のない生徒たちが、園芸で似たようなことを行ったので「できる」と言って作業に加わっていく、授業での経験は本当に微々たるものであるのだが、「やったことがある」という一見過剰な自信は、生徒たちが更なる一步を踏み出しやすくする経験につながっている。一つの体験が経験となり、自信を与えられて次のステップに進んでいく。

4 おわりに

これから本校の「園芸」についてはさらに体系化、文言化が必要になると思われる。しかし、なにも体験したことが無い生徒たちに「体験を与える教育」が普通科教育の枠の中での職業教育への導入として、ひとつの提言となるとも考えられよう。



日本工学院八王子専門学校の 『つながる』専門教育の実践 —地域・産業界等との連携教育の事例報告—

日本工学院専門学校
日本工学院八王子専門学校 学校長 千葉 茂

1 はじめに

「理想的教育は理想的環境から」との教育理念のもと学校法人片柳学園^{*1}が設置する日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校は、学園創立70年以来積み上げてきた教育ノウハウを体系化し、卒業までに学生が身につける「専門力」と「人間力」をステップアップ式で習得する『教育設計図』にもとづき、7カレッジ39学科119専門分野で、実践的な技術教育を行っています。また、地域、産業界、高等学校、大学、さらには学内のカレッジ、学科の枠を越えた連携を通して、まさに『つながる』ことで、主体的に学び、実践力を養うことに全学的に取り組んでいます。



写真-1 日本工学院専門学校 写真-2 日本工学院八王子専門学校

2 テクノロジーカレッジについて

本校でも伝統、歴史のある工業系分野にテクノロジーカレッジがあります。ロボット科、電子・電気科、機械設計科、一級自動車整備科（四年制）、自動車整備科、応用生物学科、環境・バイオ科、建築学科（四年制）、建築設計科、土木・造園科で構成され、すべての学科は2014年に創設された文部科学大臣認定の職業実践専門課程^{*2}の認定を受けています。

国家資格（第一・二級陸上無線技術士、第一・二種電気工事士、一・二級自動車整備士、二級建築士、造園技能士など）を在学中に取得する学生も多くいます。卒業後の進路としては、就職、公務員、大学編入、さらには大学院への進学など

多彩な進路が可能です。また、産学連携企業課題や学科横断「火星移住計画」など様々なプロジェクトにも取り組んでいます。

3 地域・産業界と連携した取り組み事例

本校所在地の八王子市は、2017年に市制100周年を迎え、東京都唯一の中核市に指定されています。市内・周辺部も含め23の大学等があり、全国有数の学園都市です。市内には電気機械・精密機器製造業をはじめ、中小の製造業も多く点在しています。そこで、地元地域・産業界と連携した日本工学院八王子専門学校での取り組み事例を3つご紹介します。

(1) 八王子産農産物の名産化と付加価値向上

八王子という地は、東京都で最も農業生産高が高い農業地域であるにも関わらず練馬大根や谷中生姜のような名産品がありません。そこで応用生物学科では、八王子の農産物の名産化と付加価値向上に向けて取り組みをしています。そのひとつとして、パッションフルーツの名産化に向けた取り組みがあります。そこに、本校が名乗りを上げ名産化に向けた取り組みを農協、生産者と共に進めています。平成29年度で3年目の取り組みとなり、学生による柔軟な発想、研究成果などは生産者の方々の大きな力となり、生産量も大きく飛躍しています。さらに活動の輪が広がり、道の駅や食品会社、商工会議所も巻き込んで一つのムーブメントとなりつつあります。現在は、学生発案の新商品に関しても商品開発が進んでおり、今後も大きな成果が出ることを期待されています。

さらに八王子では畜産農家も存在し、東京のブランド豚である「TOKYO X」を生産しています。

そこで、「TOKYO X」の付加価値向上を目指す方法を学生主体で考え、「TOKYO X」の生ハムを作ることを計画し、現在、学生は養豚場をはじめ様々な施設に足を運び、生ハムづくりを始めています。



写真-3 パッションフルーツ



写真-4 TOKYO X 生ハム

(2)「キャリアデザイン&問題発見・問題解決」ロボット科1年全学生を対象に八王子市内の「ものづくり」系企業12社・1団体と連携、協力のもと、「八王子 未来への共創2017～キャリアデザイン&問題発見・問題解決～」(全6回表-1参照)と題して、シリーズで特別授業を実施しました。キャリアデザイン、問題発見・問題解決を主テーマとして、社会で生き抜く「知識・技術・心」をはじめ、ものづくり業界、中小企業の特長など、五感を通して深く学ぶ場となりました。今後、地域・産学連携による地域発イノベーション創出の一翼を担う役割の一部を本校の学生たちが担っていくことを考えています。

(3)「産官学」連携によるキャリアデザイン

表-1 2017年度 取り組み実績

回数	演題・テーマ	区分
1	職業人としての社会生活 ～人としての成長とは・・・～	C
2	課題を解決する ～課題提示・グループワーク～	P
3	企業・工場見学(9社) (中小企業、ものづくり企業を五感で感じる)	C
4	自立する若い人への応援 ～どのように生きたいか、どのように活かされるか～	C
5	課題を解決する ～プレゼンテーション～	P
6	学生による企業・工場見学(9社)の 報告と意見交換会	C

区分)C:「キャリアデザイン」特別授業 P:「問題発見・問題解決」特別授業

テクノロジーカレッジ全学科1年生対象のキャ

リアデザイン教育と位置づけ、産官学連携の「八王子学～ものづくりの道～」と題して、2016年度(全7回)、2017年度(全8回)に実施しました。講演者は、黒須隆一八王子前市長をはじめ、八王子を代表する産業界・行政の各分野、各世代のリーダーです。八王子の魅力、可能性さらには人生の先輩として、経験や体験談等の白熱した講義をしていただいています。さまざまな連携の効果もあり、八王子市内への就職率も高まっています。



写真-5 授業の様子

4 おわりに

近年、企業が求める人材像も大きく変わってきています。専門知識、専門技術の他にコミュニケーション能力、仕事に取り組むモチベーション、精神力など、「人間力」を重視する傾向が強くなっています。さらに詰め込み型教育の時代は終了し、これからは主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」の視点)を通して、社会に出て役立つ、思考力、判断力、表現力が必要不可欠となっています。『つながる』ことで、主体的に学び、実践力を養う教育的効果は大きく、学生の能力、可能性を最大限に伸ばし、社会で必要となる力を養うきっかけの場となると確信しています。本校は、今後も地域・産業界との連携、また、高等学校や大学などの教育機関との『つながる』教育により、社会に貢献する技術者を育成していきます。

最後になりましたが、ご協力を賜りました地域・産業界、関係者の皆様に謝意を表します。

注*1) 東京工科大学[大田区・八王子市]、日本工学院専門学校[大田区]、日本工学院八王子専門学校[八王子市]、日本工学院北海道専門学校[登別市]、東京工科大学附属日本語学校[大田区]

注*2)「職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する」ことを目的とし、カリキュラムの編成や授業内容、教員研修などにおいて、各分野の企業と連携しながら実施することが認定要件



産業技術高専における エンジニアリングデザイン教育

東京都立産業技術高等専門学校

荒川キャンパス 教務主事 降矢 典雄

1 はじめに

技術者教育プログラムの適格性を国際的に保証するワシントン協定によれば、エンジニアリングデザイン（以後、ED）とは、数学、基礎科学、エンジニアリング・サイエンスおよび人文社会科学等の学習成果を集約し、経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性など現実的な条件の範囲内で、ニーズに合ったシステム、エレメント、方法を開発する創造的であり、また反復的で、オープンエンドなプロセスであると表現されている。工業製品を作り出す過程に当てはめれば、アイデアの抽出から始め、制約条件のもとで、その役割に沿う設計をして、試作を行い、評価検討を通じて、製品化するまでの全段階を指している。わが国の高等教育機関におけるED教育は不十分であるとの指摘もある。更に近年の若手技術者は、「マニュアル等の知識は豊富だが、応用力に欠ける」との意見も聞かれる。こうした背景から、問題発見・課題解決能力の高い技術者の育成を目的したED教育の充実が図られている。

2 エンジニアリングデザイン力の育成

ED教育の導入で期待されるのは、構想力、問題設定力、創造力、表現力の育成である。具体的には、下記の能力を身につけさせることにある。

- 構想を練って表現
- 問題を設定あるいは創造
- 継続的に計画および実施
- 制約条件下で解を見出す
- 工学と技術を総合的に応用

また革新的なものづくりに繋げるために、ED

教育を通じて、

- 必ずしも正解が1つでない課題に対して、実現可能な複数の解を見つけ出して比較・評価できる
 - 製品化に至るまでの全ての段階を総合的に見渡せ、どのプロセスにおいても、改善のためのPDCAサイクルを回せる
- などの能力の修得も期待している。

従来型工学教育とED教育を比較すると、課題、プロセス、評価主体に違いが見られる。

【従来型工学教育】

課題：専門科目毎、単一解となるケースが多い
プロセス：講義、演習、実験実習等で受動的
評価主体：科目担当教員

【ED教育】

課題：専門知識の組合せを含む応用力、複数解
プロセス：グループワーク中心で能動的
評価主体：担当教員と学生

この様に、高度専門技術者育成においてED教育は、生産現場を意識したより実践的な教育手法と言える。

3 産業技術高専のED教育の取り組み

産業技術高専は5年間の本科と、それに接続する2年間の専攻科からなっている。荒川キャンパス本科には、4つの複合型教育コース（情報通信工学、航空宇宙工学、ロボット、医療福祉工学）があり、また専攻科には4つの教育コース（機械工学、電気・電子工学、情報工学、航空宇宙工学）がある。本科においては、コース独自のED教育の試行はあったが、平成26年度カリキュラム改訂後、荒川キャンパス4コースの第4学年（現

4年生)にED教育科目が配置された。専攻科においては、平成26年度よりED教育が行われており、平成29年度に正式に専攻科エンジニアリングとして科目が独立している。

(1) ED教科の進め方

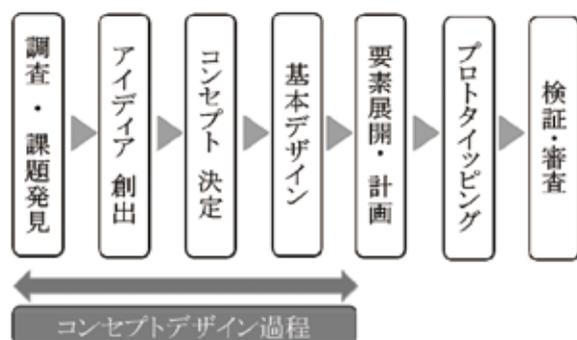


図1. ED教科の基本的な進め方

ED教育の組立ては図1に示される。学生に大きな課題を与え、直接解決すべき課題を見つけさせ、グループワークを通じて解決策を求め、そのコンセプトを決定した上で、基本デザインを形で表現するまでの過程をコンセプトデザイン過程と言う。EDを展開するには、背景となる工学的知識が要求されるのは勿論であるが、加えてコンセプトデザイン過程を機能させるには、予めED的な思考の下地を作る必要がある。

(2) ED体験

第2学年で試行したある教育コースでの導入教育を紹介する。積極的参加を促すために、コンテスト形式を取っている。テーマは、“エッグキャッチマシンコンテスト”で、課題は“エッグチョコ(以下エッグ)を高さ2mの所から落とし、床に割らずに置く装置”の開発である。予め創造物を形にできるだけの資材を用意し、それぞれの資材には値段を表記しておく。使用できる工具はカッターとはさみに制限して、資金と開発時間に制約をつける。更に“エッグは落下後に、床に直接接触した状態でなければならない”等のコンテストルールを紹介後、アイデア出しからグループ内コンセプト決定、アイデアスケッチまでコンセプト決定からまで90分、アイデアを形で表現する課程に日にちを跨いで180分で実

施している。コンテスト形式としたことで、学生のモチベーションが高められ、コンセプトデザイン過程の鍛錬として有効であることが示された。

(3) 専攻科ED教育

平成28年度の課題は“高専の魅力を伝えるアイデア製品”である。高専の魅力を見直すため、本科1年生へのヒアリングから始めている。4グループはそれぞれ、“人の役に立てる技術力”、“ものづくりから得られる達成感”、“機械工学と電子工学が学べる”、“さまざまな機構が学べる”をそれぞれの課題として取組み、“体験型足マウス”、“教材キット[ドリームハンド]”、“エレクトリックタイムアタック”、“部品が浮いて見える時計”と銘打った製品を開発している。大凡、前期期間でコンセプトデザイン過程、後期でプロトタイプから検証までを行っている。開発した製品は成果報告会を通じて、第三者(他のグループ学生および教員)による検証・審査を受けている。



図2. 専攻科ED 成果報告会風景

4 今後の取組み

ED教育の難しさは、展開する学年の問題、アクティブラーニングである事、どんな課題を出題すべきか、アイデアの創出を如何にさせるかである。また、グループ間で採用すべき意見、棄却すべき意見を的確に選択できるかと言ったグループワークの難しさもある。今後はED教育指導のノウハウを蓄積すると共に、ED教育方法の改善を図り、学生の問題発見・課題解決能力の向上を一層図って行きたいと考えている。



小さな世界企業への途 — 1人ひとりが花になる —

株式会社ハチオウ代表取締役社長 森 裕子

1 会社概要

戦後の高度経済成長にともない、有害化学系廃棄物による被害が続出し、公害問題として社会を震撼させました。国は公害国会を立ち上げ、それに基づいた法律（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）を昭和45年に制定しました。

その翌年、印刷から廃棄されるフィルムより銀を回収し、銀100%リサイクル事業とともに、東京都内にて有害化学系廃棄物処理の許可を取得し処理工場を立ち上げました。

現在では、試薬、薬品、検査廃液、写真系廃液をはじめ、多種多様な産業で排出される様々な有害化学系廃棄物の処理及びコンサルティング業務を行っています。

2 経営理念

「人」と「信頼」がわが社の財産です。

我々は五訓を実行することで日々理解を深め、仕事を通して成長します。

五訓

1. ありがとう という感謝の心
 2. すみません という反省の心
 3. はい という素直な心
 4. おかげさまで という謙虚な心
 5. 私がします という奉仕の心
- 誠実・熱心 ハチオウの心です。

3 特色

(1) 活樹深根— 1人ひとりが花になる。その根は才と徳、孔子の教えです。創業以来、経営理念を毎日朝礼にて斉唱。考え方・行動の基準にしています。徳のある人財になることは、無形の資産です。

小さな世界企業をめざす

活樹深根



(2) 経営は社会的価値・人財力・科学する力で成り立ちます。社会的価値は幹、有害化学系廃棄物の安心安全の市場を創ることです。人財力はまさしく根っこ。1人ひとりの社員の無形の資産となる心の成長の持ち方を大切にしています。科学する力は仕事のやり方です。目的・目標を明確にします。

- ・時間の管理をふまえて分析します。
- ・問題を発見する、次の対策をします。
- ・時間と数字を基に分析と対策を講じます。

(3) 自分の花を咲かせる。

その軸と基礎ができたところで、自分の得意分野、めざしたい方向性を定めて、自分の花を咲かせます。会社はその環境を整えます。

<福島県復興支援事業地域活動>

福島県の化学薬品を専門とする工業団地の帰還困難区域内で、東日本大震災以来残置されていた化学薬品の搬出準備作業を行いました。大小様々

な容器・タンク等に多品種の化学薬品がありました。容器は劣化が激しく、漏洩の危険性や放射能汚染をしているものも多く、抜き取り・詰替え、梱包等の作業が必要でした。放射線管理と化学物質管理の両方が必要とされる作業でしたが、残置薬品を安全・適切に撤去しました。



<自社工場による無害化処理>

自社工場による多品種の有害化学系廃棄物の無害化処理を行っています。

<大学出向>

国を代表する国立大学・私立大学の環境管理センターへ、有害化学系廃棄物の管理と学生指導を目的として、社員を派遣しています。

4 人財育成

自分の花を咲かせられる人はどんな人でしょうか。自分の花は自分自身の中にあるのは勿論です。

成長できる環境を整える、このことが企業と学校の役割といえるでしょう。

松下幸之助のように、8歳で奉公にあって、経営の神様といわれるところまで成長される方は、その大小こそあれ、他にも事例がたくさんあります。つまり、自分自身の中にある！！というのが正解と思います。

赤ちゃんが産まれるということ、これはお母さんの神通力だけではないといわれます。赤ちゃんもまだ見ぬ世界に向かって渾身の力を振り絞っているのです。

本人の力と環境の力、このことを根底において人財育成の仕組を整えています。これができた時、小さな世界企業として環境問題先進国の日本の一企業として、若い社員が羽ばたく、世界にお

役に立つことができると確信します。

5 青年へのメッセージ

一言でいえばセルフトレーニングです。

自分の桁外れでよいから夢を持つことです。

その夢は、何のためにですか、それが目的です。その目的に目標を持つことです。

その目標に時間を入れます。そこから先はPDCA、仮に20年後このようになりたい、が決まったら、そこからバックキャストです。

10年後、5年後、1年後、6か月後、3か月後、1か月後、1週間後、1日後、今日朝からの1時間毎の目的と目標、やったかやれなかったか、どうして、では次はどうする。

ここまでくればセルフトレーニングの何物でもありません。このことが、自分が所属した組織の目的・目標とバッチリあっていれば、何も言うことはありません。

6 産業界に期待すること、日頃考えていること

最近海外視察をあまりやっていませんでした。しかし、このところ1年半で4回の海外視察のご縁をいただきました。まさしく、もぐら社長だったと反省しました。

弊社の使命である社会的価値、化学系廃棄物の安心安全の市場を創るというテーマにおいて、社会的貢献度を上げるために、世界はけたたましく動いていることを体感しました。

社会（市場）の変化に対応出来る未来創造への体制作りです。

森を見て 木を見て 枝を見て 根を張る
(地球・国・地域、そして暮らし)

その視点で自分は何を大切に今後生きていくのか

会社に応募に来た学生とそんなことを語りあうことができたなら、どんなに楽しいことでしょう。

迎える側の立場として、とてもモチベーションが上がります。



地域の皆様からは”セイワ”さんと呼ばれます。

青和信用組合理事長 堀澤 等

1 セイワの概要

セイワの正式名称は「青和信用組合」で、「限定地域主義」の方針のもとに、営業活動地域とする葛飾区の8町、江戸川区の2町、足立区の5町に8店舗を配し、地域内に居住する約108,160世帯、216,710人の方々と、地域内で事業を営まれる中小企業や事業者、並びにそこに勤務される方々を対象に活動している“協同組織の金融機関”です。

ここまでお読みいただき、初めて、「信用組合」や“協同組織の金融機関”という言葉を目にされた方も多いと思います。高等学校教育までの過程において、それらの教育機会が無いため、大学で専門分野を専攻されたり、ご親族やご友人が“協同組織の金融機関”にお勤めされている場合などを除いては、「信用組合」の生い立ちやその精神についてのご認識が無い方が多数を占めると思われます。そのような背景があつてか、地域の皆様からは”セイワ”さんと呼ばれています。

2 経営理念

『セイワは、「情報」と「頭脳」と「金融」をシステム化し、うるおいのある豊かな地域社会を創造する協同組織の「コミュニティバンク」です。』を経営理念に掲げ、経営方針と共に、地域の皆様などにも「セイワのコミュニティバンク宣言」として公表しています。

経営方針は、『コミュニティバンク・セイワは、地域に居住する人々が生き生きと交流する「地域社会」の利益最優先を唯一の行動方針に掲げ、全ての生活者の豊かな暮らしと、全ての事業者の繁栄を願い、地域社会の“核”となる

「生活総合センター」として機能します。』、『セイワがめざす生活総合センターでは、生活領域および事業経営に関する「情報」発信基地となり、また、家計や事業経営のアドバイザーとして、生活者および事業者の課題を共有し、ともに解決に当たる「指導金融」の実践に努めます。』と定め、「生活総合センター」の機能開発と強化に取り組んでいます。

3 地域社会に共生・貢献

コミュニティバンクとして地域社会に共生し、その持続的な発展に貢献したいと願い、①から④のような『このまち応援活動』のほか、地域の一員として、お祭、盆踊り大会、チビっ子縁日、餅つき大会などの地域行事やイベントにも積極的に参加しています。



天祖神社のお祭り



チビっ子縁日

① 絵画展の実施

コミュニティづくりの一環として、例年、各店舗のロビーにて、絵画展を実施しています。出品にあたっては、店舗近隣の小学校にご協力いただき、主に1年生の生徒さんの絵を展示させていただきました。当組合の店舗ロビーは、地域の皆様のコミュニティスペースとして利用していただけるような工夫をしています。



絵画展の様子

② 体験学習の協力

各店舗近隣の中学校や高等学校からの体験学習の協力要請には、積極的に協力しており、毎年数店舗で、生徒さんが、普段は見る事が無い金融機関の特殊な機械の操作やお札の数え方などを経験されています。



体験学習の様子

③ 学校給食費等の自動振替の受託

店舗近隣の小学校17校の全て、中学校8校のうち5校などの給食費等の自動振替を、子育て支援の一環として、無料にて受託しています。

④ 振り込め詐欺被害未然防止活動

「オレオレ詐欺」等による「振り込め詐欺被害」からお客様をお守りするため、振込などの受付時にはお声掛け、昨年度は11件を未然に防止し、お客様から感謝のお言葉をいただきました。

4 お客様からの信用・信頼を得るために

お客様に対する行動については、全ての職員に対して、次の事を徹底しています。

- ①職員としてふさわしい身だしなみを整え、徹底する。
- ②笑顔で、明るく元気の良い挨拶を励行する。
- ③電話は2コール以内にでる。(待たせない)
- ④一人ひとりが真剣に仕事に取り組み、一所懸命に働いている姿を見てもらう。
- ⑤お客様の立場に立ってわかり易い説明を行なう。
- ⑥お客様との約束は厳守する。
- ⑦経営方針や経営内容をきちんと説明する。

5 「ありがとう」が私たちの誇り・やりがい

お客様から信用され、信頼されるようになり、お付き合いが親密になれば、お客様から「ありがとう」の言葉をいただける機会が増えていきます。その言葉をいただく時が、一番うれしい気持ちになる瞬間であり、やりがいと誇りを実感する瞬間でもあります。

私たちの仕事は、「信用組合」に根付く“友愛の精神”と“相互扶助”の理念のもと、人と人との繋がりを大切にしながら、お客様から感謝され、喜んでいただくことができる“幸せ”な仕事です。

最後までお読みいただき感謝申し上げますと共に、「東京の下町には、こんな金融機関もあるんだ。」とのご認識をいただければ幸いです。



平成29年度高校生夕張キャンプ第I期に参加して

東京都立荒川商業高等学校長 長江 誠

1 はじめに

第6回高校生夕張キャンプ第I期は、自治体間連携モデル事業として、東京都の高校生を対象として、広く夕張市訪問を呼びかけ、夕張市民との交流を深め、夕張市の自然、歴史、文化、施設、産業等を直接体験することを通して、未来への洞察力、発想力、行動力を培うなど青少年の健全育成を目的として実施された。

今年度の全体テーマは「夕張への交流人口の増加と夕張市の活性化」であり、示された課題は「夕張メロンの魅力発信」「新しい「夕張」グルメの提案」「観光資源を活用した夕張のPR方法」であった。参加した10校（12チーム）はこのうち1つを選択して、日頃の学習の取組を発表し、その成果を生かして、解決に向けた提案を行い、提案の実現に向けて取り組む調査研究の内容についてプレゼンテーションを行った。

審査の結果、六郷工科高校、工芸高校、忍岡高校、農産高校、荒川商業高校に優秀賞が授与された。私は団長として、25名の都立高校生、引率教員5名、指導部高等学校教育指導課長を含む事務局6名とともに夕張を訪問することとなった。

2 高校生夕張キャンプ第I期の概要

(1) 行程

〔7月24日（月）〕

羽田空港 - 新千歳空港 - 夕張高等学校（開会セレモニー・夕張高校生との交流会） - 宿舎（ひまわりの宿：元夕張北高等学校） - 夕張高校生との夕食交流会 - 宿舎

〔7月25日（火）〕

宿舎 - 夕張メロン栽培農家での農作業体験 - JA夕張市・選果場見学 - 宿舎（昼食） - JA

夕張市（夕張メロンに関する講習） - 夕張ツムラ（CSRについての講義と工場見学） - 宿舎



夕張メロン農家のビニールハウス内

〔7月26日（水）〕

宿舎 - 各校による現地調査活動 - 宿舎 - マウントレースイスキー場 - 宿舎

〔7月27日（木）〕

宿舎・閉会式 - 石炭博物館見学 - 夕張市農協銘産センター（市場調査・昼食） - 道の駅夕張メロード（市場調査） - 新千歳空港 - 羽田空港

(2) 活動状況

〔第1日目〕新千歳空港到着後、バスで夕張高等学校へ向かった。到着後、鈴木直道夕張市長をはじめ、夕張市議会議員、夕張市体育協会会長、夕張市役所、夕張市教育委員会の皆様とともに開会セレモニーを行った。その後、派遣5校によるプレゼンテーションを行い、引き続き夕張高校生による発表があった。発表後は都立高校生と夕張高校生によるグループディスカッションを行った。場所を変えて夕食交流会があり、BBQでおおいに盛り上がり、初対面とは思えない、期待以上の交流会となった。夜は宿舎「ひまわり」でミーティングを行い、研修内容をまとめた。



毎晩行ったミーティング

〔第2日目〕学校ごとに宿舎を出発し、夕張メロン栽培農家を訪問して農作業等の体験を行いながら、栽培の過程や農家の現状を教わった。また、直接お話を伺いながら、自分たちが提案する企画について意見をいただいた。その後、JA夕張市（農協）に場所を移し選果場を見学した。午後は夕張メロンの栽培方法や、収穫から販売に関する講習と夕張メロン栽培ハウスでの研修を行った。その後、夕張ツムラを訪問し企業のCSR活動の講義を受け工場見学を行った。夕食後のミーティングでは、翌日の調査研究に向けた準備を行った。

〔第3日目〕各校が発表したプレゼンテーションの企画について、探求したり実現性を探ったりするための研究に取り組み、夕張市内各所での現地調査を行った。どの学校も8～12カ所を訪問するという事前計画を達成した。夕食後はミーティングに引き続き、マウントレースイスキー場のナイトゴンドラに参加した。

〔第4日目〕宿舎出発前に閉会式を行った。その後、石炭博物館を訪問し炭鉱の歴史を学んだ。さらに夕張市農協銘産センターを訪問し、市場調査、施設見学、昼食を済ませた。午後は道の駅夕張メロードで販売商品に関する調査活動を行った。帰路は新千歳空港から羽田空港に到着し解散した。

3 まとめ

高校生夕張キャンプは今年で第6回となり、初日の開会式の様子は、読売新聞の夕張版や毎日新

聞の電子版で報道された。

今年派遣された学校は、6月の選抜大会の結果により、多様な専門学科となった。そのため、参加した生徒同士がお互いに学んでいることに新鮮さがあり、自校では学べない専門性に触れることができたことは、4日間を共に過ごす仲間としての相互理解に大きく貢献した。

参加した生徒は、東京都から選抜された代表としての自覚を持ちながら、夕張高等学校並びに夕張市関係者の温かい支援により、大変有意義な調査研究活動を行うことができた。特に夕張メロンのブランド力向上に関する取組は、現地で見聞を広めなければわからないことであった。また、毎晩開催したミーティングでは、その日の振り返りと翌日の確認を行いながら、企画内容の見直しを進めた。また、発表と質疑応答を繰り返し行い、言語活動や表現力の向上を図った。

参加した専門高校生にとっては、自分たちが学んでいる学習内容が、地域の活性化に向けてどのように役立たせることができるかを知る上で、とても貴重な体験となった。この体験を自校に持ち帰り、多くの高校生が地域の活性化に関心をもってもらいたい。さらに、今回のキャンプで学んだことを将来に役立て、やがて社会で活躍し産業界を担う人材に育ててくれることを期待する。

終わりに、夕張市の皆様、関係機関、都教育委員会の皆様に感謝を申し上げる次第です。



夕張ツムラ訪問



平成29年度「教員海外産業教育事情研修」報告

—農産物輸出大国オランダの産業教育研究—

東京都立園芸高等学校長 徳田 安伸

1 はじめに

平成29年11月4日から11日までの7日間、(公財)産業教育振興中央会主催の平成29年度「教員海外産業教育事情研修団」としてオランダを訪問した。本報告は、昨年の本誌第54号「ドイツ」に続く報告である。両国は隣接し教育制度も類似しているが、産業構造は全く異なっている。

この研修は全国の農工商家庭水産看護の専門教科教員が海外研修を通して産業教育の充実に寄与することを目的としたもので、全国から14名が参加した。そこで、我々は「世界第2位の農産物輸出大国の産業教育制度」をオランダで学ぶこととした。



国立美術館前のモニュメント

2 訪問先の状況

オランダといえば、東インド会社など16世紀に世界の一時代を築き、我が国では長崎出島で唯一交易が許された国である。正式名は「ネーデルラント王国」、「低い土地」という意味で、国土の1/4は海拔0mより低い。国土は約4.2万km²で九州と同じくらい、人口は1,700万人である。立憲君主制すなわち王国制で、EU(欧州連合)

加盟国である。EU加盟国であることから貿易・金融・労働・教育等の障壁が低くなり、あらゆる面でオランダの「強み」となっている。

3 研修日程及び概要

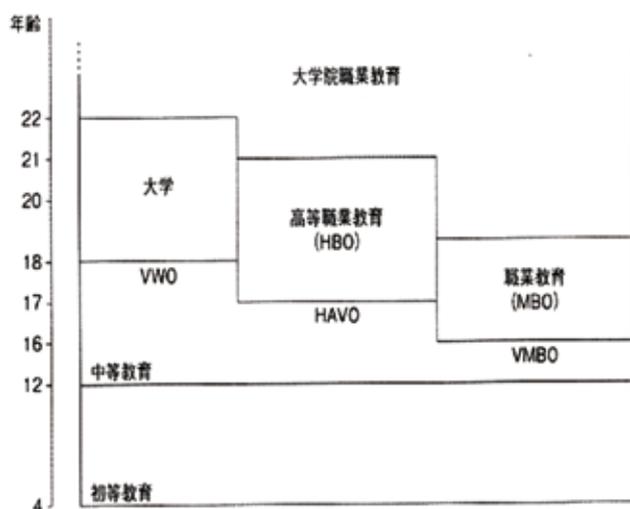
- ・11月5日(日) 結団式(成田空港)
- ・11月6日(月) アールスメール花市場/後期中等教育学校/職業教育機構(SBB)
- ・11月7日(火) 職業教育センター(KBB)/前期中等職業学校
- ・11月8日(水) 専門学科別研修
 - ・農業水産コース(ワーヘニンゲン大学等)
 - ・工業コース(彫金師養成学校/風車村)
 - ・商業・家庭・福祉コース(調理師・介護士養成学校/市立図書館)
- ・11月9日(木) ハイテク園芸施設・大規模農園
- ・11月10日(金)~11日(土) 解団式(成田空港)

4 教育制度

(1) 初等教育

オランダでは、4歳から12歳まで8年間の初等教育が行われ、12歳の時に全国共通学力テスト(CITO)を受け、次の進学先(前期中等教育)を決める。この選択は将来を決める大きな選択となるので十分な三者面談が行われる。担任はその生徒の初等教育8年間の成績と全国共通学力テストの成績とを含めた能力と適性を総合的に考え、それを基に保護者と生徒に適切なアドバイスを行っているということである。オランダの場合他国に比べその後のドロップアウトが少ないという由縁であろう。

(2) 前期中等教育



オランダの教育制度

前期中等教育では、3つのコースに分かれる。①大学準備中等課程(VWO、13～18歳の6年制、図左)、②一般中等課程(HAVO、13～17歳の5年制、図中央)、③前期中等職業課程(VMBO、13～16歳の4年制、図右)がある。さらに職業教育である③前期中等職業課程へは60%が進む。

(3) 後期中等職業教育



VMBO (前期中等職業学校) にて

前期中等職業課程(VMBO)の生徒は、後期課程(MBO)に進む。この後期課程(MBO)は我が国の職業高校(専門高校)に当たると考えてよい。しかし、レベル1+レベル2(修業2ヶ年、職業導入段階+ベーシック・プロフェッショナル段階)、さらにレベル3(3ヶ年)、レベル4(4ヶ年)と生徒の希望により修業年限が異なる。

近年、後期課程(MBO)のレベル2(2ヶ年)までが義務教育となり、前期課程(VMBO)か

ら後期課程(MBO)に進学することが必須となった。

さらに、後期課程(MBO)のレベル3・4では「インターンシップ」が正課として定められており、産業界(企業)との強い連携のもと運営されている。生徒は、職業教育機構(SBB)に認定されている企業で実習を行い、修了しないと「資格証明書」がもらえない。企業は職業教育を修了した「資格証明書」を持っている生徒を採用することになっているので生徒たちは真剣である。また、職業教育機構(SBB)が策定した資格ファイルの中に、能力・技能・心構え等が修了要件として規定されているため、質の担保が図られている。このように産業界の求める人材と学校教育とのバランスが保たれているので、生徒たちは安心して学校生活やインターンシップを受け、職業生活に進むことができる。また、オランダでは「資格証明書」は「よい市民の証明」としても受け入れられている。

(4) 高等教育

高等教育は、①大学準備中等課程(VWO)から大学(WO)に、②一般中等課程(HAVO)から高等職業課程(HBO)に進むが、その割合は合わせて40%程度である。ここでは落第制度もあり、その場合は留年か転学を求められる。

5 まとめ

ヨーロッパのほぼ中央に位置するオランダは、物流の拠点として西欧圏内に陸路・水路で物資を運び、現在でも通商で栄えている。人口1,700万人という小国が、世界最大規模の農産物を輸入・加工し世界第2位と言われるくらい輸出をして国を豊かにしている。オランダは、多様な物資の加工や物流に関係する人材(職人・技術者)を国家的・計画的に育成して「世界一子供たちが幸せな国」となった。特定産業分野に誇りを持った人材を育成する教育制度を構築し、経済的に安定した心豊かな人々を育てる教育制度は多いに参考になった。



フランス政府の招聘による日本の農業高校指導者の フランス派遣事業に参加して

東京都立農産高等学校長 並川 直人

1 はじめに

日本とフランス政府は平成28年12月に開催された「日仏農政ワーキンググループ」において、若手農業者の新規参入の促進について、日仏相互の協力を推進することに合意した。

これを踏まえ、フランス政府は日本の農業高校指導者を招聘することを発表した。フランスの農業教育の現場や、特に持続的農業の実践をはじめとした現状等について学ぶことにより、日本の農業高校における実践的な職業教育の推進を図るとともに、今後の日仏農業高校間の具体的な交流・連携に寄与することが目的とされた。

農林水産省から募集要項が示され、全国の農業系高等学校から42名、8.4倍の応募があり、選考の結果5名が派遣者として決定され、私は団長としてフランスを訪問した。

2 視察日程概要

[5月8日(月)] 事前研修・事業概要説明
農林水産省・在日本フランス大使館訪問
小泉進次郎衆議院議員 表敬訪問

[5月27日(土)]
成田(NRT)→パリ(CDG)(直行便)

[5月28日(日)]
1989年から続くラスパイユのビオマルシェ
(有機農産物市場)の見学、セーヌ川クルーズ

[5月29日(月)]
フランス農業省訪問(フランス農業・フランス農業教育に関するプレゼン) パリ→アラス

[5月30日(火)]
アラス近郊パドカレ県公立農業高校ティロ

イ・レ・モフレイヌ校訪問(地域圏農業局による農業教育の特徴、高校チームによる教育アプローチに関するプレゼン)、アトワラ州で開催中のフードコネクション見学、ジャガイモの種苗選定と生産を行っている施設の見学、農業会議所職員との懇談

[5月31日(水)]

ティロイ・レ・モフレイヌ校舎訪問(高校のプロジェクト、地域における役割、農場見学、養蜂場見学、農場を会場に実施されていた農業展(Tech' iinov)の見学)、地産地消の流通システムの発展に成功した家族経営農場の見学、州政府・県職員との懇談

[6月1日(木)]

酪農を中心としたパドカレ県公立農業高校ラディンガム校舎訪問(農場見学、若者の就農に関する政策、若手農業者の発表、出口会議に向けての意見交換) パリ近郊のサンジェルマン・アン・レーへ車で移動(3時間)

[6月2日(金)]

サンジェルマン・アンレー公立農業高校訪問(午前:高校の取組、農場見学、校内にある直販所見学、午後:今後の日仏協力に関する出口会議) パリへ移動

[6月3日(土)]

オルセー美術館見学、パリ市内見学(花屋、食品店、スーパー、ビオ店舗等)

[6月4日(日)・5日(月)]

パリ(CDG)→成田(NRT)(直行便・機中泊)

3 フランスの農業及び農業経営

フランスはEU最大の農業生産国であり、EUの農業生産額の19%を占めている。国土の54%が農業用地であり、国内総生産の3.6%が農業生産である。EU内で第1位なのが、穀物、肉牛、養豚、ビートであり、第2位のものが酪農製品である。ワインの生産量は世界一である。

農業従事者は約100万人で、約50万の経営体がある。そのほとんどが家族経営である。1戸当たりの平均規模は56haである。農業政策はパリ協定(COP21)、1000分の4土壌イニシアティブ、アグロエコロジー(agro-écologie ;AE)等を重視している。2014年に「農業未来法(農業・食料・森林未来法)」が制定され、今後20年間のフランス農業の方向性が示されている。

4 フランスの農業教育

フランスは普通教育と農業教育を除く他の職業教育は教育省の所管であるが、農業教育のみが農業省の所管となっている。

農業高校は国内に800程度あるが、公立が約1/3、私立が約2/3である。公立農業高校は広大な農場を有している。教育内容は公私に関わらず中央政府と教育課程の確認が行われる。

後期中等教育はリセ(Lycée)と呼ばれ、3年制の教育機関である。3年次の最後に職業バカロレア試験を受ける。バカロレアは後期中等教育と高等教育入学の基礎資格を合わせて認定する国家資格である。近年は高等教育機関に進む生徒が多い。



農業高校を会場に開催された農業見本市の様子

日本の農業高校と異なるのは、高校教育だけではなく、見習訓練生養成施設(CFA)[注:デュアルシステム、職業資格取得を目指し給与あり。]と成人教育(CFPPA)の機能も有しており、農業教育機関、農業教育センターとしての役割を担い、地域農業に貢献している。今回は、ベルギーに近いオードフランス地域圏パドカレ県にある2校、パリ近郊のイルドフランス地域圏のサンジェルマン・アン・レーにある1校の農業高校を訪問した。

パドカレ県の農業高校のうち1校は穀物栽培、もう1校は酪農が中心となっている。日本の農業高校では農場長(東京都は農場主任)は教員が務めているが、こちらの農場長は教員ではない。農場経営を農業経営体と同様に収支バランスを考えながら、実際に農業経営が行われる中で農業教育が行われている。サンジェルマン・アン・レーの農業高校はパリ近郊ということもあり、花き栽培と景観デザインに力を入れており、実績も高い。



パドカレ県公立農業高校校長に農産高校味噌を贈呈

5 まとめ

フランスでは、水利用、水域生態系、生物多様性と豊かな景観、農地土壌の保護、エネルギー制御の改善などを主要課題とし、農薬投入量の低減、有機農業、農業経営の環境認証、持続可能な養蜂などが具体的な行動計画に示されている。農業教育もAEの促進が教育の核とされており、現場での実践が行われていることを見聞できた。

今後は本事業の目的の1つである日仏農業高校間の交流・連携の実現に向けて尽力したい。



アジア地区家政学会 スクールビジット実施報告

東京都立忍岡高等学校長 岡島 まどか

1 はじめに

平成29年8月9日(水)アジア地区家政学会(H29.8.6～10、国立オリンピック記念青少年総合センター)におけるプログラムの一つであるスクールビジットを都立忍岡高校で実施した。

当日は、アジア地区家政学会参加者(海外・日本の研究者、大学生など)が「伝統と革新ー持続可能な社会への家政学の挑戦ー」という大会テーマに基づき、本校の生徒とともに「浴衣の着付け」と「和菓子作り」の授業体験及び施設見学を行い、日本の家庭科教育の現状について視察した。

2 目的

アジア地区家政学会におけるプログラムとして設定されているエクスカージョンの一つであるスクールビジットを忍岡高校で実施する。学会参加者(海外・日本の研究者、大学生、院生など)を対象とした授業体験や施設見学により日本の家庭科教育の現状について、体験を通じて理解を深める。生活科学科3年次生からボランティアを募り、受付や授業体験の補助を担当させることにより、日頃の学習成果発表及び国際交流を経験する場とする。

3 実施の経緯

隔年で開催されるアジア地区家政学会では、開催地の学校を訪問するスクールビジットというプログラムを設けている。今回、東京での開催にあたり、家庭科における専門学科である忍岡高校での実施を実行委員会から依頼された(H28.6)。

実施にあたっては、大会テーマの「伝統と革新ー持続可能な社会への家政学の挑戦ー」に基づき、日本の伝統文化に関わる授業内容にしてほし

いとの要望があった。校内で検討した結果、生徒が主体的にかかわることで、専門学科で培った技能を国際交流の場を通じて発揮でき、今後のキャリア形成につながる経験の場になると考えた。

日本の伝統文化を披露する教材として、和菓子作り体験と浴衣着付け体験の2講座を行うこととした。



ウェルカムセレモニー

4 実施内容

(1) 担当教職員

全体：佐藤(学科主任)和菓子作り体験：笹本・堀井、浴衣着付け体験：岩元・高橋

(2) 準備(生徒事前指導・物品調達・費用)

① 和菓子(どらやき)作り

7月22日(土)と8月7日(月)に試作品を制作した。材料の調達は忍岡で行い、一人当たり300円を目安に材料を購入し、後日実費を実行委員会が支払った。参加者が着用するエプロンは、本校にあるものを貸し出した。

② 浴衣着付け

事前に着付け練習を4回行った。自分で着るだけでなく、人に着せる練習をして、着付けの技術を習得した。浴衣の調達は、家庭科教員の個人所

有の物を持ち寄り、帯は学校の教材で備えているものを使用した。使用後は、クリーニングをし、その代金は実行委員会が支払った。

当生徒は制服と実習着、浴衣着付け担当生徒は浴衣を着用した。



和菓子（どらやき）作り

7 生徒の感想

○作りやすさを考えながらどら焼きのレシピを作りました。「やさしく混ぜる」を英語で伝えるのがとても難しかったです。言葉の違いはありましたが、楽しく行うことができました。焦げてしまっても、残念そうに「あー、焦げちゃった。」と笑いながら楽しんで下さいました。

○自分ではなく、他の人に着せることにとても不安がありましたが、練習するにつれて、上手くできるようになり、綺麗に着付けができました。

5 当日の日程と内容

	和菓子作り体験	浴衣着付け体験
教諭	1名(生活科学科食物担当)	1名(生活科学科服飾担当)
生徒	11名	11名
主会場	調理室1	和室
10:30		忍岡高校生
11:30	忍岡高校生 学校集合・準備 開始	学校集合・準備 開始
13:30	参加者集合・出発(貸切バス) 国立オリンピック記念青少年センター	
14:15	忍岡高校到着	
	受付:調理室1	受付:和室
14:30	和菓子作り	施設見学
15:00	(調理室1)	浴衣着付け
16:00	施設見学	(和室)
16:30	終了	
17:00	参加者 忍岡高校出発(貸切バス)	
17:45	参加者 国立オリンピック記念青少年センター到着	



浴衣着付け

8 まとめ

本校では、教育目標「国際社会に有為な人材を育成する」に基づき、国際人としての教養を身に付けるため、日本の伝統文化を学ぶ多くの選択講座を設置している。今回は、生活科学科の専門性を生かした交流を通して、豊かなライフスタイル形成と伝統文化のもつアイデンティティについて国際的な視野を持つことができ、スペシャリストの育成に資することができた。



6 実施にあたっての留意事項

体験授業・施設見学は日本語で行うため、各講座に通訳をできる方を配置してもらうよう実行委員会に依頼した。生徒の服装は、和菓子作り担



第15回 創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長

台東区立駒形中学校長 瀬川 眞也

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学校に通う生徒が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、ものづくりの意義を理解するとともに、互いの創造性を伸ばす場として開催している。その概要は、以下のとおりである。

- 1 主催 東京都中学校技術・家庭科研究会
- 2 後援 東京都教育委員会
東京都産業教育振興会
東京都中学校長会
- 3 日時 平成29年11月18日(土)
平成29年10月28日(土) 食部門
- 4 場所 台東区立駒形中学校
女子栄養大学(食部門)
- 5 対象者 東京都内中学校に通学する中学生
- 6 内容
 - (1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト東京地区予選(基礎部門・活用部門・応用部門)
 - (2) 「木工チャレンジコンテスト」東京予選
 - (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選
 - (4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選
 - (5) 生徒作品コンクール東京地区予選
 - (6) 東京都中学校ロボットコンテスト(二足歩行ロボット格闘部門)
- 7 開催へ向けて

創造ものづくりフェア in TOKYO も15回を数え、常連校が定着すると同時に新たな参加校もあり、裾の広がりを感じる。毎年ながら会

場校の校長先生をはじめ先生方には多大なるご理解とご支援をいただいていた開催である。今年度は昨年度同様に主開催会場を台東区立駒形中学校として実施された。駒形中学校会場は、立地の良さと関係する教員の実績と経験が活かされ、会場への機材搬入等準備を順調に進めることができた。また、作品展の事前搬入や当日の会場準備にも会場校との事前打ち合わせを重ね、スムーズに開催へ向けての準備が進められた。今年度も会場日程調整の結果、食部門と日程を分けての開催となった。



生徒作品コンクールは、各地区で選ばれた作品が会場校へ送られてきている。当日持参分も含めて各地区相当分の作品は完成度の高い作品が多く見られ、会場を多めに賑わせていた。

なお大会運営は、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部を中心に駒形中学校会場40名、女子栄養大学会場で20名の体制で進められた。

8 開催結果



る。

<関東甲信越大会に向けての予選大会>

○「創造アイデアロボットコンテスト」

今年の参加者は、見学の保護者を含めると両会場併せて500名を超えた。その内訳と各部門の内容は次のとおりである。

基礎部門：中学校技術・家庭科の授業においてカム・リンク機構を利用した歩



行型ロボット（キットを改良したロボットでも参加できる）を題材として学習を履修した作品部門ある。授業での取り組みを想定して、モータ2個3Vまで使用したロボットで、制限時間内に与えられた課題を解決する対戦型の競技である。タイトルは「はじめてのおつかい2017」、19チームの生徒達が参加した。

活用部門：中学校技術・家庭科で学んだ知識や技能を組み合わせる製作された生徒作品の部門である。モータは4個3Vまで使用でき、制限時間内に7箇所のゴールにボールを入れあう競技である。タイトルは「Put or take color ball」、40チームが参加した。

応用部門：教科で学んだ知識や技能を最大限に発揮して製作されるロボットの部門で、競技内容は紙の筒をゴールにさし、縦・横・斜めのラインを作る競技である。センサなどを利用したロボットによる1対1の対戦型競技で、モータは6個6Vまで使用可能である。タイトルは「つむつむライン」、4チームが参加した。

○当日示された設計図により、決められた大工道具や木工機械を正しく使用し、寸法通り正確に作品



をつくる「木工チャレンジコンテスト」には各地区から選ばれた5名が参加した。

○「生徒作品コンクール」には、各地区で選ばれた技術分野と家庭分野で、授業内・授業外部門の合計100の作品が参加した。今年度も力作・大作が数多く出品された。

○「あなたのためのおべんとうコンクール」は、レポートと写真の応募作品35チームが事前の

審査を経て、当日の本大会は18チームが参加した。

○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール東京地区予選」では事前選考の3校13作品の参加であった。

＜東京都ロボットコンテスト＞

東京都独自として実施したロボットコンテストは、モータ2個を使った格闘型



のロボットで、生徒の関心の最も高い競技である。この競技は900mm×900mmのリングで2足歩行ロボット同士が相撲をとる競技である。90チームが参加した。

9 成果と課題

ものづくりフェア in TOKYO 全体としては、参加生徒もここ数年一定数おり、中学生の技術・家庭科に対する関心・意欲を喚起し、関係諸機関の認識も深められていると捉えている。参加生徒数は全体として昨年度と同程度であり、各校現指導要領下での指導計画・実践も定着してきたものと考察できる。しかし、部門によっては参加校や参加チームが減少しており、今後ルール等をさらに工夫改善して、ものづくりの楽しさや魅力をいかに実感させるかが課題である。来年度のものづくりフェアに向けて、さらに魅力的な事業となるよう授業時数を踏まえたルールや運営方法等を改善することにより、興味・関心・意欲を一層高め参加者を増やしていきたい。開催会場の台東区立駒形中学校、女子栄養大学のご理解、そして東京都教育委員会、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会から表彰状をいただいたことは、フェアの盛り上がりと共に充実し結びついており感謝申し上げます。



第27回 全国産業教育フェア秋田大会 さんフェア秋田2017

事務局

第27回全国産業教育フェア秋田大会（さんフェア秋田2017）は、10月21日（土）、22日（日）の両日、秋田県民会館の他6会場で開催された。

基本理念としては「先人たちが育み継承してきた伝統的な技術と豊かな風土の中で培われた文化にあふれる秋田県から、ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくりの実現を目指し、新しい産業教育の在り方を発見・発展・発信する。」とした。

都産振会員校の出展は以下のとおりであった。

【作品展示】

- 都立荒川商業高等学校：「模擬株式会社レガロ工房の広告企画」
- 都立芝商業高等学校：「福井県池田町との取組と模擬株式会社芝翔の取組」
- 都立新宿山吹高等学校：「情報科の実習における制作物の展示」

【全国高校生ファッションデザインコンテスト】

- 都立忍岡高等学校：「都会」

【全国高校生AIプログラミングコンテスト】

- 都立新宿山吹高等学校

【知的財産に関する研究発表】

- 都立多摩科学技術高等学校：「リモートカメラによる冷凍冷蔵庫内部可視化システム」

【品評展】

- 都立瑞穂農芸高等学校

【展示販売】

- 都立芝商業高等学校：「いけだサンド、いけだスティック、かきもち、能楽の里サブレ」
- 都立園芸高等学校：「ブラックカラントジャム」
- 都立八丈高等学校：「パッションフルーツジュース」

【専修学校ブース】

- 日本工学院専門学校



会場（秋田県立体育館）の様子



都立荒川商業高等学校



都立芝商業高等学校



都立新宿山吹高等学校



都立忍岡高等学校



都立多摩科学技術高等学校

第59回 全国産業教育振興大会（秋田大会）

期日：平成29年10月21日（土）

会場：ホテルメトロポリタン秋田

主催：全国産業教育振興会連絡協議会

公益財団法人産業教育振興中央会

次 第

1 開会のことば

全国産業教育振興会連絡協議会常務理事

富岡 逸郎

2 国歌斉唱

3 挨拶

全国産業教育振興会連絡協議会副会長

杉江 和男

秋田県産業教育振興会会長

猿田五知夫

4 来賓挨拶

文部科学省初等中等教育局

児童生徒課産業教育振興室長 高見 太也

秋田県教育委員会教育長

米田 進

5 講演

演題：「バスケットで秋田を元気に～ゼロからの挑戦～」

講師：水野 勇気（秋田ノーザンハピネッツ株式会社 代表取締役社長）

6 大会決議文協議・採択

全国産業教育振興会連絡協議会理事長

西澤 宏繁

秋田県産業教育振興会常任理事

佐藤 武

7 次期開催県挨拶

山口県産業教育振興会常任理事

伊藤 健司

8 閉会の言葉

秋田県産業教育振興会副会長

有田 正司

【講演要旨】

水野氏は、秋田県を何とか元気にしたいという強い思いから、プロバスケットボールチームを立ち上げた。

その際、心がけたのは地域に密着した「県民球団」を目指すことであった。立ち上げの際は、周囲の理解が得られない中でも、「動けば変わる！」の信念の下、駅前での署名活動などの地道な取組を継続して行い、秋田県初のプロスポーツチームとして設立させた。現在は、bjリーグの1部昇格とファンが選手と一緒に楽しめるアリーナの建設を目標に取り組んでいる。

ゼロから始める時の第一歩の大切さ、地元を大事にすることで地元から支えられるということを改めて学ぶことができる講演内容であった。



講演



大会決議文協議・採択

【大会決議文協議・採択】

新しい時代にふさわしい専門高校、産業教育の一層の充実・振興を期すための下記決議文のとおり、大会決議を行った。この決議文については、文部科学省をはじめ関係する機関等へ提出された。

【大会決議文】

決 議

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の専門学科及び総合学科を設置する高等学校（以下「専門高校」）は、職業に関する専門的な知識、技術・技能を身に付けた人材を育成・輩出することにより、我が国の経済・社会の発展に大きな役割を果たしている。

今日、グローバル化や高度情報化が進展し、世界が大きく変化するとともに国際的な競争も激しくなっている。一方、国内にあっては、急速な少子高齢化の進展による生産年齢人口の減少、若年世代の地方から大都市圏への流出による地域経済の縮小や深刻な人手不足など、様々な課題を抱えている。我が国が、世界に伍し将来にわたって発展し、豊かな社会を築いていく上で、自己の将来の職業について明確な目的意識を持って専門高校で学ぶ生徒達の力は、我が国の成長・発展には欠かせない重要な原動力である。

「全国産業教育振興会連絡協議会」では、全国の専門高校等の生徒達による「第27回全国産業教育フェア秋田大会」にあわせ、産業界と教育界の強い連携のもと、「第59回全国産業教育振興大会」を開催し、我が国が将来にわたって力強く成長・発展し、豊かな社会を築くため、専門高校のより一層の充実・発展に全力を傾け、次の事項の実現に向けて取り組むことを決議する。同時に、国及び地方公共団体等におかれては、我が国の持続的発展の基盤である専門高校の充実に格段の御理解と御支援をお願いする。

一、社会や産業の進展等に対応した実践的な職業教育に欠かせない教育用施設・設備の計画的な整備と充実、少人数指導を可能とする教職員定数の改善、専門教科担当教職員の養成・採用の拡充、社会人実務経験者の積極的な任用、専門教科担当教職員の研修機会の確保など、専門高校における教育実施体制の充実。

一、特色ある教育活動、資格取得等のための検定試験、各種発表会や競技会など、専門高校の生徒達が取り組む活動への支援。

一、就職における採用枠の拡大、地元企業等への就職機会の拡大、女子採用の促進など、専門高校生徒の就職への支援。

一、専門高校での学びを積極的に評価した多様な大学入学者選抜の実施・拡充、専門高校の特性を踏まえた「大学入学共通テスト」の導入、高等学校専攻科からの大学等への編入学の積極的受入など、専門高校生の進学機会の拡大。

一、高等学校専攻科生徒に対する奨学金制度の創設をはじめ、専門高校で学ぶ生徒の保護者の経済的負担軽減を図る就学支援の充実。

一、専門高校に対する理解・啓発を図る「全国産業教育フェア」等への支援と充実、中学生の主体的な進路選択に資するための中学校と専門高校が連携した取組の推進とその支援。

一、中学校や高等学校等におけるキャリア教育の充実を図るための職場体験活動やインターンシップ活動等の一層の推進とその支援。

以上決議する。

平成29年10月21日

第59回全国産業教育振興大会（秋田大会）

報 告

平成 29 年度 総会・講演会 報告

平成 29 年度総会・講演会を 6 月 22 日（木）午後 2 時から、全商会館 3 階中会議室において開催しました。

来賓として公益財団法人産業教育振興中央会専務理事の富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会副会長の高石公一様（都立第四商業高等学校長）、東京都中学校長会会長の岩永章様（新宿区立新宿西戸山中学校長）をお迎えし、出席者は 50 名でした。

開会にあたり、西澤宏繁会長、常任理事の初宿和夫都立学校教育部長から挨拶がありました。

続いて、来賓の富岡逸郎様、高石公一様、岩永章様からご挨拶を頂きました。

次に西澤宏繁会長を議長として議事に入り、事務局から次の 8 件の議案を提案いたしました。

- ・報告事項 (1) 平成 29 年度 会長、副会長の選任結果について
- ・報告事項 (2) 平成 29 年度教育庁内の東京都産業教育振興会役員について
- ・第 1 号議案 平成 28 年度事業報告（案）
- ・第 2 号議案 平成 28 年度決算書（案）
- ・第 3 号議案 平成 28 年度監査報告
- ・第 4 号議案 平成 29 年度東京都産業教育振興会役員（案）
- ・第 5 号議案 平成 29 年度事業計画（案）
- ・第 6 号議案 平成 29 年度予算書（案）

審議の結果、各議案とも原案通り承認されました。

総会資料は会員企業、学校等に配布済みです。

本年度の役員を紹介いたします。

会 長 西澤 宏繁（留任）
副 会 長 金子 昌男（留任）
同 小林 治彦（留任）

同 佐々木 哲（新任）
（東京都立六郷工科高等学校長）

理 事 長 中井 敬三（留任）

常任理事 初宿 和夫（留任）

同 星 政典（留任）



挨拶する西澤宏繁会長

総会終了後、講演会を開催いたしました。講師は首都大学東京学長補佐の川上浩良氏で、演題は「イノベーションの先に待つ社会、教育」でした。参加者は 53 名で、熱心に講演に聞き入っていました。（講演要旨は 46 ページから 55 ページに掲載）



講演する川上浩良氏



講演会・講演要旨 イノベーションの先に立つ社会、教育

講師：川上 浩良 氏
首都大学東京学長補佐



御紹介ありがとうございました。また、本日はこのような機会を与えていただき誠に有難うございます。さて最初にお断りしておきますけれども、私自身は、教育学の専門家ではありません。ただ、前学長のときから入試関連、現学長では学長補佐、アドミッション・センター長を仰せつかり、入試を中心にいろいろと学内業務に当たらせていただいております。そういうこともあり、最近では学内の教育関係にも携わっておりますので、私が感じている教育に関することを少し皆さんに紹介したいと思います。

私自身は、今、東京都のプロジェクトもやらせていただいておりますし、これまでも経産省の国家プロジェクトの代表や、国内外の企業との共同研究やコンサルティングをしております。まずはそういう立場から、最初に日本の企業が今、どのような状況に置かれているかの話をさせていただきたいと思います。次に、今後起こり得るイノベーションについて、化学を中心に話をさせていただき、最後はこれらを踏まえ、これからどういう教育が必要になるのかを、皆さんにお伝えしたいと思います。ただし、これはあくまでも私

の私見です。教育に関しては、皆さん、いろいろなお考えがあるかと思いますが、こういうことを思って教育や研究を行っている人もいるのだと思って、聞いていただければ幸いです。

さて先ず最初に、今後、イノベーションが起きたときに起こるであろう社会の変化をここに示したいと思います。



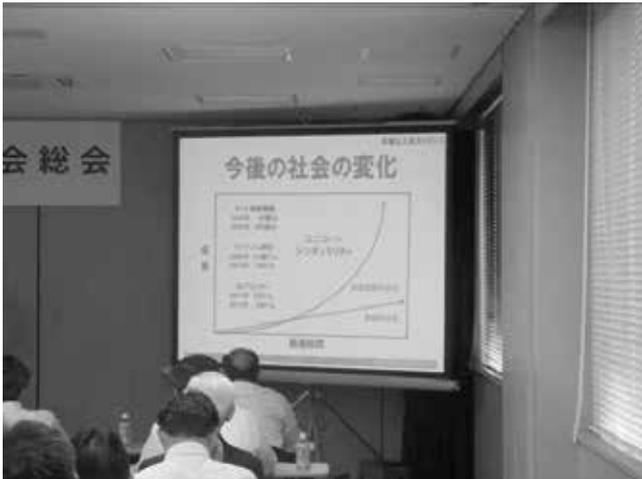
例えば、3番目に今後10～20年後には仕事の50%が自動化されると書いてありますが、実は日本ではもっとその確率が高くなるというふうに言われています。というのは、日本ではアメリカに比べると、現在も相当、自動化が遅れているからです。

それから、国内にいれば英語をしゃべらなくてもよいという時代は、これからなくなると思います。政府は4,000万人の観光客を受け入れるという目標を立てておりますので、当然、国内にいても英語をしゃべる機会が増えてきますし、国内のあらゆるところで外国人と接するようになります。また、日本の労働人口は減るため、外国人を労働者として受け入れる必要も出てきます。

日本に居たとしても、語学としての英語は必須になるでしょう。一方、2020年から大学共通テストでは英語の4技能が導入されるため、もしかすると今後は英語の問題はクリアできるのではないかとも思っています。

さて今世界では何が起きているのでしょうか。私達の頃は社会の成長が直線的であったため、将来の社会をある程度見透すことができました。私も大学を卒業したとき、5年後、10年後はこういう社会が待っているだろうということのある程度予想できました。

ところが今は社会の成長が指数関数的に進むため、5年先も見通せない時代となりました。例えば2000年の頃は日本、アメリカ、イギリスの3カ国で約3,000億円かけて一人一人のDNA解析を行っていました。しかし今は1万円で簡単に解析ができる時代になりました。



3Dプリンターも同様で、当初は購入に400万円ぐらいかかりましたが、今は1万円位で購入できる時代になりました。このように現代はとてつもない速度でイノベーションが起きる時代となっています。

従ってこれからの子供達は、これらの速いイノベーションに対応して生きていかなければいけないということになります。

では、今の日本企業の状況はどうか？これは2000年のときの世界の時価総額、トップテンを示しています。この時代には、3位と7位にNT

T系企業が入っていましたが、2017年の時価総額を見ますと、残念ながらベストテンに日本の企業は1社も入っていません。日本でトップのトヨタ自動車も43位と、今の日本の企業は大変厳しい状況にあります。

それでも皆さんの中には、日本のGNPは世界第3位だから大丈夫を思っている方がおられるかもしれません。しかしGNPは人口の総和で表されています。GNPを一人当たりの平均で見ると、日本はアジアでもシンガポール（2万ドルぐらいの差）に抜かれ、さらに世界では22位という状況です。

平均所得に関しても、これは為替の影響を受けるため若干変わりますが、日本の所得は450万円程度、この値は20、30年前と殆ど変わりません。一方アメリカはこの数十年で右上がりに増えています。従って所得の上がない国日本は、どんどん他の国に抜かれています。1位のスイスになると所得は日本の約3倍近くとなります。

日本が低迷している大きな理由は、情報分野、いわゆるモバイル空間において、イノベーションを起こせなかったことが大きいと考えられています。当然、教育がこの分野を支援できなかったことも大きな原因です。特に大学には大きな責任があるでしょう。1つの理由は、日本の技術がものづくりにばかりに特化していたことです。そのため、情報などの分野で十分な教育がなされてこなかったことが原因です。情報教育の遅れに危機感を持つ文科省は、今後プログラミング教育を低学年時からカリキュラムに入れることを考えています。

それ以外でもプログラミング教育は優れている点があります。それは、プログラミングを行うことで、ものごとを論理立てて考えられるようになることです。これは日本人には欠けているところですので、それを身につけるという意味でも、プログラミング教育は非常に優れた教育ツールになると思います。

結局、こういった将来的に伸びるであろう分野を大学が取り込んで教育をしてこなかったことが、今の日本の大きな遅れの原因になっていると思います。

そして最も大きな問題は、教育は知識を教えること、知識を得ることが重要だという考え方で、日本の教育の根底にあるこの考え方、これを打破しない限りは、やはり他の国に追いついていくことは難しいと思われる。

今、世界を引っ張っている世代は「ミレニアル世代」と呼ばれています。1980年から2000年に生まれた世代で、この世代が世界の中心で、今、世界を動かしています。

この世代の人たちの特徴をここで簡単に述べますと、彼らの考え方、アメリカ、アジア、それからヨーロッパの人たちの考え方というのは、名声より未来の可能性を評価するというものです。彼らは現状より将来をどうするかということを常に考えて、行動しています。

この世代の代表的な一人に、フェイスブックのマーク・ザッカーバーグがいます。彼はハーバード大の卒業式で名演説をしましたのでそれをお読みになった方も多いと思います。彼が常に考えていることは、自分の利益というより、やはり世の中をどうするかということです。儲かったかどうかということより、自分がつくりたい世界、その世界のためにどのように行動するかを常に考えて行動しています。

実は日本にもスポーツ界には大変優れた「ミレニウム世代」が沢山います。ここでは4名を挙げていますが、例えば浅田真央さんは引退してしまった方ですけれども、世界中の今の女子のフィギュアスケートの若い子たちは、みんな浅田真央になりたくてスケートを始めました。それくらい世界に対して、とてつもない影響力を与えるような世代がスポーツ界では沢山出てきています。これからは教育の分野で、こういう人たちを育てていかなければいけないと思っています。

さて、今、実際に世界でイノベーションを起こ

している人は、どういう人達でしょうか。マックス・レヴチンは、PayPal というネット決済システムを作り上げました。彼らは「ペイパルマフィア」と言われ、イーロン・マスクなど多彩な人材を数多く輩出しています。ペイパルマフィアからはユーチューブ、テスラ、スペースXなどの新しい企業が次々と生まれています。

これら起業家の特徴は何か。マックス・レヴチンはイリノイ大学卒業後にベンチャーを立ち上げ、イーロン・マスクは、スタンフォード大学大学院を2日で退学、マーク・ザッカーバーグもやはりハーバード大を退学して起業しています。

これだけ見ると、大学の教育は必要ないように思えます。スティーブ・ジョブズもたしか大学中退だったと思います。ただしこれはこの分野の特殊性もあります。このデジタル空間の部分というのは、早くプラットフォームを作ってしまった企業が一人勝ちするという大きな特徴があります。ちょっと特殊な分野ではありますが、ただ、ここから言えることは、MBAのような直線的な思考力からは、このようなノベーションを起すことは難しいだろうということです。

先ほど言いましたように、今は指数関数的に社会が変化していますので、MBAのように過去のデータに基づく起業では社会に大きなインパクトをあたえるイノベーションを作り出すことはできません。さらに言えることは、イノベーションを起こすことができる人の資質は、知識や資格ではなく、強い好奇心を持っていることが



重要だと思っています。ですから教師は、学生が好奇心を持つような講義をし、それを植え付けるような人材育成をしていく必要があります。好奇心を持てば自発的に主体的に学びを継続的できるようになります。

さて、ここからは今後起きるであろうイノベーションについて、私は化学が専門ですので、化学を中心に私の考えを紹介したいと思います。一つは人工知能。私のいう人工知能というのは、本当に思考的に人に近づいて考える機械ができてくるということで、これらは医療分野や社会インフラなどで広く使われるようになっていくでしょう。

人工知能が社会インフラとして広く普及してきますと、親は子供にどういう教育をさせればいいのかといったことを真剣に考えるようになるでしょう。つまり、今後多くの仕事が人工知能を持ったロボットなどに置き換わるため、子供に要求される能力が変わってくるからです。

それから、ナノテクノロジー、これが今後確実にいろいろなところに導入されます。ナノというサイズは1mの10億分の1ですので、基本的には、分子とか原子を操作する技術になります。ですから学問分野では化学が中心となります。当然、化学がこの分野を先導していくということになるのです。



今後はあらゆる業界、あらゆる企業にこのナノテクノロジーが使われるようになります。これは

完全に化学屋の世界ですので、これからは化学が多くの業界で中心を担っていく可能性が高くなります。ただし、その先を見据えて何が起きるかということ、その先は徐々に生物のシステムを利用した方向に移行していくことになるでしょう。

これまで世界の産業は、物理学を中心として回ってきました。例えば、自動車のエンジンなどはその代表格と言えます。しかし、今後は多くの産業で化学が重要な役割を担うようになります。

先ずエネルギー産業を例に取り上げますと、今後最も求められる技術としては再生エネルギーとなります。例えば太陽光をエネルギーに変える際に重要となるのは、いかに効率的にエネルギー変換できる材料を化学の力で作るかということになります。

医療分野はそもそも化学が活躍してきた業界ですが、今後ますます生物と化学がこれらの産業を支える学問的となるでしょう。また、この分野は一番成長が期待されている産業でもあります。

自動車に関してもこれまではエンジン、いわゆる動力を利用して動かしてきましたが、今後は電気自動車や燃料電池が主流となります。まさに化学エネルギーを使う電池が主役となり、化学が中心となってきます。

このような今後の流れを考えますと、これからの子供にはできれば理科は3教科学んでもらいたいと思います。ただし、化学と生物はかなり親和性が高いので、少なくとも物理と化学はきっちりと勉強をしておいて頂きたい。もし生物が必要になったとしても化学の知識が十分に備わっていれば、対応することはできます。従って理系を志す学生には最低限、物理と化学、これは学んでおいて頂きたいと思います。これからの子供達の人生は100年です。100年安心して生きていくためには、最低限の知識だと思えます。

さて今後の日本の大きな関心事としては少子化の問題があります。既に1998年に人口に関してはピークアウトしたと言われていています。多くの方がこの点を非常に心配されておりますが、私個人

としてはそれほど心配はしていません。今世界では、例えばダボス会議での最大の心配事は何かというと、失業の問題です。AIやロボットなどの技術が著しく進んでイノベーションが起きると、多くの仕事が失われ様々な分野で多くの人が職を失うと考えられています。これが今、世界中で最も心配されていることなのです。しかし幸いにも、日本は少子化ですので、ここのリスクが極めて低いと思われます。つまり、日本はこの問題を避けながら発展できるチャンスがあると言えます。個人的には、少子化はネガティブではなくて、むしろポジティブな関係にあると思っています。当然、イノベーションで生産性を上げられるということが条件にはなりますが。

日本のもう一つの大きな問題としては高齢化があります。しかしこれも日本にとっては大きなチャンスです。日本は世界で高齢化が最も進んでいる国の1つですが、いずれ中国、インド、全ての国が同じ道を辿ります。日本は最初にこの問題に直面するのでいろいろな試みができます。ただしこのとき重要なのは、日本でしか使えない技術は作り上げないということです。初めから、世界で共通的に使える技術、それを開発していければ、いずれ日本の技術が中国、あるいはヨーロッパなど、様々な国に技術移転できるようになります。ですから、高齢化は日本にとっては非常に大きなチャンスなのです。人口減少と高齢化というのは、実は日本にとっては、多分これが最後のチャンスかもしれません。それくらいの大きなチャンスと考えるべきです。

さて今後の研究についても大きな変化が待ち受けています。大学での研究、企業での研究、いずれにおいても今後はAIを無視し進めることはできません。既に世界第二のオランダのエルゼビアという出版社は大学あるいは教員に対して、あなた方の研究テーマをAIが代わって考え、それを大学に提案するというビジネスを始めています。要するにAIを使って世界中の研究を検索、その中で重要なものをピックアップし、教員に代わ

って考えるビジネスが始まってきているのです。アメリカの有名大学では既にそれらを活用し、研究テーマを設定し、その研究に投資を始めています。このような現状を考えると、今後どのような研究を行うかを決めることが大変難しい時代になってきています。

唯一言えることは、今後は今以上に本質的な超越域で研究を行う必要があるのではないかと考えています。そして、学生にはそれを見せながら、彼らの好奇心に火をつける。学生の好奇心に火をつけられるような講義や研究テーマを提供していくことができるかどうか、教育面や研究面からも重要になるかと思えます。

次に研究の本質という面から、私どもの研究を例として紹介したいと思います。

遺伝子というのは、ご存知のように4つの塩基配列である、アデニン、チミン、グアニン、シトシンが対になって情報となります。つまり皆さんの遺伝情報を見ると、このA-T、G-Cの配列が重要になってきます。遺伝子診断でも、この配列をもとに病気の原因を特定する、あるいは病気を予知することになります。しかし、実際に病気にかかった時、その原因が遺伝因子にあるのか、環境因子にあるかを判断することは容易ではありません。しかし一般的に遺伝病以外の病気においては多くの場合、環境因子が病気の主原因となります。



しかしそれを証明する方法が1つだけあります。一卵性双生児の成長を観察するという方法で

す。一卵性双生児は全く同じ遺伝子を持っていますので、この人たちの成長を見ることで、病気に至る過程に遺伝因子が重要なのか環境因子が重要なのかを議論することができます。例えば向かって左側の方はすごく活発でスポーツマンなのですけれども、いつもお酒ばかり飲んでいるので、肝炎になってしまった。一方、右側の方は読書家で物静か、しかし余り運動しないことから糖尿病になってしまう、といったことが現実には起きてきます。つまり、同じ遺伝子を持っていたとしても、性格や病歴は全く異なることになるのです。結局、その人がどういう生活を送ってきたかという、環境因子がその人の性格や、病気に至る過程では重要となります。

この環境因子、従来は漠然として科学的にそれを証明することは困難とされてきました。しかし、現在は環境因子は epigenetics として表現されることがわかってきました。epigenetics とは genetics に epi という言葉を付け加えられた言語で、「その上」とか「その後」という意味を表しています。つまり、genetics ができた後の遺伝子、第2の遺伝子と言えます。生活している過程で書き換えられる遺伝子ですので、環境遺伝子を表していると言えます。

Epigenetics の具体的な機能をお話ししましょう。人は生まれた時、幹細胞1個から誕生します。人の体ができ上がる時には、細胞は200種類以上に分化し、60兆個の細胞まで増殖します。ところが、60兆個の細胞内のDNAは同じ塩基配列となります。もしDNAが200種以上の細胞の分化を支配しているならば、細胞は全て同じとなってしまいます。実は epigenetics が機能して200種以上の細胞の分化を誘導しているのです。

少し専門的な話をすると、核の中にあるクロマチン構造が閉じているか開いているかということが情報となり、遺伝子を動かす転写を on にしたり off にして制御しています。その情報がオセロであれば、ある部分を白にする、あるいは黒にすることで細胞の分化を誘導しています。ク

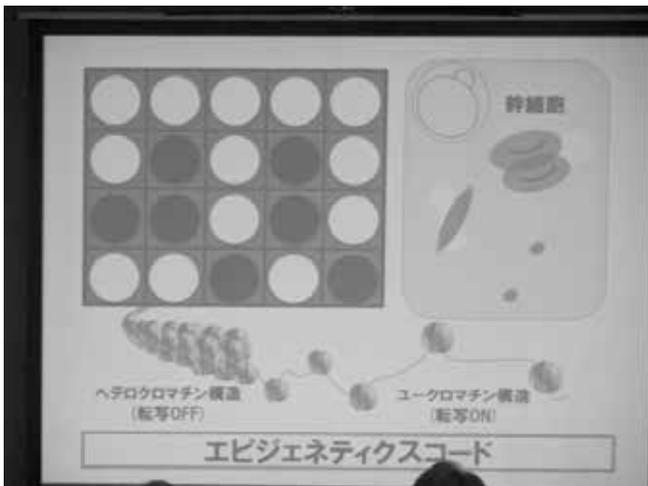
ロマチンはヒストンタンパク質とDNAが巻きついて構成されていますが、ヒストン修飾やDNAメチル化などの因子がクロマチンの開閉を制御しているのです。つまり epigenetics を例えばオーケストラの指揮者に例えれば、epigenetics がタクトを振ると、幹細胞は目的の細胞に変わる、そのような機能を持ち合わせているのです。

つまり、本来閉じてなければいけないものが、例えば暴飲暴食をすることによってクロマチン構造が開いてしまったことで発病することとなります。例えば、本来開いていなければいけないものが、光を浴び過ぎることで閉じてしまったことで病気になるのです。このような環境因子の影響を受けるのが epigenetics です。

また遺伝子との違いは、遺伝子は損傷が起きると、まずは体の中の修復酵素がDNAの修復を行います。ただしそれが可能なのは損傷が軽微な場合です。損傷が大きくなると、修復不可能で元に戻すことはできません。

一方、この epigenetics というのは非常におもしろくて、例えば本来なら閉じておかなければいけないのが、いろいろな生活環境によって開いてしまった、あるいは、本来なら開いておかなければいけないのが、いろいろな生活環境によって閉じてしまった、ということが epigenetics の異常になります。今、我々はこの epigenetics の基本であるクロマチン構造を意図的に開閉できる物質の研究を行っています。この人工的なクロマチン構造制御が可能になれば、クロマチン構造をもとの状態に戻すことができるため、病気を完全に治療する、根治療方が可能になるのではないかと考えています。私たちはこのようなバイオテクノロジーを、私が勝手に名付けていますが、エピジェネティクス工学と呼んで研究を行っています。私達は化学の力を使って、自在にクロマチン構造を制御できるナノ粒子キャリアをつくって、それを様々な病気の治療に応用しています。

まだ細胞レベルでの研究ですが、例えば閉塞性肺疾患 (COPD と呼びますが)、これは不治の病



で現在治す方法はありません。またすごい勢いで死亡者数が増えていて、現在世界第3位の死亡者数となっています。タバコや大気汚染が原因と言われ、日本でも600万人位の患者がいるとも言われています。最近の研究で epigenetics が COPD の原因であることがわかってきました。そこで我々はナノ粒子キャリアを使い細胞レベルではそれを治せる、完治できる可能性があることを世界で初めて証明しました。癌も epigenetics が大きく関わっていることが知られていますが、癌治療においても我々が開発したキャリアを用いれば、全く新しい癌治療法が開発できるのではないかと考えています。

このような本質に迫るような研究が学生の好奇心に火をつけ、彼らの自主性を促し、教育と研究に向かわせると思います。僭越ですが、我々の研究を例に紹介させて頂きました。

さて最後に今後の教育について私の考えをお伝えしたいと思います。

なお、ここからの話は大学での教育が話の中心となります。今、MOOC（大規模公開オンライン講座）というインターネット上で見られる授業が、世界中に配信されています。スタンフォードやハーバード、MITなどが中心となり、主にアメリカから発信されています。MOOCが出てくると、潰れる大学が出るのではないかと多くの大学関係者が心配しています。しかし、基本的にそれら大学は MOOC によって大学を潰

そうといったことは考えてはいません。それでは MOOC を用いて何をしたいのか。大学はその講義の終了証書や単位認定書を出すことによって、大学の価値を上げることができます。つまり MOOC を受けてもサーティフィケートなどの証明書がなければ、それを受けた価値を証明できないのです。先ずはその権利を大学が持つことが重要となります。

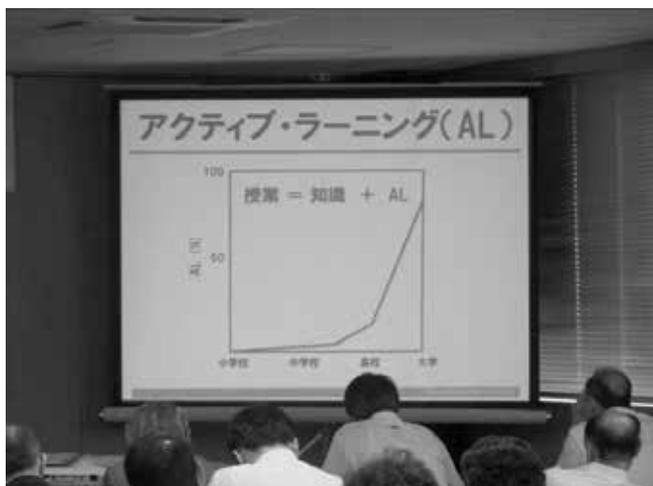
さらに今の MOOC は、学生が講義を受ける前の予習教材として使われています。学生達はこれを見て、授業に臨むこととなります。

さらに人工知能が進むと、当然知識量は教師を圧倒的します。いずれは教師の代わりに人工知能を持ったロボットが講義を担当することになるかもしれません。人は最新の知識量も持つロボットに到底太刀打ちできませんから、そう遠くない未来に実現されることになるでしょう。

ではアメリカの大学では MOOC を利用してどういう講義が行われているのでしょうか。学生達は既に予習で講義内容を全て理解しているため、多くの講義ではアクティブ・ラーニングが行われています。教師はファシリテーターとなり、予習で身につけた知識を使って講義中に与えた課題に適切に答えられるよう指導します。学生達は講義内で課題を解決しその結果を発表、皆で議論することにより課題解決能力を養うように教育されています。つまり今後の教師の重要な役割は、講義全体をコントロールする能力となります。学生の知識は、人工知能やオンライン教育が担うようになります。ですから従来の知識の伝達は、教室へ来る前に既に終わっていることとなります。教師は教室で新たな課題を設定し、学生達は予習で身につけた知識を使い問題を解決できるような能力の習得に時間を割くようになります。アメリカの大学では既にそういう形式に移ってきています。ただし、アクティブ・ラーニングは使い方を間違えると、有効な教育法とはなりません。少し注意点も述べておきたいと思います。

例えば授業が知識とアクティブ・ラーニング

(AL) から構成されているとします。縦軸にアクティブ・ラーニングの割合を示しますと、低学年では、基本的に知識を身につけることに重視を置くべきなので、AL を無理に入れる必要はないと思います。知識が十分に身に付いていないと、効果的な AL 授業にはなりません。低学年での AL は、むしろ子供達の興味を高める講義が有効でしょう。高校でも知識の獲得が先ずは重要なので、多分 AL 導入率は 2 割ぐらいではないでしょうか。一方大学では授業の 70-80% 位まで AL を高めても講義は十分機能すると思います。



今後、子供たちの能力は、どの時期にアクティブ・ラーニングを取り入れる事が出来たかで大きく差が出てくると思います。また、高校でも AL を早期に実施できる高校とそうでない高校の差が出てくるでしょう。いわゆる中高一貫校は高校入試を経ないため、時間的に他の高校に比べれば余裕があります。また学力レベルの高い私立の中高一貫校は早くから AL を導入することができるため、そうでない学校との二極化が今後進むと考えられます。

私どもの分子応用化学コースでも、今年から必修科目全てに ICT を使った予習システムを導入しました。事前に教科書で授業内容を学んでおき、その範囲の試験をウェブ上で受ける、あるいは講義後にウェブ上で試験を受けて復習システムする、などのシステムを導入しました。試験は、複数回受けられるようになっており、その中の最

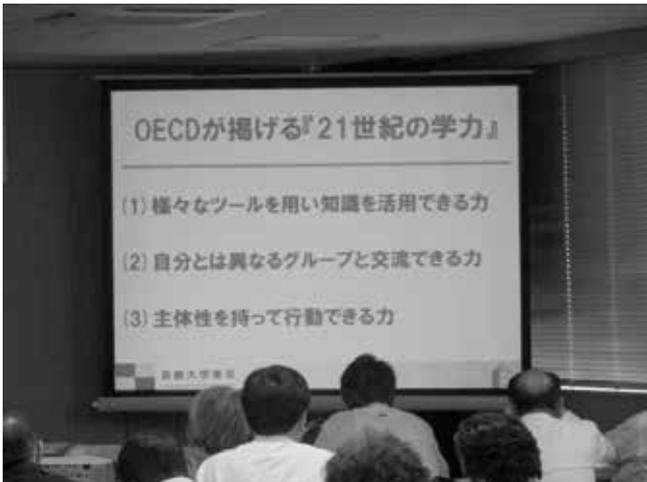
高点が私達のところに送られてきます。つまり講義で知識の伝達を行うような講義をする必要は無くなりました。学生の知識が身に付いたかを知っておく必要はありますので、そのため授業で小テストを行いクリッカーで知識の定着を測るなどの取り組みを行っています。そして先生達は、十分に知識が身につけていると判断すれば、そのあとは AL を実行したり、あるいはもっと高度な内容を講義するなどのオリジナリティーの高い講義を行うことができるようになります。

私達がこのシステムを導入するようになった理由は、『学生が心から学びたいと思わせるにはどのような方法が必要なのか』、ということを考え始めたからです。今の日本の講義のやり方は、試験をやるから勉強させる、という受身の方法で成り立っています。果たしてこのような講義方法で良いのか。このような方法で本当に学生達は社会に出て自らの力で生き抜いていうことはできるのか。しっかりとした環境を大学が整えておけば、学生達は主体的に学ぶのではないか。そのような仮説からシステムを導入しました。このシステムの利点は自主的に学ぶことと、振り返りができるということです。学生達が後で振り返って、わからないところはもう一度学ぶことができます。このようなシステムが、成績不振者も作らないということに繋がるのではと考えています。

これは、なぜアクティブ・ラーニングが効果的な学修方法なのかを示したスライドです。例えば講義で教員が一方的に教えた場合、半年後に学生が講義内容を覚えているパーセントは 5% 程度です。むしろ自分でテキストを読んで勉強した方が、記憶は高くなります (10%)。つまり講義をやるより、自分でテキストを読んだ方が勉強の効率が良いのです。一方、議論に参加する (50%)、体験する (75%)、他の人に教える (90%) などのアクティブ・ラーニングを実践すれば、さらに学修効率は著しく上がります。つまり科学的にも、アクティブ・ラーニングの学修効果の高さが示されています。ただし、アクティブ・

ラーニングを導入したからといって、必ずしも学修効果が上がる訳ではありません。アクティブ・ラーニングは基本的に指導力のある教師が実践した時に、効果がある講義方法です。そのため先ずは、教員の指導力を上げる必要があります。そういった先生が補助的に使うことによって、効果が出るのです。

さてここに今の世界で考えられている学力の定義、OECDが考える定義を示します。スライドには21世紀の学力が示されています。日本のように知識をとにかく言うような国は日本のみで、他の国それを問う国はありません。世界では知識をいかに使うかが重要であり、異なる文化や人種の人達と協調して働くことができるか、また主体性を持って行動できるかが問われています。



ご存じのように、2020年に大学入試が変わります。入試改革の最大のポイントは、知識偏重からの脱却です。また、重要なポイントは高校教育、大学入試、大学教育を一緒に変える三位一体改革にあります。現在、大学入試に関しての関心が異常に高くなっていますが、入試以外の教育、つまり高校と大学の教育改革が実はもっとも重要なことなのです。しかし、入試を変えなければ、結局、高校でどんな素晴らしい教育が行われても、それが評価されなければ、入試に特化した教育になってしまいます。それを避るための入試改革なのです。

3要素を問う新しい入試制度が導入され、その

ような入試が行われるようになると、例えば偏差値などのランキングが意味をなさなくなってくるでしょう。そのため、高校生は本当に行きたいところはどこなのか。そういったことを今後真剣に考えるようになります。さらに、高校時代の活動が入試で問われることにもなります。つまり高校時代の活動が、調査書などを通して入試で評価されるようになるのです。

アメリカの大学が求める学生、例えばスライドにあるようにMITやハーバードでは、高校活動を問う入試が行われており、インタビューを通して生涯をかけて社会に貢献できる人材かどうか、などが問われています。単に試験の点数が高い人が合格するわけではありません。アメリカとかヨーロッパの考え方は、大学に入れるという基準さえクリアしていれば、あとは、面接とか小論文を通して、厳しい大学の講義についてこれるか、この学生を教えてみたいか、などを基準として選考されます。



さて、時間がなくなってきましたので、ここからは英語の4技能の重要性について話をしたいと思います。これは、私が考えていることですので、必ずしも全てのことに当てはまりませんが、英語4技能のもっとも重要なことは、世界中の人達と英語を介してコミュニケーションが取れるようになるとうことです。当たり前のことですが、実はこのことはこれからの子供にとってはとっても重要なこととなります。日本語

だけだと、どうしても日本人とのコミュニケーションに限定されるため、考え方やアイデアは限定されたものとなります。学問をする上でも、あるいは仕事をする上でも、日本語に限定された世界では多くの人々が視野の狭い考えに行き着いてしまいます。一方、英語を介せば、世界中の人達と議論ができ、その結果、思いもつかない新しいアイデアを生み出すことができるのです。



さて、これからの子供は確実に人生100年時代に生きることとなります。そうすると定年は80歳、彼らは何度も職を変え働き続けます。そういう時代では、大学で得た知識は直に賞味期限を迎え価値を失うこととなります。では、そのような社会で生きていく上では何が重要なのでしょうか。もしそのように問われれば、私は『主体性』だと答えます。これからは短期間でイノベーションが起こるため、それに対応するため一生学び続けなければなりません。そうするとやはり主体的に学ぼうという意思を持っているかどうか、今後生きていく上での一番重要な能力、あるいは学力と言えると思います。まさに文科省が新たに定めた学力の3要素が重要となるのです。

それからこれからは、文系理系にかかわらず、STEM能力が必要になると思います。ここでSはサイエンス、Tはテクノロジー、Eはエンジニア、Mはマスマティクスを表し、世界中の先進国、アメリカもヨーロッパも、この教育に子供のときから力を入れるようになってきています。これか

らの社会では、テクノロジーと関わりなく生きていくことはできません。文系であっても避けられません。従って、最低限のSTEM能力が必要となってきます。

そして最後に今後重要となるであろうと私が考えることは流動性です。日本では、一生1つの会社で働き続けることが価値あることと言われてきましたが、そのような価値観は捨てるべきでしょう。私は研究室を卒業する学生に、4、5回は転職してスキルを上げ100年時代に備えろと言っています。

例えばノーベル賞を取った人達は、平均5回ぐらいは転職しています。皆、研究所を変え、会社を変えステップアップをしていくのです。なぜ、職を変えることが重要なのか。その意識がある人は、積極的に全てを吸収しようと必死で働きます。その結果が、誰よりも早く成長し、職場で得られる経験やスキルを短時間で習得します。当然、素晴らしい能力を身につけていることになるので、様々な企業からもオファーがくるのです。ここでも主体的に行動できるかが、重要なポイントとなります。つまり、学力の3要素が本当に身につけば、困難な状況に出くわしても生きていくことができるのです。

駆け足で私が考えるこれからの社会、教育について述べさせて頂きました。上手く私の考えが伝わったか分かりませんが、もし今後の教育を考える上で少しでも参考になれば幸いです。

清聴ありがとうございました。(拍手)

平成29年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

平成29年度公益財団法人産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」「専修学校産業教育功労者」に対する表彰式を平成29年11月16日に全商会館3階中会議室で挙行了いたしました。

表彰式では、本会西澤宏繁会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して出張吉訓教育庁教育監から祝辞がありました。続いて御来賓の東京都公立高等学校長協会副会長高石公一様、東京都中学校長会会長岩永章様から御祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立園芸高等学校徳田安伸統括校長から謝辞が述べられました。

表彰式の出席者は、「御下賜金記念産業教育功労者」16名中12名、「中学校技術・家庭科教育功労者」10名中9名、「専修学校産業教育功労者」2名の計23名でした。

受賞者は次の方々です（順不同・敬称略）

I 御下賜金記念産業教育功労者（16名）

東京都立園芸高等学校	統括校長	徳田安伸
東京都立農芸高等学校	校長	岡本利隆
東京都立農芸高等学校	主任教諭	清水邦雄
東京都立農業高等学校	主幹教諭	鈴木一志
東京都立瑞穂農芸高等学校	主幹教諭	高野信男
東京都立瑞穂農芸高等学校	専修実習助手	小澤正義
東京都立練馬工業高等学校	主幹教諭	田丸雅夫
東京都立足立工業高等学校	主任教諭	菊池通彦
東京都立葛西工業高等学校	主任教諭	染谷明正
東京都立科学技術高等学校	主幹教諭	谷内松夫
東京都立六郷工科高等学校	主任教諭	杉野栄一
東京都立江東商業高等学校	主幹教諭	秋山淳
東京都立瑞穂農芸高等学校	専修実習助手	中居志保恵
大森学園高等学校	教諭	芳賀勝則
東京都立産業技術高等専門学校	教授	廣井徹磨
東京都立産業技術高等専門学校	教授	降矢典雄

II 中学校技術・家庭科教育功労者（10名）

新宿区立新宿中学校	主任教諭	中村昌子
大田区立志茂田中学校	主任教諭	深澤千聡
中野区立第七中学校	教諭	新村彰英
北区立十条富士見中学校	副校長	中根秀文
板橋区立板橋第一中学校	指導教諭	島京子
練馬区立田柄中学校	主幹教諭	守屋玲子
青梅市立第二中学校	校長	高橋章次
青梅市立吹上中学校	主幹教諭	正親智行
町田市立真光寺中学校	校長	矢島加都美
筑波大学附属中学校	副校長	小林美礼

III 専修学校産業教育功労者（2名）

中央工学校
中央工学校

教務課員 小林 福 寿
教 員 松 本 貢 一



平成 29 年度 東京都産業教育振興会後援事業

下記の団体に対し後援を行い、状況は以下の通りであった。

	対 象 事 業	開催期間	実 施 場 所	参加者数
1	第 2 回全国高等学校農業教育研究協議会 資源活用・ヒューマンサービス部会 平成 29 年度東京大会	8 月 7 日～ 8 日	国立オリンピック記念 青少年センター	110 人
2	第 33 回葛飾区産業フェア 工業展・商業展・ 観光展及び農業展・伝統産業展	10 月 20 日～ 22 日 10 月 27 日～ 29 日	テクノプラザかつしか 城東地域中小企業振興センター	57,000 人
3	第 15 回 創造ものづくりフェア in TOKYO	① 11 月 11 日 ② 10 月 28 日	①台東区立駒形中学校 ②女子栄養大学駒込キャンパス	510 人
4	平成 29 年度第 24 回東京都高等学校 工業科生徒研究成果発表会	11 月 18 日	都立練馬工業高等学校 けやきホール	314 人
5	第 5 回東京都立総合学科高等学校 教育活動成果発表会	12 月 16 日	東京都教職員研修センター 視聴覚ホール	391 人
6	東京都立六郷工科高等学校他 2 校の 企業連携教育成果発表会	12 月 22 日	大田区民ホール・アプルコ 大ホール	810 人
7	第 18 回全国中学生創造ものづくり教育 フェア	平成 30 年 1 月 20 日～ 21 日	(A) 会場 葛飾区水元総合スポー ツセンター (B) 会場 女子栄養大学	3,000 人

平成29年度 産学懇談会（第1回）

平成29年度10月6日（金）14:00～17:00
窪田理容美容専門学校

産学懇談会は専門高校等の会員校の教育に関する理解を深め、東京における産学連携の発展に寄与することを目的として、平成18年度から開催され、平成28年度から年2回開催している。今年度は第1回目を専修学校で、第2回目を高等学校で開催することとした。

専修学校の教育内容は、工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養の8分野に分かれている。今回は窪田理容美容専門学校を見学し、衛生分野の教育に対する理解を深め、産学連携の可能性を探った。参加者は、会場校理事長・校長・教職員、本会の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等39名であった。

窪田理容美容専門学校は、昭和25年1月に東京公衆衛生技術学校として厚生大臣（現厚生労働大臣）から指定を受け、昭和25年4月に東京都中野区に開校した。「人に幸せを与え、共に幸せになろう」という教育理念のもと、67年にわたり、一人の人間として社会に通用する本物のプロフェッショナルを育ててきた。現在は、理容学科（本科コース昼間2年、認定エステシヤンコース昼間2年）、美容学科（昼間2年）、美容学科トライチェンジコース（夜間3年）、テクニカルスタイリスト科（ビューティーコース昼間1年、アーティストコース昼間1年）、通信課程の美容学科（3年）、理容学科（3年）を設置しており、平成26年4月に理容学科・美容学科・美容学科トライチェンジコースが職業実践専門課程として認可されている。

開会で、西澤宏繁会長、窪田多美子理事長の挨拶があり、西澤会長からは東京都産業教育振興会の成り立ちや産学懇談会の意義についての話があった。さらに衛生分野の専修学校の見学は本会としては初めてで期待している、特に理容の仕事は誰もが世話になる仕事で大変興味があるとの話があった。

また、窪田理事長からは、67年間、理容と美容一筋でやってきたこと、専門学校なので理容師・美容師の国家資格の全員合格を目指していること、人間力教育として職業人としての自覚をさせながら一人一人のスキルアップをさせていくことに取り組んでいる、学生は昔とは少しずつ違ってきているが、できるだけ夢を実現できるように指導している最中であるとの話があった。

開会后、岡田究広報課渉外課長の案内で美容師科と理容師科の授業参観を行った。学生は2人



窪田理容美容専門学校



西澤宏繁会長



窪田多美子理事長



授業参観

1組となり、お客となった相手にメイクなどの実習をしていた。授業は活気に満ちていて、学生の態度は真剣で、技術を確実に身に付けようと熱心に取り組んでいた。

施設見学では、最新鋭の設備を取り入れた美容実習室、理容実習室、着付室、エステ実習室の他、イベントや公開講座なども可能なKホール（コミュニケーションホール）などを見学し、衛生分野の施設・設備の進歩に目を見張った。また、本館校舎に隣接して新館があり、1階は食堂で3～7階は女子寮となっていた。中野の地に学校の敷地があり、その中に学園が管理する寮があることに驚かされた。このことにより、都内はもとより、全国から意欲のある学生が集まってくると思われた。

授業参観、施設見学を行った後、懇談会を行った。まず、池宮慧泉校長から、学校の概要について次のような説明があった。

「本校に対して教員と学生の距離が非常に近い学校という評判がある。開校以来67年間、意識していることは『世話を焼く』、『面倒を見る』の二つであり、おせっかいをやるのが本校の伝統である。

『おせっかいシステム』で、人間的に教員と学生が真剣に向き合えば向き合うほどアットホームな学校となり、それが校風となっている。社会に出る前の2年間をアットホームで育てる本校の教育方針は珍しいのではないか。また、社会のどこにいても立派に通用する人間を育てるため、「礼儀」と「笑顔」の教育を徹底している。特に、礼儀では挨拶を徹底している。就職先のサロンに受け入れられる人材を育てるには挨拶を身に付けさせることが一番楽で効果のある方法である。また、教員には、学生の主体性を育てることを意識させている。」

懇談・意見交換では、参加者から次のような感想や意見が述べられた。「学生が生き生きとしていた。」「産業界は人材不足と言われるが、実習を通じて手に職をつけることは重要だと思った。」「先生と学生との間には信頼関係が大切だと思った。」「施設・設備が素晴らしい。実社会と同じ環境で学習できる。」「国家資格と学校教育のギャップをどう埋めていくかが課題である。」「中途退学を防止するにはオープンキャンパスや学校説明会に数多く参加してもらい、学校の指導方針や雰囲気を知ってもらうとよい。」「専門学校を実際に見学する機会がなかったので、進路指導の参考になった。」「専門教育では生徒・学生に最初から最後までやらせることが大切だと感じた。」「専門学校は産業界と連携していくことが重要である。」「職業教育では実習の時間が大切だと思った。」「学生さんの学ぶ姿勢や所作に躍動感があり、素晴らしかった。目的意識をもって学ぶことはよい。」「高校の先生方は専門学校のことをもっと学ぶ必要があると思う。」

今回、会場を提供してくださった窪田理容美容専門学校の窪田多美子理事長をはじめ、多くの教職員の皆様に深く感謝申し上げます。



理容実習室



Kホール



池宮慧泉校長



懇談会の様子

平成29年度 産学懇談会（第2回）

平成29年度11月30日（木）14:00～17:00
東京都立園芸高等学校

産学懇談会（第2回）は、東京都立園芸高等学校（以下、園芸高校と記載。）を会場に、高等学校の農業教育に対する理解を深め、東京都における産学連携の推進と産業教育の発展に寄与することを目的として行った。

参加者は、会場校校長・教職員7名、本会の役員・企画推進委員7名、企業・学校会員6名、個人会員2名、教育庁指導部・都立学校教育部職員5名、合計27名であった。

園芸高校は、明治41年（1908年）に東京都世田谷区深沢に創立された農業の単独校で、現在は全日制課程に園芸科、食品科、動物科、定時制課程に園芸科を設置している。

開会で、西澤宏繁会長、徳田安伸統括校長の挨拶があり、西澤会長からは農業高校の見学は久しぶりであり期待しているとの話があった。徳田校長からは紅葉が美しい時によくおいでいただいたと感謝の言葉が述べられた。次に佐々木一憲副校長から見学についての説明があり、直ちに徳田校長と佐々木副校長の案内で2班に分かれて授業参観と施設見学を行った。

園芸高校は東京ドーム2.3個分の校地を有しており、校内に車寄せのある玄関庭園、森林庭園、西洋庭園、日本庭園、百年の庭、鈴木省三記念バラ園など、幾つもの庭園があった。また、正門から玄関まで続くイチョウ並木、徳川三代将軍家光公が大事にした樹齢約500年の五葉松の盆栽、我が国最古の百年ハナミズキなど、我が国初の園芸学校ならではの貴重な植物（教材）があった。さらに、動物科棟ではイヌ、ブタ、ウサギ、爬虫類、アルダブラゾウガメなどの動物を生徒が飼育管理していた。その他、校舎内ではフラワーアレンジメントの授業が行われており、生徒が学校のヒバを用いてクリスマスリースを製作していた。

授業参観、施設見学を行った後、西洋庭園を望める図書館にて懇談会を行った。

懇談会では、最初に園芸高校が取り上げられたテレビ番組の視聴し、その後、徳田校長から学校の概要について次のような説明があった。

「本校はマスコミに取り上げられる機会が多く、2か月に1回以上、新聞やテレビで報道されて



西洋庭園



正面から玄関まで続くイチョウ並木



徳川三代将軍家光公の盆栽



アルダブラゾウガメ

いる。中学校校長会進路対策委員会の調査（中進対調査）では、志願倍率は平成 27 年度の 1.26 倍が平成 28 年度には 1.71 倍となった。大学合格者数は平成 27 年度 20 人が平成 28 年度には 51 人の 2.6 倍となった。中途退学者数は平成 27 年度 3 人、平成 28 年度 2 人で極めて少ない。農業技術検定 3 級の合格者数は平成 27 年度 130 人、平成 28 年度 135 人で多数合格しており、合格率は全国 1 位である。また、問題行動は少なく、特別指導は年間で 2 件程度である。これらの変化は、幾つかの取組の成果と考えている。1 点目は、3 年前から朝学習を取り入れたこと。2 点目は、教育課程を変更し自由選択科目をなくしたこと。3 点目は、「挨拶ファースト」運動を始めたこと。生徒は 1 日 100 回、先生方は 1 日 300 回挨拶をするようにしている。4 点目は、生徒全員に手帳をもたせ、スケジュール管理をさせたこと。いずれも、生徒のしつけを大事にした取組である。かつては生徒指導が大変な時もあったが、今では生徒は落ち着いており、明るく意欲的に学校生活を送っている。」「地域や産業界との連携では、バラ園を地域に公開したり、高島屋と連携して学校生産品を全国販売したりしている。また、米国大使館と交流したり、大学や専門学校とも連携したりしている。」「本校は PTA、同窓会、NPO、商店会など 21 の地域団体と連携しており、様々な協力が得られている。学校案内のパンフレットは PTA の協力によりできたものである。」

その後、参加者から自己紹介と次のような感想や意見が述べられた。

「まるで別世界のようなものである。時間の流れが違うように感じる。」「500 年の盆栽や 100 年のハナミズキなど、素晴らしい教育財産が沢山ある。教育財産を大切に守っていると思った。」「他校を見学することは非常に参考になる。」「普通教科の教員だが、専門高校での普通科の役割や使命を改めて考えるよい機会となった。」「園芸高校を訪れたのは二度目だが、校長のプレゼンに磨きがかかったと思う。」

園芸高校が新聞やテレビで頻繁に紹介されるのは、広報 PR を学校経営の重要課題として校長自らが積極的に取り組んでいるからだと思われる。学校の認知度・信頼度が向上し、好循環が生まれている。今回、会場を提供してくださった園芸高校の徳田安伸統括校長先生をはじめ、多くの教職員の皆様に深く感謝申し上げます。



クリスマスリースの製作



西澤宏繁会長



佐々木副校長（左）と徳田校長（右）



懇談会の様子

平成29年度 第28回東京都産業教育振興会作文コンクール

(1) 入選者一覧

平成29年度の「作文コンクール」の応募作品数は、中学校の部では33校149作品、高等学校・専修学校の部では高等学校が18校115作品、専修学校が2校20作品で、全体総数では53校284作品でした。

応募作品はそれぞれの部の選考委員による第一次選考によって中学校の部では25作品(16.8%)、高等学校・専修学校の部では高等学校が22作品(19.1%)、専修学校が7作品(35.0%)に絞られました。

10月下旬に行われた第二次選考によって、中学校の部では23作品(最優秀1、優秀2、佳作20)、高等学校・専修学校の部では高等学校が18作品(最優秀1、優秀3、佳作14)、専修学校の部では4作品(最優秀1、優秀1、佳作2)、合計では45作品の入選作品が決定されました。応募作品数に対する入選作品数の割合は中学校の部では15.4%、高等学校・専修学校の部では高等学校が15.7%、専修学校が20.0%で全体としては15.8%でした。

入選作品の題名及び入選者は以下のとおりです。

中学校の部

最優秀賞	働いて得たエネルギー	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	山浦理桜
優秀賞	私にとっての「ものづくり」	新宿区立西早稲田中学校	3年	竹垣李莉花
優秀賞	完成の先	東村山市立東村山第四中学校	3年	小野寺柊人
佳作	生活を支えてくれる機械	中央区立佃中学校	2年	尾形慎
佳作	物づくりから学ぶこと	中央区立佃中学校	2年	小林大輔
佳作	つらいけどやりがいがある	墨田区立吾嬬立花中学校	3年	大田睦紬
佳作	職場体験を通じて学んだこと	品川区立日野学園	8年	高松慶
佳作	ものづくりの“最適化”	大田区立大森第一中学校	1年	河野凜
佳作	製作者でなければ気付かなかったこと	大田区立大森第一中学校	1年	横尾祐乃
佳作	私の未来図	渋谷区立鉢山中学校	3年	山口るりか
佳作	たくさんの体験から学び得たこと	杉並区立松溪中学校	2年	小林香穂
佳作	仕事のやりがい	豊島区立千登世橋中学校	2年	萱里笑花
佳作	生活を色どり豊かに	北区立稲付中学校	1年	青木徳子
佳作	作ることの喜び	北区立稲付中学校	2年	小平蒼
佳作	「自分の職業」に対する考え方	北区立稲付中学校	1年	福島有紀
佳作	五日間の勤労留学を終えて	荒川区立第七中学校	2年	宮坂羽衣
佳作	ボランティア活動で得たもの	荒川区立第三中学校	3年	永山琴
佳作	職場体験から見る社会	東村山市立東村山第四中学校	3年	神澤由己
佳作	私らしいものづくり	町田市立真光寺中学校	1年	近澤爽風
佳作	相手の気持ちになる	町田市立真光寺中学校	3年	武田千陽

佳 作	職場体験で学んだこと	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年 大 嶋 育 実
佳 作	働ける理由	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年 小 野 満里奈
佳 作	気づかれるためにではなく、 誰かのために	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年 齋 藤 小 桃

高等学校の部

最優秀賞	決意	愛国高等学校	3年 隈 部 愛
優 秀 賞	家畜とペット	東京都立瑞穂農芸高等学校	2年 四 宮 桃
優 秀 賞	分岐点	東京都立田無工業高等学校	3年 柿 原 美 咲
優 秀 賞	資源管理と漁村の活性化	東京都立大島海洋国際高等学校	3年 福 田 祥 太
佳 作	病院実習で学んだこと	愛国高等学校	3年 白 川 葵
佳 作	受け持ち患者様から学んだこと	愛国高等学校	3年 照 屋 小 町
佳 作	馬中心の高校生活	東京都立農芸高等学校	2年 松 岡 翼
佳 作	牛を通して経済動物を学ぶ	東京都立農産高等学校	3年 岩 田 愛 彩
佳 作	～酪農～素晴らしい経験・体験	東京都立農産高等学校	1年 上 田 寛 敏
佳 作	食品廃棄物を減らすことで救われる命	東京都立農産高等学校	2年 小野田 柚 香
佳 作	貢献できる生き方	東京都立瑞穂農芸高等学校	2年 春 日 鈴 音
佳 作	考えよう 命の大切さについて	東京都立瑞穂農芸高等学校	3年 原 田 未 崎
佳 作	私の目指す、将来の伊豆大島	東京都立大島高等学校	3年 今 江 一 詩
佳 作	たった一つの目標	東京都立小金井工業高等学校	3年 小 野 幸 帆
佳 作	持続性	東京都立小金井工業高等学校	1年 川崎 スィモン 利文
佳 作	日本の生活で学んだこと	東京都立田無工業高等学校	3年 瀬 谷 イアン
佳 作	乗船実習で出会ったマチ類と耳石	東京都立大島海洋国際高等学校	3年 柳 田 有 斗
佳 作	私の将来の夢	国際理容美容専門学校(高等専修)	1年 村 野 萌

専修学校の部

最優秀賞	授業を通して学んだこと	東京エアトラベル・ホテル専門学校	2年 大 津 紗理依
優 秀 賞	私の進路、将来の夢	東京エアトラベル・ホテル専門学校	2年 秋 田 真 佑
佳 作	私の生きがい	東京エアトラベル・ホテル専門学校	2年 下 村 拓 海
佳 作	学習に対する心構えと学んだ事	青山製図専門学校	2年 加 藤 真 実

イラスト賞

東京都立杉並総合高等学校	2年次 田 代 木 実
--------------	-------------

(2) 最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

働いて得たエネルギー

東京都立大泉高等学校附属中学校 2年 山浦 理桜

人は、何の目的で働いているのか。自分のため、家族、社会のため…。働く意味は一人一人違うのだと思う。しかし、どの職業、どの仕事であっても、必ず人の支えになっていると私は考える。働くことで、みんなの助けになり、喜んでもらえる。すると、働く側も嬉しくなり、もっと働こうと思う。その積み重ねで、今の社会が成り立っているのではないか。これらを強く実感できたのが、職場体験と、夏休み田舎での手伝いだった。

七月中旬の三日間、私は江古田の介護施設を職場として働いた。体験前は介護の仕事は大変そうだというイメージを抱いていた。なぜなら、テレビなどで、車いすを動かしたり、体をふいたり、利用者の方を支えたりといった作業をよく目にしてきたからだ。しかし、実際は知識も経験もない私達にできることは限られていた。専門的な仕事は職員の方が担当し、私達は、利用者の方とのコミュニケーションをとるといって仕事を主に任された。職場は、基本的に、お年寄りの方が対象だ。一人ずつの個室ではなく、大きな机を囲んでみんなで座り、同じ空間で一緒に時間を過ごすというスタイルだった。家だとあまり動かずに一日を過ごしてしまう方も多い。だが、大勢ならばゲームや歌などのレクリエーションを通して充実した時間を楽しむことができる。まるで、親せきが集まっているような穏やかな雰囲気だった。

人と話すことが好きな私は、会話することなら簡単だと思い込んでいた。ところが、そう上手くはいかなかった。どう話しかけようか、話をつなぐにはどうしたら良いのか、最初は苦戦の連続だった。天気の話や自己紹介から話題を見つけ、積極的に話を広げていった。だんだん慣れて、昔の暮らしの様子や、お仕事、ご家族についての詳しい話も伺うことができた。いろいろな人と話をした中で、心に残った話がある。有田さんという男性が話してくれた昔の戦争体験だ。戦時中、相手軍の偵察のために、飛行機に乗ってシンガポールの方まで行ってきたという。運良く敵とも遭遇せず、帰りの燃料もあったため、無事に生きて帰れたそうだ。

「今、命があるのは幸運なことで、二度とあんな怖い思いはしたくない。」

と語られていた。戦争を体験していない私にとって戦争は、遠い昔に起こった悲しい出来事のように思っていた。けれども、実際に体験した人の生の話を聞いたことで、より身近なものに感じることができた。このような貴重な体験談を聞いたことは、働いて得られたものの一つだと思う。

また、利用者の方と接するうちに、徐々にうちとけていき、距離も近づいていくように思えた。そして、時折「ありがとう」と言われたり、笑顔を返してくれたりした。

「あなたの笑顔を見ると、とっても嬉しくなる。」

と言われた時には、頑張っただけでよかったと、やりがいを感じた。職員の方に話を聞いてみると、私と同じように「利用者の方から笑顔を返してもらえると嬉しい」とおっしゃっていた。また、「自分自身が元気で楽しくいることが一番、そうでないと、お年寄りに元気を与えることはできない」とも教えられた。確かにその通りだと思った。

今回の職場体験は、三日間という短い期間だったが、本当にたくさんのことを学べた。介護という仕事において、コミュニケーションはとても重要なことだということ…。働くことは、人に一方的に与えるだけでなく、人から得られるものも数多くあるということ…。自分が元気なことが第一だということ…。今までにない経験ができ、実りのある三日間であったと思う。

もう一つ、「働く」という体験として、夏休みに曾祖母の家で手伝った作業がある。そこは長野

の田舎の家で、目の前に畑と竹やぶがある。私は親せきの大人やいとこ達と一緒に、ジャガイモを掘ったり竹を燃やしたりした。涼しい長野でも太陽が照りつける中、汗を流しながらのジャガイモの収穫作業や、火の中に竹を投げ込む作業は、体力を使う重労働だ。それに、お金がもらえるわけでもない。しかし、みんなで苦労を分かち合いながら、一生懸命働けば、達成感が得られる。慣れてくると自然と腕も上達し、自信もついてくる。

作業後の一杯の麦茶は、とてつもなく美味しく思える。大人たちから、「戦力になるね」「いっぱい働いてくれて助かった」などのお礼の言葉をかけられると、やってよかったという気持ちになる。

働く上で、お金を稼ぐことは目的の一つで、たくさんもらえれば、やはり嬉しいだろう。だが、お金以上に感謝の言葉はエネルギーになるのではないだろうか。この体験ではそういうものを感じられたのだった。

私はまだ十四歳で、働く社会人ではない。けれども、二つの仕事を体験を通して、少しではあるが、仕事の大変さ、楽しさ、そして何よりも人からの言葉が力になるということを知った。自分がされて嬉しかったことは、きっと他の人も嬉しいはずだ。日頃から、働いている人へ、感謝の気持ちを忘れないこと、それを伝えていくことであれば、今からでもできる。働くようになるまでは、そうすることから、社会への責任を果たす第一歩を踏み出したい。

高等学校の部 最優秀賞

決意

愛国高等学校 3年 隈 部 愛

無機質な廊下。機械音が鳴り響く部屋。ICUだった。祖父はベッドに横たわっていた。その姿は以前の元気であった祖父ではなかった。人工呼吸器をつけ点滴や心電図、血圧計、膀胱留置カテーテル、様々な管に繋がれていた。鎮静剤を使用した影響から意識が朦朧としていた。

医師から病状について説明があるとのことで親戚全員が集まった。病名は急性呼吸不全。また、肺の機能が低下すると同時に多臓器不全を引き起こしているということだった。今後意識が戻ることはなく、「もって後二日」ということが告げられた。余命宣告を受けたのだ。

信じる事が出来なかった。なぜなら祖父は、これまで大きな病気にかかったことが無く、健康に関して人一倍気を使っていたからだ。朝早くからウォーキングをし、太極拳に参加する。そして午後になるとスポーツジムに行き汗を流していた。祖父自身、いつも足腰が強く健康であると自慢していたくらいだった。

だが、若い頃、喫煙をしていた影響からか、COPD（慢性閉塞性肺疾患）の傾向があり、肺が少し弱っていた。咳や痰が出るなどの症状は出ていたが近くの総合病院で定期的に受診をし、毎年欠かさず健康診断も受けていた。そんな祖父がなぜこんなにも急激に病状が悪化したのか。この状況を受け入れることが出来なかった。

衛生看護科の三年生となっていた私は、このころ、病院で「成人実習」の実習中であつたので、祖父の家を訪れることは少なかった。しかし、一週間前に祖父の家に行った時、咳をするといつもと違う「ぜえぜえ」という呼吸苦が見られたので病院を受診するよう勧め、日にちもその時に決めた。帰宅する際、「じいちゃん、またくるからね。」と言うと、「おう」と言って笑顔で手を振ってくれた。その笑顔を見て安心しきっていた。だが、このやりとりが祖父との最後になるなど、この時は夢にも思っていなかった。しかしその受診日を待たず異変が起きてしまったのだ。たまたま両親が祖父の家を訪れると、祖父は呼吸を十分にすることが出来ず歩けないでいたのだ。すぐに入院することになった。その時は意識もはっきりし会話することもできたそう。しかしその夜、自発呼吸をするのが困難となり人工呼吸器をつけICU（集中治療室）へ。母から聞いた話だが、祖父は最後まで「孫がいる病院に行く。」「孫は看護師なんだ。」と言って聞かなかったそう。祖父は私が看護

師になりたいという夢を誰よりも応援してくれた。まだ看護学生ではあるが、それが祖父の自慢であつたらしい。

祖父が入院してから毎日、家族全員でお見舞いに行った。ICUであつた為、面会時間は十分程度であつた。初めは変わり果てた祖父の姿にショックを押さえきれず、声をかけてあげることができなかった。その時、父に「まだ亡くなったわけじゃない。戦っているんだ。信じなくてどうする。」と言われ、目が覚めたような感じがした。それから、意識のない祖父の手を握りしめ、耳元で「会いに来たよ。」と声をかけた。すると祖父は微かに首を動かすなどの反応を示した。私たちの声は祖父に届いていたのだと思う。

実習中であつた私は、祖父と同じように人工呼吸器を着けている方、同じ年齢の方、そのような患者様を見る度に、どうしてもその姿を祖父と重ねてしまう。それは本当に辛いことであつた。祖父に何もしてあげることができないという思いから、今日の前の患者様にとって最善のケアは何か、以前より考えて実行するようになった。実習中ではあつたが、祖父の病院へ行けるように、実習が終わり次第、早く帰す配慮をしていただき、色々な人に支えられているということを実感した。

ある日、自宅に帰ると電話が鳴った。病院からだつた。急いで病院に行くと、危篤状態の祖父がそこにいた。手を握ると暖かかつたのだが、血圧が下がるにつれ徐々に冷たくなっていくのがわかつた。「ピー…。」この音が病室に鳴り響いた。祖父は静かに息を引きとつた。家族、親戚一同が集まり祖父のベッドを囲む形で最期を看取ることができた。当初医師からは、「もつて二日」と言われていたが、五日後に亡くなつた。

あれから一ヶ月。まだ祖父の死を受け入れることは出来ていない。祖父が使つていたラジオ、補聴器、書き込んだカレンダー。生きていた証を目にする度に目頭を熱くする。目をつぶれば祖父の笑みを浮かべる顔を思い出す。もう一度。あと一度だけ話がしたい。

私が看護師を目指した理由。それは祖父の事を自身が介護してあげたいという思いがあつたからだ。祖父の早すぎる死。まだ看護師になつた姿も見せてあげられなかつた。学生である自分の不甲斐なさに押しつぶされそうになつた。だが、唯一の救いは戴帽式での姿を見せてあげられたことだつた。

告別式でのお別れの際、私は祖父に誓つたことがある。それは立派な看護師になるということだ。患者様にとって最善のケアを提供する。さらに言えば、患者様の心に寄り添うことは勿論のこと、そのご家族の方々のケアに努める。そんな看護師になり、祖父に胸を張つて報告することを目標として、努力を続けていきたい。たとえ、辛く高い壁にぶつかり挫折することがあつても、どのような困難にも立ち上がり、夢を叶えるという強い信念をもつて、今あるかけがえのない日々を大切に過ごしていきたい。祖父が見守つてくれていると信じて。

専修学校の部 最優秀賞

授業を通して学んだこと

東京エアトラベル・ホテル専門学校 2年 大津 紗理依

私は専門学校に入学してから今日まで、新しい言語を学んでいます。その言語とは英語でも中国語でもなく、「手話」です。私の学校では週に一回授業があります。一年次では指文字から始まり、自己紹介や簡単な日常会話を主に学び、二年次では接客業で役に立つ接遇手話を学びます。時には耳の不自由な講師の方と会話を行う授業もあります。そして学んだことを全校生徒の前で発表する『手話コンテスト』も開催されます。

手話を習い始めたころは楽しいとは思つてはいたものの、出来るようになるとは思つておらず、覚

えたところで役に立つこともないと感じていました。

手話が言語だと感じたのはアルバイト先でのことです。私は、テーマパークでアルバイトをしています。ここではお誕生日や記念日のお客様に首からぶら下げるカードをお配りしており、そのカードをスタッフがシールやメッセージでお祝いするというサービスがあります。私は、ある女の子がそのカードを持っているのを見つけ、「おめでとう」と声をかけました。ほとんどのお客様は嬉しそうな顔をされるのですが、その女の子は首を傾げ、不思議そうな顔をしていました。すると女の子のお母さんが私に耳が聞こえないことを教えてくださいました。そこで、次は手話を使い「おめでとう」と伝えました。「おめでとう」の手話は、両手を胸の高さで軽く握り、上に挙げながら指をパッと開きます。この一瞬の手話でその女の子は少し驚いた後、笑いながら涙を流していました。そして私に、「ありがとう」と伝えてくれました。六歳になったばかりの女の子のきれいなうれし涙を見たのは初めてです。このときに、「手話」も立派な言語であるということに初めて気づき、学んでいて良かったと思えた瞬間でした。

この経験を通して、今まで壁を感じていた聴覚障害者の方と接することに抵抗がなくなりました。手話を使って多くの会話が出来ようになった訳ではありません。まだまだ手話を使うという勇氣が必要です。しかし、その後も聴覚障害者のお客様がいらした際には、あいさつや感謝の気持ちを伝えるときに口語や筆談ではなく、手話を使ってなるべく伝えるようにしています。

今までは、目や耳の不自由な方を見つけると障害者だと線引きしできる限り関わらないような生活をしていました。差別はダメ、と学んできた当たり前のことができていませんでした。現在は、授業やアルバイト先での経験を通して、今まで関わることのなかった人と関わるができる楽しさを学び、手話を学ぶ意欲も増しました。また、人を外見で判断して勝手に壁を作らないことも改めて学びました。

少子高齢化が進んでいる日本では、2020年東京オリンピックも開催され、外国人だけでなく、たくさんの人達で賑わいます。すべての人が同じ感動を味わえる瞬間の中で、私自身誰かの役に立ちたいと強く思い、車いすの方やお身体が不自由な方々をサポートすることができる、「サービス介助士」という資格も取得しました。今はこの資格を生かし、サッカーの試合のボランティアなどに積極的に参加をしています。

専門学校に入学して、手話の授業だけでなく、すべての授業や学校生活の中で、社会人としてのマナーや立ち居振る舞いを学ぶ機会が多くあり、様々な場所で習ったことを実践できていると感じています。役に立つこともないと思っていた考え方も、それを生かすのか生かさないのかは自分自身の行動で変わるのだ、ということに気づけたことも大きな成長だと捉えています。

卒業までの残りの時間も、自分自身の限界を決めず、何事にも挑戦をしていきたいです。そして、来年の春に向け、立派な社会人になれるようしっかりと準備をしていきたいと思えます。

新しい「手話」という言語を学んだことにより、世界が変わって見えました。

今練習している手話を使った歌を全部覚えたら、またどこかで披露することが現在の目標です。

(3) 応募校一覧・応募数の推移・テーマ別応募数等

<中学校の部>

番号	区・市名	学校名	応募人数	入選者数
1	中央区	佃中学校	7	2
2		晴海中学校	5	
3	新宿区	牛込第二中学校	1	
4		新宿西戸山中学校	3	
5		西早稲田中学校	2	1
6	台東区	御徒町台東中学校	1	
7	墨田区	吾嬬立花中学校	5	1
8		桜堤中学校	3	
9		寺島中学校	4	
10		両国中学校	2	
11	江東区	第二亀戸中学校	4	
12		第二砂町中学校	1	
13	品川区	日野学園	3	1
14	大田区	大森第一中学校	2	2
15		大森第六中学校	10	
16	世田谷区	烏山中学校	10	
17		用賀中学校	5	
18	渋谷区	鉢山中学校	1	1
19	杉並区	松溪中学校	3	1
20	豊島区	千登世橋中学校	3	1
21	北区	稲付中学校	10	3
22	荒川区	第三中学校	5	1
23		第七中学校	5	1
24	練馬区	開進第三中学校	3	
25	足立区	江南中学校	3	
26	葛飾区	一之台中学校	2	
27		葛美中学校	10	
28		堀切中学校	10	
29	東村山市	東村山第四中学校	3	2
30	青梅市	泉中学校	1	
31	町田市	真光寺中学校	10	2
32	東京都	東京都立大泉高等学校 附属中学校	10	4
33	私立	愛国中学校	4	
合計			149	23

<高等学校の部>

番号	学校名	応募人数	入選者数
1	東京都立農芸高等学校(全)	10	1
2	東京都立農芸高等学校(定)	7	
3	東京都立農業高等学校	6	
4	東京都立瑞穂農芸高等学校	10	3
5	東京都立農産高等学校(全)	8	3
6	東京都立農産高等学校(定)	1	
7	東京都立園芸高等学校	10	
8	東京都立大島高等学校	1	1
9	東京都立田無工業高等学校	2	2
10	東京都立小金井工業高等学校	2	2
11	東京都立墨田工業高等学校	1	
12	東京都立赤羽商業高等学校	8	
13	東京都立葛飾商業高等学校	9	
14	東京都立忍岡高等学校	10	
15	東京都立大島海洋国際高等学校	3	2
16	愛国高等学校	10	3
17	日本工業大学駒場高等学校	10	
18	国際理容美容専門学校(高等専修)	7	1
小計		115	18

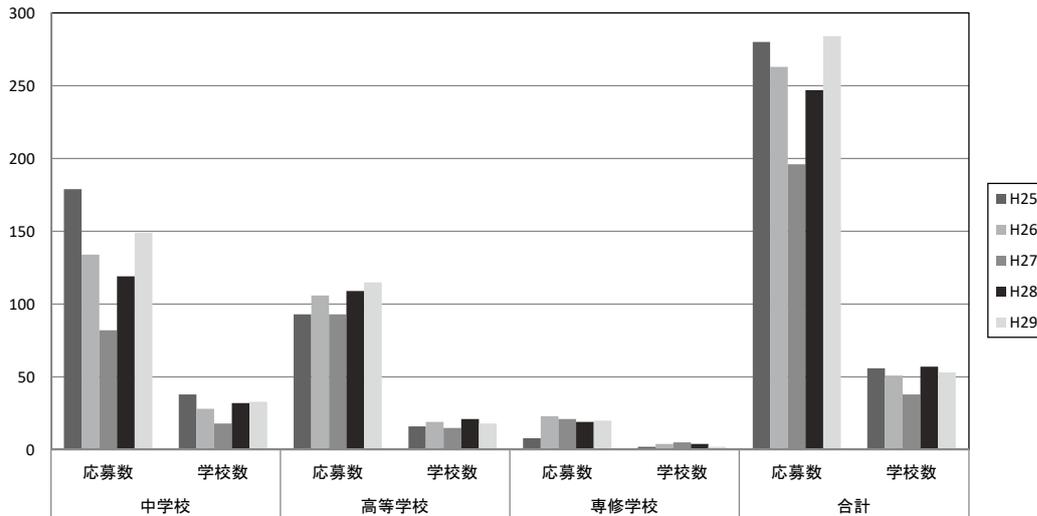
<専修学校の部>

1	青山製図専門学校	10	1
2	東京エアトラベル・ホテル専門学校	10	3
小計		20	4

<まとめ>

区分	応募校数	応募人数	入選数
中学校	33	149	23
高等学校	18	115	18
専修学校	2	20	4
総計	53	284	45

応募数・応募校の推移



	中学校		高等学校		専修学校		合計	
	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数
H25	179	38	93	16	8	2	280	56
H26	134	28	106	19	23	4	263	51
H27	82	18	93	15	21	5	196	38
H28	119	32	109	21	19	4	247	57
H29	149	33	115	18	20	2	284	53

応募数の変化(前年度から見た変化)

校種	平成25年度(2013)		平成26年度(2014)		平成27年度(2015)		平成28年度(2016)		平成29年度(2017)		平均 応募数
	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	
中学校	159⇒179	13%増	179⇒134	25%減	134⇒82	39%減	82⇒119	45%増	119⇒149	25%増	133
高等学校	94⇒93	1%減	93⇒106	14%増	106⇒93	12%減	93⇒109	17%増	109⇒115	6%増	103
専修学校	21⇒8	62%減	8⇒23	183%増	23⇒21	9%減	21⇒19	11%減	19⇒20	5%増	18
総数	274⇒280	2%増	280⇒263	6%減	263⇒196	25%減	196⇒247	26%増	247⇒284	15%増	254

作文コンクール 入選数の集計

校種	平成25年度(2013)			平成26年度(2014)			平成27年度(2015)			平成28年度(2016)			平成29年度(2017)			平均%
	応募数	入選数	%													
中学校	179	26	15	134	19	14	82	13	16	119	18	15	149	23	15	15
高等学校	93	14	15	106	16	15	93	14	15	109	17	16	115	18	16	15
専修学校	8	2	25	23	5	22	21	3	14	19	3	16	20	4	20	19
総数	280	42	15	263	40	15	196	30	15	247	38	15	284	45	16	15
参考	選考要領は15%程度															

作文のテーマ別応募数一覧

【作文の内容】

次に示す学習を通して体験したことを踏まえて、そこから得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの。

- ・中学校における技術・家庭科の学習
- ・高等学校、専修学校、高等専門学校又は短期大学における専門教科の学習
- ・勤労に関わる体験的な学習

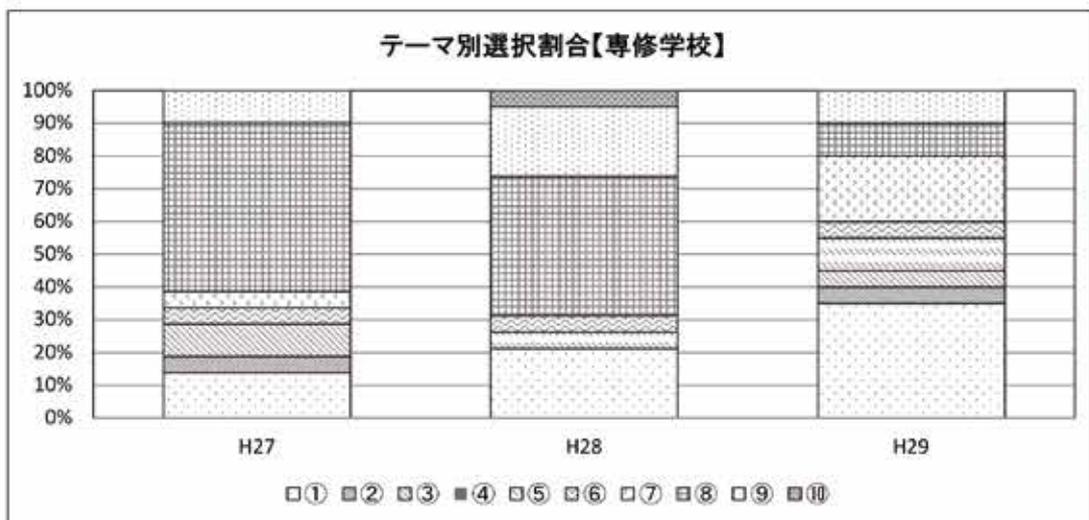
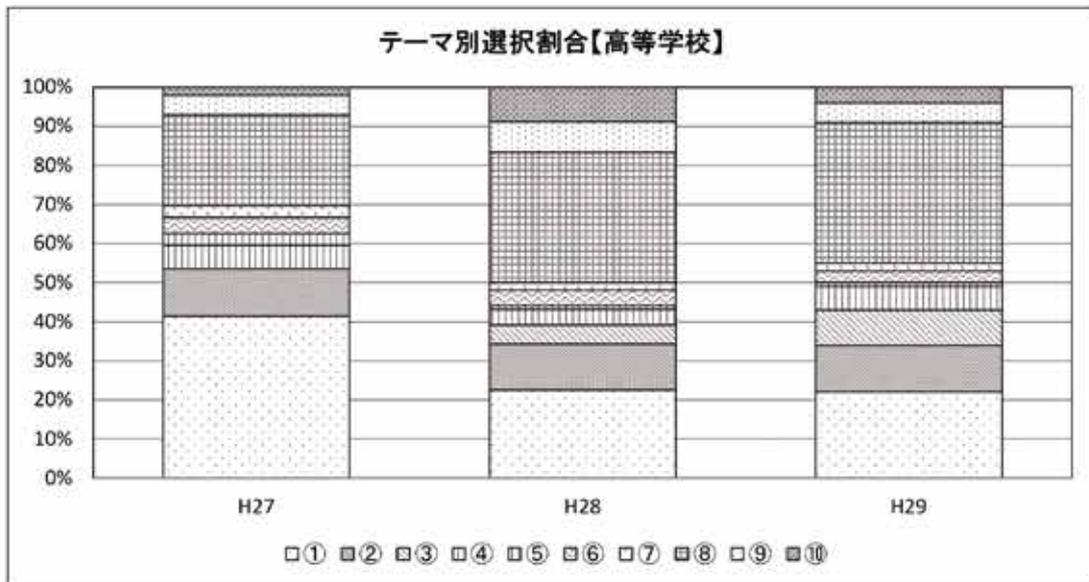
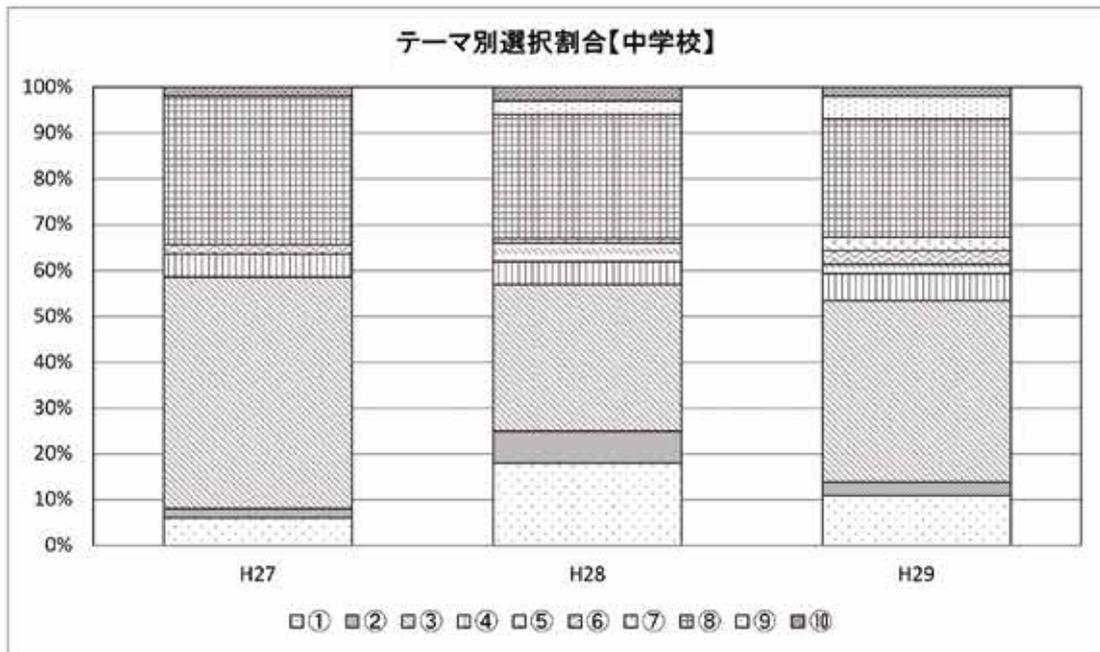
【テーマ】

作文の内容について、次のテーマ番号（①～⑩）から関係するものを選択して応募票の欄に記入する。

- ①授業等を通して学び得たこと
- ②インターンシップ（就業体験）や現場実習等によって学び得たこと
- ③職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと
- ④つくることの喜び、ものづくりの喜び
- ⑤働くことの喜び
- ⑥学習に対する心構え
- ⑦私の生きがい
- ⑧私の進路、将来の夢
- ⑨私の職業観
- ⑩その他

テーマ別選択数とその割合

テーマ 番号	中学校の部						高等学校の部						専修学校の部					
	H27		H28		H29		H27		H28		H29		H27		H28		H29	
	選択数	割合%	選択数	割合%	選択数	割合%	選択数	割合%	選択数	割合%	選択数	割合%	選択数	割合%	選択数	割合%	選択数	割合%
①	5	6	21	18	17	11	38	41	25	23	26	22	3	14	4	21	7	35
②	2	2	8	7	4	3	11	12	13	12	14	12	1	5	0	0	1	5
③	41	50	38	32	63	40	0	0	5	5	11	9	2	10	0	0	1	5
④	4	5	6	5	9	6	6	6	4	4	7	6	0	0	0	0	0	0
⑤	0	0	5	4	3	2	3	3	1	1	1	1	0	0	1	5	2	10
⑥	2	2	0	0	4	3	4	4	4	4	4	3	1	5	1	5	1	5
⑦	0	0	1	1	4	3	3	3	2	2	2	2	1	5	0	0	4	20
⑧	26	32	32	27	41	26	21	23	38	34	43	36	11	52	8	42	2	10
⑨	0	0	4	3	8	5	5	5	9	8	6	5	2	10	4	21	2	10
⑩	2	2	4	3	3	2	2	2	10	9	5	4	0	0	1	5	0	0
合計	82	100	119	100	156	100	93	100	111	100	119	100	21	100	19	100	20	100



本会の概要

平成29年度 事業経過報告

(平成30年2月20日現在)

1 会計監査

4月14日(金)午後3時～5時 都庁第一本庁舎39階39階会議室を会場として、常任監事及び監事2名による各種帳簿類等の監査を実施(本会事務局長立会い)

2 理事会

5月12日(金)午後3時～5時 都庁第二本庁舎10階209会議室で開催
出席者16名

3 総会・講演会

6月22日(木)午後2時～4時20分 全商会館3階中会議室で開催

- ・総会 出席者50名(昨年度39名)
- ・講演会 出席者53名(昨年度41名)

演題 「イノベーションの先に待つ社会、教育」

講師 首都大学東京 学長補佐 川上 浩良 氏

※総会・講演会の報告は本誌に掲載しております。(本誌p45～55)

4 委員会

(1) 企画推進委員会 6月29日(木) 都庁第二本庁舎31階特別会議室24で開催

(2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会

9月15日(金) 都庁第一本庁舎39階39階会議室で開催

(3) 作文選考委員会 5月19日(金) 全体会 都庁第一本庁舎36階36階会議室で開催

10月24日(火) 分科会(高等学校・専修学校の部)

都庁第一本庁舎25階102会議室で開催

10月26日(木) 分科会(中学校の部)

都庁第一本庁舎25階111会議室で開催

5 振興奨励事業

(1) 教育功労者表彰:11月16日(木)午後3時から全商会館3階中会議室において、御下賜金記念産業教育功労者(16名)、中学校技術・家庭科教育功労者(10名)、専修学校産業教育功労者(2名)の表彰式を挙行了。本会より表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。(本誌 P56～57)

(2) 研究団体助成:産業教育関係の教育団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、総合学科、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。

(3) 作文コンクール:中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は284点であった。その中から最優秀賞3名(中学校1名、高校1名、専修学校1名)、優秀賞6名(中学校2名、高校3名、専修学校1名)、佳作36名(中学校20名、高校14名、専修学校2名)計45名の入選者を選定した。

12月14日(木)全商会館2階大会議室において「作文コンクール表彰式」を行い、入選者及び「明日に生きる 第28号 -作文コンクール入選作品集-」の表紙デザイン作成者に賞状と賞品を授与した。また、入選者以外の応募者全員及び表紙デザイン応募者全員に記念品を贈呈した。

(4) 優良卒業生選奨:優良卒業生に対し、各学校の校長等を通じ、本会会長及び公益財団法人産業教育振

興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○東京都産業教育振興会会長表彰

中学校	867名	中等教育学校（前期課程）	13名
高等学校	213名	専修学校	68名
高専・短大	14名		

計 1,175名

○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校

計 113名

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認している。本年度は7団体、7事業に対して後援名義の使用を承認した。（本誌 P 57）

6 産学交流事業

- (1) 産学懇談会（第1回）を10月6日（金）（午後2時～5時）に窪田理容美容専門学校を会場として行った。授業参観、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合った。参加者は、会場校理事長・校長・教職員及び高等学校・専修学校の管理職・教職員、企業会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等39名であった。また、懇談会后、JR中野駅近くで自由参加（15名）による教育懇親会を持った。（本誌 P 58～59）

- (2) 産学懇談会（第2回）を11月30日（木）（午後2時～5時）に都立園芸高等学校を会場として行った。農業学科の授業、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合った。参加者は、会場校校長・副校長・教職員及び産業界・公立高校・公立中学校・専修学校の管理職等、教育庁指導部・都立学校教育部職員等27名であった。また、懇談会后、東急大井町線等々力駅近くで自由参加（17名）による教育懇親会を持った。（本誌 P 60～61）

7 情報連絡事業

- (1) 会報「東京の産業と教育」を年2回、第152号を7月15日に、第153号を12月1日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第55号を3月上旬に発行し、全会員及び関係諸機関に配布する。
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第28号を入選作品45編を掲載して3月上旬に発行し、入選者及び全会員・関係諸機関に配布する。
- (4) 全国産業教育振興連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議が、5月25日（木）に東京の工業教育会館で開催された。本会より会長、副会長、事務局長、学校代表委員が出席した。
- (5) 文部科学省・秋田県教育委員会・公益財団法人産業教育振興中央会他主催の、第59回全国産業教育振興大会（秋田大会）・第27回全国産業教育フェア秋田大会が、10月21日（土）～10月22日（日）、秋田県秋田市内の会場を中心に開催され、本会から会長と事務局長及び会員数名が参加した。
- (6) 東京都産業教育振興会のホームページを月一回更新した。
- (7) 公益財団法人産業教育振興中央会が実施する「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」に6名、「専門高等学校教員の特別研究助成」に1名が本会から応募した。また、同会主催の「教員海外産業教育事情研修派遣」に本会から1名が参加した。（本誌 P 34～35）

8 会員の増加運動の推進

今年度末までに産業界会員1、個人会員2が退会した。一方、年間を通じて会員増加運動に取り組んだ結果、新たに産業界会員1、学校会員25（公立中学校17、私立中学校1、専修学校7）、個人会員1が入会した。

平成28年度 決算

総収入額 ¥3,051,134
 総支出額 ¥2,459,428
 差引額 ¥591,706

[収入の部]

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要
会 費	2,270,000	2,261,500	△ 8,500	1 学校関係 円 校数・口数 1,492,000
				① 国公立中学校 2,000円 410 校 820,000
				② 都立高校 全 6,000円 53 校 318,000 定 3,000円 31 校 93,000
				③ 私立・国立高校 全 6,000円 16 校 96,000 定 3,000円 2 校 6,000
				④ 高専・短大 6,000円 3 校 18,000
				⑤ 専修学校 23校 6,000円 23.5 口 141,000
				2 産業界関係 769,500
				① 企 業 49社 10,000円 72.75 口 727,500
				② 個 人 17名 2,000円 21 口 42,000
				利子収入
雑収入	165,000	245,000	80,000	会誌広告料
繰越金	544,626	544,626	0	前年度繰越
合 計	2,980,000	3,051,134	71,134	

[支出の部]

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要	
事務費	410,000	333,468	76,532		
項 目	需用費	20,000	8,560	11,440	総会資料印刷、消耗品費等、資料管理費
	役務費	360,000	324,908	35,092	配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費
	旅 費	30,000	0	30,000	全国産業教育フェア(石川大会)
	会議費	70,000	57,683	12,317	理事会、総会、講演会、各種委員会
事業費	2,372,000	2,003,277	368,723		
項 目	振 興 奨励費	1,020,000	823,095	196,905	①教育功労者表彰 207,085
					②研究奨励助成 122,000
					③作文表彰等 374,936
					④永年会員表彰 0
					⑤表彰状印刷等 91,584
					⑥表彰状筆耕料 27,490
	情 報 連絡費	1,322,000	1,177,824	144,176	①会報発行(2回分) 190,944
②会誌第54号発行 422,280					
③作文集第27号発行 367,200					
④HP更新費 194,400					
⑤全産協参加費 3,000					
⑥中央会図書費 0					
⑦作文集・会誌合本費 0					
産学交流費	30,000	2,358	27,642	産学懇談会	
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費	63,000	0	63,000	緊急対応	
合 計	2,980,000	2,459,428	520,572		

(注)科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

企業会員の0.5口分は、年度途中で入会したため、半年間の会費を納入
 企業会員の0.25口分は、年度途中で退会したため、3か月間の会費を納入。

平成29年度 予算

総収入額 ¥3,052,000
 総支出額 ¥3,052,000
 差引額 ¥0

[収入の部]

(単位：円)

科目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要
会 費	2,295,000	2,270,000	25,000	1 学校関係 円 校数・口数 1,523,000
				① 国公立中学校 2,000 424 校 848,000
				② 都立高校 全 6,000 53 校 318,000
				定 3,000 31 校 93,000
				③ 私立・国立高校 全 6,000 16 校 96,000
				通 3,000 2 校 6,000
				④ 高専・短大 6,000 3 校 18,000
				⑤ 専修学校 23 校 6,000 24 口 144,000
				2 産業界関係 円 口数 772,000
				① 企業 48 社 10,000 73 口 730,000
② 個人 17 名 2,000 21 口 42,000				
会誌広告料	165,000	165,000	0	【旧 雑収入】
雑収入	294	374	△ 80	預金利息等【旧 利子収入】
繰越金	591,706	544,626	47,080	前年度繰越
合 計	3,052,000	2,980,000	72,000	

[支出の部]

(単位：円)

科目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要	
事務費	430,000	410,000	20,000		
項 目	需用費	20,000	20,000	0	消耗品費等、資料管理費
	役務費	370,000	360,000	10,000	配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費
	旅 費	40,000	30,000	10,000	全国産業教育フェア（秋田大会）
会議費	70,000	70,000	0	理事会、総会、講演会、各種委員会	
事業費	2,374,000	2,372,000	2,000		
項 目	振 興 奨励費	1,066,000	1,020,000	46,000	①教育功労者表彰 230,000
					②研究奨励助成 150,000
					③作文表彰等 450,000
					④永年会員表彰 30,000
					⑤表彰状印刷 160,000
					⑥表彰状筆耕料 46,000
情 報 連絡費	1,298,000	1,322,000	△ 24,000	①会報発行(2回分) 240,000	
				②会誌第55号発行 450,000	
				③作文集第28号発行 400,000	
				④HP更新費 200,000	
				⑤全産協参加費 6,000	
				⑥中央会図書費 2,000	
産学交流費	10,000	30,000	△ 20,000	産学懇談会	
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費	113,000	63,000	50,000	緊急対応	
合 計	3,052,000	2,980,000	72,000		

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成29年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

☆印：新任

会 長	日本リスク・データ・バンク株式会社顧問 (前・株式会社企業再生支援機構 代表取締役社長)	西 澤 宏 繁
副 会 長	株式会社カナック企画相談役	金 子 昌 男
”	東京商工会議所理事・産業政策第二部長	小 林 治 彦
”	☆ 東京都立六郷工科高等学校長	佐々木 哲
理 事 長	東京都教育委員会教育長	中 井 敬 三
常任理事	東京都教育庁都立学校教育部長	初 宿 和 夫
”	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長	星 政 典
理 事	公益社団法人経済同友会執行役	藤 卷 正 志
”	一般社団法人東京経営者協会人材・研修部長	臼 井 啓 能
”	信川化学工業株式会社取締役社長	信 川 仁 道
”	株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長	井 水 治 博
”	三和電気工業株式会社代表取締役社長	石 井 卓 爾
”	墨田区教育委員会教育長	加 藤 裕 之
”	江東区教育委員会教育長	岩 佐 哲 男
”	武蔵野市教育委員会教育長	宮 崎 活 志
”	☆ 文京区教育委員会学務課長	熱 田 直 道
”	☆ 目黒区教育委員会学校運営課長	村 上 隆 章
”	東京誠心調理師専門学校長	廣 瀬 道
”	学校法人小山学園理事長	山 本 匡
”	岩倉高等学校長	浅 井 千 英
”	安部学院高等学校長	安 部 元 彦
”	東京都立農芸高等学校長	岡 本 利 隆
”	東京都立六郷工科高等学校長 (副会長兼任)	佐々木 哲
”	東京都立第四商業高等学校長	高 石 公 一
”	東京都立忍岡高等学校長	岡 島 まどか
”	☆ 東京都立葛飾総合高等学校長	小 山 公 央
”	武蔵野市立第六中学校長	田 極 政 一 郎
”	足立区立第七中学校長	佐 藤 秀 直
”	☆ 東京都教育庁指導部長	増 渕 達 夫
”	東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	藤 井 大 輔
”	東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当)	堀 川 勝 史
”	☆ 東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長	小 川 謙 二
理 事・ 事務局長	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (計画担当)	川 邊 光 洋
常任監事	☆ 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (管理担当)	甲 賀 一 紀
監 事	有限会社飯吉製作所代表取締役	飯 吉 修 一 呂
”	渋谷区立笹塚中学校長	柄 澤 茂 之

平成 29 年度 東京都産業教育振興会各委員会委員 (敬称略・順不同)

企画推進委員会

東京都立園芸高等学校長	徳 田 安 伸
東京都立練馬工業高等学校長	守 屋 文 俊
東京都立葛飾商業高等学校長	昼 間 一 雄
東京都立忍岡高等学校長	岡 島 まどか
東京都立若葉総合高等学校長	根 本 浩太郎
東京実業高等学校長	知 念 義 裕
安部学院高等学校長	安 部 元 彦
マリールイズ美容専門学校顧問	江 原 美規子
東京都立産業技術高等専門学校副校長	渡 辺 和 人
台東区立駒形中学校長	瀬 川 眞 也
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	石 沢 一 元
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	馬 場 一 平

作文選考委員会

東京都立農業高等学校長 (高校・専修の部委員長)	齋 藤 義 弘
東京都立杉並工業高等学校長	高 幹 明
東京都立荒川商業高等学校長	長 江 誠
東京都立翔陽高等学校副校長	木 田 貴 子
東京都立杉並総合高等学校長	倉 本 武 雄
日本工業大学駒場高等学校教諭	原 田 宏 子
安部学院高等学校長	安 部 元 彦
学校法人中央工学校広報センター長	高 橋 隆 泰
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	山 本 進 一
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課課長代理	中 村 留 美
町田市立真光寺中学校長 (中学校の部委員長)	矢 島 加都美
中央区立日本橋中学校長	平 松 功 治
葛飾区立葛美中学校長	志 村 昌 孝
葛飾区立一之台中学校長	入 山 賢 一
世田谷区立烏山中学校長	飯 塚 和 彦
足立区立第十中学校長	早乙女 雄一郎
足立区立江南中学校長	宮 下 みどり
八王子市立上柚木中学校長	坂 詰 悦 子
小平市立小平第五中学校副校長	深 井 明 美
荒川区立赤土小学校副校長	出 井 玲 子
東京都教育庁指導部義務教育指導課統括指導主事	吉 川 泰 弘
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	馬 場 一 平

東京都産業教育振興会会則

第1章 総 則

第1条 この会は、東京都産業教育振興会という事務所を東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課（東京都新宿区西新宿2-8-1）内におく。

第2条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第2章 会 員

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

第3章 役員及び職員

第5条 この会に会長1名、副会長3名、理事25名以上35名以内及び監事3名をおく。

第6条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第8条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち1名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある監事をもって充てる。
3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、20年度、22年度、27年度、28年度

産業界会員名簿

50音順

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
1	(株)秋月電子通商	世田谷区	(○) 四大卒	電子部品(主としてコンピュータパーツ)、及び制御コンピュータ用応用機器製品の販売、電子工作用各種製品開発セット、製作、直接販売。世界各国の最新機器の日本への紹介。
2	浅地事務所	港区	—	経営相談、コンサルティング、社外役員の紹介及び仲介他。
3	(有)飯吉製作所	葛飾区	—	金属プレス加工業を昭和24年創業、昭和37年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャストを開発、製造販売を始め、現在に至る。
4	(株)エイコー	葛飾区	(○) 高校卒	昭和35年にビルメンテナンス業を創業。平成13年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
5	エス・イー・シーエレベーター(株)	台東区	(○) 高校卒 (○) 専門学校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	エレベーター・エスカレーターの保守点検、新設・リニューアル工事・LED・サイネージ・太陽光事業等を行っております。
6	エンゼルフーズ(株)	北区	(○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	1965年創業、「永遠に未完成の給食づくり」を企業理念として、未来を担う子供たちの健康と幸せのためのサポートをさせて頂いております。幼稚園給食のリーディングカンパニーとして日本一の生産食数を誇っており、東京、神奈川、埼玉、千葉の一都三県において、一日5万食を提供しております。
7	(株)カナック企画	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	当社は、カーオーディオやカーナビゲーションなどカーAV(Audio Visual)機器の取付キットビジネスの最前線を常に開拓するリーディングメーカーです。ISO9001・14001・22301を取得して品質を重視し、環境に配慮した商品の開発を行っております。
8	亀有信用金庫	葛飾区	(○) 四大卒	信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に23店舗を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。
9	(株)川邑研究所	目黒区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売。
10	(株)キクチ	品川区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス。設備管理サービス。電気計装工事。内装・補修工事。省エネソリューションビジネス。
11	(株)キトウ	千代田区	(○) 四大卒	中学校技術・家庭科および美術科・工芸科用教材・教具および機械・工具の専門店。工作機械、工作台等のメンテナンスサービスも充実させています。
12	恵雅堂出版(株)	新宿区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	卒業アルバム及び一般書籍の出版。
13	(株)小葉印刷所	中央区	—	創業90年の印刷会社。学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディトリアルデザインやWeb用のデータ作成業務に力を入れている。
14	(株)興銀不動産開発	葛飾区	(○) 四大卒	平成2年創業以来27年、地元を根を下ろし不動産に精通したスタッフが信用第一をモットーに営業活動しております。尚若い力を注入して活気ある会社運営を目指します。
15	国光施設工業(株)	大田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	創立100周年を目指し、顧客の施設(電気・計装・空調・通信・太陽光発電)を計画段階から建設、メンテ及び施設の取壊しまで長期に渡り担当するエンジニアリング集団です。
16	三和電気計器(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	1941年創業、従業員70名の現場用電子計測器の専門メーカーです。高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。
17	実教出版(株)	千代田区	(○) 四大卒	高等学校用教科書・教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。
18	(株)昭和理化	豊島区	(○) 高校卒	消防用設備(自動火災報知設備、消火設備、避難設備)、弱電設備(インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯)の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。
19	城北礦油(株)	北区	—	免震構造の13階建の賃貸住宅を経営(部屋数56室)1階はコンビニエンスストア。
20	(株)鈴木塗装工務店	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	全国主要都市に支店・営業所を有し、ビル・マンション・工場等のリニューアル工事を多岐に亘り施工しております。また、安全・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、ISO9001:2008認証取得により品質管理を徹底しております。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
21	(株)スマイル	練馬区	—	消防設備点検・建築設備点検・特定建築物調査等お住まいの方々に笑顔になって頂けるよう、建物の維持管理業務にご協力させて頂きたいと思っております。御見積もり作成から点検まで最短でご準備させて頂きますのでよろしくお願ひ致します。
22	青和信用組合	葛飾区	(○) 四大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の八町、江戸川区の二町、足立区の五町に居住される皆様と、地域内で事業を営まれる中小企業、並びにそこに勤務される方々を対象に営業しております。
23	千住金属工業(株)	足立区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	スマートフォンを始めエレクトロニクス製品には欠かせない「はんだ」で世界のトップメーカーです。半導体世界最大手のインテルコーポレーションより2015年度も最優秀納入業者として表彰されました(世界で8社)。海外拠点も28箇所あります。
24	第一科学(株)	文京区	(○) 高校卒	高校、大学、官公庁(都内)への理科機器、コンピュータ、教育用教材の販売。
25	(株)第一成和事務所	中央区	(○) 四大卒	1957年創業以来保険代理店として、お客様に適切な保険の提供を通して「安心と安全」な生活と経営の実現に貢献することを目指しています。皆様に安心してキャリア形成いただけるよう「インターンシップ・ボランティア等体験活動保険」を提供させていただいております。
26	(株)竹尾	千代田区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	1899年の創業以来、一般印刷用紙、特殊印刷用紙(ファインペーパー)の開発、販売を通して「情報の伝達」「環境の保護」「文化の向上」等の社会貢献に寄与しています。「ファインペーパーの竹尾」と全国に知れ渡り、約320銘柄、8,500種の紙を取り扱い、市場ニーズにあった製品の提供を続けています。
27	(株)チバダイス	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの3割は海外との取引です。
28	(株)ツバサ・翼学院グループ	葛飾区	(○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	学習障がい、不登校、非行歴のある子など約400名の塾生が在籍(青砥駅前校、高砂校、水元校、東水元)、当塾から都立高、私立中高、大学へと巣立っていきます。児童発達支援・放課後等デイサービスつばさクラブを併設して生活訓練や、社会との関わりに関する訓練も行っています。また第一薬科大学付属高校学習センターとして高校卒業のサポートを行っています。「学校でさじをなげた子を何とかしてくれる機関」として文部科学省や各地域の教育委員会からの視察、著書やメディアからの取材も多数あります。第7回日本でいちばん大切にしたい会社実行委員会特別賞、平成28年東京都経営革新奨励賞受賞。
29	鉄道機器(株)	中央区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に北陸新幹線、北海道新幹線用の高速分岐器を納入致しました。
30	東京ガス(株)	港区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	東京ガスグループは、1885年の創立以来、130年余にわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客さまの豊かな暮らしや社会の発展を支えてまいりました。今後も「豊かで潤いのある暮らし、活力に溢れ競争力のある産業、環境に優しい安心できる社会」の実現に貢献してまいります。
31	東京商工会議所	千代田区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	東京商工会議所は東京23区内の会員(商工業者)で構成される民間の総合経済団体です。1878年に設立され、商工業の総合的な発達と社会一般の福祉の増進を目的に、経営支援活動、政策活動、地域振興活動の3つを柱として活動しています。
32	東京書籍(株)	北区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	1909(明治42)年創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小・中・高校教科書発行部数は業界首位。学習教材・指導用教材・学習参考書も発行。デジタル教科書などのデジタルコンテンツの開発・販売、教育総合ポータルサイト運営などのインターネットサービス、学力・体力テストなどの各種評価事業、一般書籍・辞典等の出版に加え、日本語検定関連業務も行っている。
33	東京スマイル農業協同組合	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	東京スマイル農業協同組合(JA東京スマイル)は平成13年、江東三区にある足立農業協同組合、葛飾農業協同組合、江戸川区農業協同組合の3農協が合併し誕生しました。当組合は「地域社会への貢献」と「健全経営」を目指し、お客様のニーズに応えるべく、経営体制の構築を図っており、地域の農業を活性化させることを使命に、営農指導をはじめ、信用(金融)事業、共済(保険)事業、購買事業、販売事業(直売所)、宅地等供給事業、遺言信託事業、利用(葬儀)事業など、さまざまな事業を展開しています。
34	公益社団法人 東京都専修学校各種学校協会	渋谷区	—	東京都内の専修学校各種学校を代表する唯一の団体です。会員校の連携、協力のもと専修・各種学校教育の改善発展に貢献し、職業教育の振興普及を図ることを目的としています。1961年に設立され2012年に公益法人認定を受けました。会員校数は345校(2017年11月現在)

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
35	(株)東京都民銀行	港区	(○) 四大卒	東京都民銀行は関係当局の許認可等を前提として、平成30年5月1日に八千代銀行、新銀行東京との合併を予定しております。新しい銀行の商号は、『お客さまの夢を一段と明るくきらめかせたい』『お客さまの思いを預かり、次の世代へ力強くつないでいく』という願いを込め、『さらばし銀行』とする予定です。
36	(有)東京プリンテック	世田谷区	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。
37	(株)日刊工業新聞社	中央区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	「モノづくり立国」「技術立国」「中小企業振興」を理念とするわが国唯一の産業総合紙。創刊は1915年(大正4)、2015年に創刊100周年を迎えた。新・産業革命をもたらすIoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)、ロボット、ビッグデータの取材に力を入れる。国際ロボット展をはじめとするイベント事業も大きく展開する。
38	(株)日本化薬東京	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	当社はインクジェットプリンター用色素、繊維・紙パルプ用染料を製造しております。会社運営のキーワードとして(3つのCSQE)、即ち「コストダウン」「コンプライアンス」「コミュニティ」「セーフティ」「クオリティ」「エコロジー」を掲げ、高機能都市型工場を目指しております。
39	日本広告(株)	豊島区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	昭和20年創業。以来、電柱広告、交通広告をはじめとする屋外広告物の販売代理店として、永年にわたり地域の病院、質店、各種企業、商店等、幅広い業種の皆様の宣伝、誘導案内のお手伝いをしてきた会社です。
40	日本自動ドア(株)	中野区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。
41	信川化学工業(株)	葛飾区	—	超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、JA 機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機2,700t、2,200t、1,600t×2、1,200t、850t×4、650t×2他計21台。クレーン20t、10t他。
42	(株)箸勝本店	千代田区	—	明治43年創業の割箸専門店です。国内、海外へ業務用から家庭用、粗品用を含め300種類以上の特徴あるお箸を揃えております。昭和25年より宮内庁に白木のお箸を納め始め、今も園遊会など各種行事に納入しております。
43	(株)ハチオウ	墨田区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	産業廃棄物処理業として多品種の廃液や化学薬品の特殊な廃棄物の処理を行っています。これらの廃棄物処理は化学的知識や専門性を必要とします。都内では処理業者の数が少なく、各種研究機関や大学、民間企業の工場より評価・受注を頂いております。
44	日野自動車(株)	日野市	(○) 中学卒	「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。
45	(株)Five Rings	港区	—	資産形成コンサルタント業 ①人生計画書の作成サポート(人生計画実現に向けての資産計画、公的活用、教育情報の提供)②資産形成コンサルティング(事業計画策定、経費削減プラン、事業承継、M&A、各専門家のご紹介)③リスクマネジメント(効果的な生命保険・損害保険の選択、活用アドバイス)④資金調達サポート(融資における必要書類の作成アドバイス、ポイント説明)⑤セミナー・研修会(営業力、目標設定、マネープラン、副業支援、不労所得)
46	ベストワールド(株)	千代田区	(○) 四大卒	海外視察・研修旅行をお世話して50年。各教職員派遣をはじめ、業界別視察旅行、中高生対象の英語研修・ホームステイ、企業の社員旅行等を多数主催しております。また、オーダーメイド旅行も承ります。
47	山崎教育システム(株)	東村山市	(○) 専修卒 (○) 四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売(全国代理店500社)。
48	ヤマ産業(株)	文京区	—	教育備品を販売して50年。学校より信用を得て、安定している。
49	(株)読売新聞東京本社	千代田区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	「読売新聞」は1874年(明治7年)11月の創刊。全国紙として成長し、1994年に発行1000万部を達成した。発行部数は世界一。2011年に「読売KODOMO新聞」、2014年に「読売中高生新聞」を創刊した。

学校会員名簿

50 音順

私立高校

	学校名	所在地	課程	平成 30 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
1	爱国高等学校	江戸川区	全	普通科 (160) 商業科 (80) 家政科 (80) 衛生看護科 (40) 衛生看護専攻科 (40)	昭和 13 年創立以来、「親切正直」の校訓の下で女子教育を行っている。普通科は A (一般教養)・B (進学) の 2 コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の 2 コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科 (上級 2 年課程) は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学 (人間文化学部)・短期大学 (家政科栄養教諭免許・栄養士資格)・保育専門学校 (幼児教育科幼稚園教諭免許・保育士資格) がある。
2	安部学院 高等学校	北区	全	商業科 (200)	1940 年 (昭和 15 年) に創立して以来、一貫して「商業科のみの女子高校」として歩み続け、今年、満 77 年を迎えました。在校生には、「5 つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。2 年次よりコース制になり、簿記 1 級の取得を目指す「会計コース」と、パソコン等の実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の 2 コースに分かれて授業を行っています。卒業後の進路は、就職希望者よりも進学希望者が多く占めています。
3	岩倉高等学校	台東区	全	普通科 (300) S 特コース (30) 特進コース (30) L 特コース (60) 総進コース (180) 運輸科 (150)	我が国初の鉄道学校として明治 30 年に創立。多くの卒業生が鉄道・運輸業界で活躍している。平成 26 年度の入学生から「男女共学化」、「普通科・運輸科の 2 科システム」を実施し、学校の変革を進めている。普通科には S 特・特進・L 特・総進の 4 コースを設置し、進学教育に注力している。電子黒板を全ホームルーム教室に導入するなど、充実した環境の中で、特色ある教育内容や様々な進路指導を通じて、生徒の夢を具現化するカリキュラムで学力の向上に取り組んでいる。
4	大森学園 高等学校	大田区	全	普通科 (240) 国立コース (40) 選抜コース (80) 総進コース (80) 英語コース (40) 工業科 (120) 機械技術コース 電気技術コース 情報技術コース	【創立】 昭和 14 年大森地区の中小機械工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。 【学校改革】 創立 70 周年 (平成 21) にむけて「学校改革」始まる。平成 16 年、新校舎建築に着手。平成 17 年、学校名を「大森工業高校」から「大森学園高校」に変更。同時に普通科を新設し、第 1 期生をむかえる。平成 19 年校舎建築完了、普通科を共学化。平成 21 年 4 月、創立 70 周年記念式典を挙行了た。
5	科学技術学園 高等学校	世田谷区	定 通	普通科 (160) 普通科 (2,750) 電気科 (900) 機械科 (600)	昭和 39 年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和 50 年普通科設置、昭和 52 年現校名に変更する。昭和 53 年昼間定時制課程を設置し、単位制総合高等学校として、様々な生徒のニーズに対応できる教育環境を整えている。 通信制課程では、企業内訓練校を中心とした技能連携コース、と個人を対象とした単位制コースがあり、単位制コースは、登校日数を選んで登校する「通学型クラス」、インターネットでスクーリングを受ける「e ラーニングコース」があり、生徒個々人のライフスタイルに合わせた学習環境を選べるコースを設置している。 昼間定時制課程は (男子のみ)、生徒が積極的に学習に取り組むよう、ICT 機器を導入した参加型授業を実践している。また、2～3 年次には総合選択コース制を導入し生徒の多様化に対応している。 平成 30 年より、「理数クラス」を新設する。
6	蒲田女子 高等学校	大田区	全	普通科： 幼児教育コース (80) キャリアコース (170)	【創立】 漢学者・教育者である学祖簡野道明の「子どもの教育にとって最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本である」・「人間生活を律する根本の筋金は道德なり」との教育理念に基づき、昭和 16 年に夫人の信衛によって蒲田高等女学校が創立された。 【2 コース制】 併設する蒲田保育専門学校・ふぞく幼稚園・ふぞく保育園のバックアップのもと、実践的な教育環境をもつ『幼児教育コース』と、多彩なカリキュラム選択で、希望する進路を柔軟にサポートする『キャリアコース』の 2 コース制を展開し、日本文化を尊重しながら、時代の変化に主体的に取り組み、社会に貢献する女性の育成に努めている。
7	京華商業 高等学校	文京区	全	商業科 (150)	生徒一人ひとりの個性を伸ばすオンリーワン教育を推進。資格検定試験合格にむけたきめこまかい指導を行っている。また、はやくからインターンシップをとり入れるなど、キャリア教育にも力を入れている。
8	昭和第一学園 高等学校	立川市	全	普通科 (456) 特別選抜コース (16) 選抜進学コース (120) 総合進学コース (320) 工学科 (120)	1940 (昭和 15 年) 昭和第一工業学校として創立。1989 (平成元) 年より昭和第一学園高等学校と改称し、男女共学、普通科・工学科の総合学園となる。2018 (平成 30) 年 4 月より普通科に新たなコースを設置、グローバル化に対応できる人材の育成を目指す。工学科は 2017 (平成 29) 年度よりコースを統合。他分野を総合的に学びつつ進路希望に合わせて履修科目を選択できる。高大専連携により大学等の実習機材でデジタルなものづくりを学ぶ。進学支援センターによる学習支援、キャリアカウンセラーによる相談、資格取得支援により「確かな学力と豊かな人間性に支えられた人間力の育成」を目指す。
9	昭和鉄道 高等学校	豊島区	全	鉄道科 (215)	校名に「鉄道」を冠した、日本で唯一の高校である。昭和 3 年 (1928 年) 創立、以来一貫して、鉄道・交通を中心とする産業教育をすすめて、現在まで 19,000 名以上の卒業生を鉄道界を中心に送り出している。社会情勢に鑑み、平成 16 年 (2004 年) に男女共学とした。鉄道科のみを設置している。
10	大成高等学校	三鷹市	全	普通科： 特別進学コース (75) 文理進学コース (290) 情報進学コース (40)	校名の由来である「大器晩成」を教育理念とし、生徒の能力が大きく開花するように、学力や人間力を身につかせます。特進コースはもちろん文理コースでの進学実績も向上しています。また、情報コースでは全員が情報処理検定 1 級に合格することをめざして専門技術と理論の習得に力を入れています。
11	中央学院大学 中央高等学校	江東区	全	普通科 (35) 商業科 (65)	創立以来 110 年を超える歴史と伝統の中で、建学の精神の下「倫理観」を持った誠実な人間の育成を指導理念として、人格教育を実施しています。生徒一人ひとりの興味・関心・能力を見極め、秘めた可能性を引き出すことに力を注いだ教育活動に励んでいます。さらに、平成 29 年度から ICT (タブレット) を活用した先進的な教育環境を整えます。進学も中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導に特色があります。

	学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
12	東京学園 高等学校	目黒区	全	募集停止	男子に特化した多様な教育によって、生徒一人ひとりの強みを引き出し、自信を持って生きていける知力・気力・体力と他者を尊重する心を養い、優れた学力と逞しい人間力を育成します。また、平成18年には目黒区と協定を結び、本校の敷地内に目黒区の災害用防災倉庫を設置し、地域の方々にも貢献する事が出来る態勢を整えています。
13	東京実業 高等学校	大田区	全	機械科 (135) 電気科： 電機コース (45) ゲーム IT コース (45) 普通科： ビジネスコース (180) 文理コース (90)	全科男女共学。週5日制。総合学園高校として各科、各コースの生徒は目的を持って学校生活を送ります。自立できる人間を育成するために、3年間で各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定に役立れます。また、転科試験で学校生活を見直す機会を持ち、国際理解教育の一環として、米国コロラド州ボルダー地区の公立高校との間に交換留学制度があります。電気科ゲーム IT コースは平成22年度より、文理コースと共に土曜日は特別授業。
14	日本工業大学 駒場高等学校	目黒区	全	普通科： 特進コース (35) 理数特進コース (30) 総合進学コース (185) 工学科： 理数工学科 (100) 創造工学科 (80) 機械コース・建築 コース・電子機 システムコース	生徒一人ひとりの希望進路の実現を目指す普通科(3コース・共学)と多様な進路選択ができる工学科(理数工学科・共学)と(創造工学科・男子)3コースをもつ創立110年の学園です。創造工学科は機械・建築・電子情報システムの3コースを括り募集します。入学後一年間普通教科のほかに工学の学科を総合的に学習して2年進学段階でコースを選択します。
15	NHK 学園 高等学校	国立市	通	普通科 (3475)	昭和38年(1963年)にわが国で初めての広域通信制高等学校として開校しました。学習に放送(NHK高校講座)を全面的に取り入れ、どこでも学べる学校として多様な生徒への学びを提供しています。不登校傾向の生徒に向けた登校回数の少ないコースから、週3日登校のコースまで生徒の個に応じた学び方を用意しています。
16	八王子実践 高等学校	八王子市	全	普通科： 特進コース J特進 (20) 特進 (60) 文理コース 文理選抜 (80) 文理進学 (140) 普通コース (180)	建学の精神は「自重・自愛・自制・自立」、そして伝統的教育理念である「実践」を根幹として「知育・徳育・体育」の調和のとれた全人教育を目標に90年の歴史を歩んでいます。普通科は特進コース、文理コース、普通コースの3コースを設け、進学や就職など、多様な進路選択ができるよう学習指導を行っています。調理科は募集を停止しております。
17	村田女子 高等学校	文京区	全	普通科 (80) 商業科 (82)	夢を叶え素敵な未来を拓くために、目的を持って現役進学を目指す普通科と現代社会に即した知識と技術を磨き、社会で活躍するステキな女性を目指す商業科。村田は二科五コースで生徒一人ひとりのキャリアデザインを支援しています。その柱になるのが「資格取得」教育。中学までは気がつかなかった自分の可能性を、「検定試験」への挑戦で引き出し、自信につなげていきます。
18	日野工業 高等学園	日野市	通	(60)	日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダーの育成を目指す企業内高校です。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があります。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。

都立高校

▽農業に関する学科

	学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
1	都立園芸 高等学校	世田谷区	全	園芸科 (70) 食品科 (35) 動物科 (35)	1908年(明治41年)に創立し110周年を迎える。全国農業系高校の中心校である。100年前に日本からの桜寄贈のお礼に米国から頂いた「百年ハナミズキ」が我が国で唯一現存しており、27年4月にはケネディ米国大使、農林水産副大臣、都教育長が来校され記念式典を行った。さらに、三代将軍徳川家光公遺愛の松の盆栽など歴史的財産が校内随所にある。
			定	園芸科 (30)	園芸科、食品科、動物科があり生徒の多様な進路にしている。定時制園芸科では大人を対象とした園芸技術専修生制度もあり、夜間2年間の専門学習で卒業ができる。
2	都立農業 高等学校	府中市	全	都市園芸科 (35) 緑地計画科 (35) 食品科学科 (35) 服飾科 (35) 食物料 (35)	1909年(明治42年)に創立された多摩地区で長い伝統と歴史をもつ専門高校です。109年にわたり常に社会の変化に対応した先進的な取組を行い、農業及び家庭に関する専門教育とそれを支える普通教育を両輪として21世紀を担う人材を育成しています。全日制では、「夢を創造する」をテーマに、①手の仕事の面白さ、②本物体験で心を豊かに、③普通教科の学習は一生の基礎、④チームワークで協調性、⑤発表力や表現力を磨く、⑥プロ講師の授業という六つの学びの特色を生かして、本校でしか学べない学習内容を生徒が熱心に取り組んでいます。
			定	食品化学科 (30)	定時制では、教育目標「他者への思いやりをもって、未来を切り拓く人間の育成」を達成するため、普通科及び農業科としての特色ある教育活動を展開し、きめ細かい指導を通じて生徒一人一人の進路希望の実現を目指しています。
3	都立農芸 高等学校	杉並区	全	園芸科学科 (35) 食品科学科 (70) 緑地環境科 (35)	創立1900年(明治33年)の歴史と伝統のある専門高校である。全日制に園芸科学科、食品科学科、緑地環境科の3学科4学級、定時制に農芸科1学科を設置している。都心にありながらも緑に囲まれた校舎、実習棟や農場などあわせて73,304㎡という広い敷地を持ち最新の施設や設備が導入されている。JR「阿佐ヶ谷」駅前の花壇作り、小学生を本校に招いての豆腐作り教室等、地域貢献活動を推進し、学校の教育機能を積極的に地域社会に提供している。また、環境教育実践宣言校として、自然環境都市環境の創造に加え、日々、ゴミ減量・節電に取り組み、環境にやさしい農業高校を目指している。なお、都立高校唯一の馬術部を設置し馬場馬術競技の練習に励んでいる。
			定	農芸科 (30)	

	学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
4	都立農産 高等学校	葛飾区	全	園芸デザイン科 (70) 食品科 (70)	東京都東部にある唯一の農業高校で、「食と緑と農を創造する学校」として地域に根ざした教育活動が行われている。全日制では、2学科4類型を設置している。園芸デザイン科では、草花や野菜の栽培、バイオテクノロジー、フラワーデザイン、造園など、食品科では食品の原材料の栽培から加工・流通、食品化学実験、食品デザインまで幅広く関連分野を体験・体感しながら学んでいる。 定時制は、農産科として園芸系と食品系の両方を学ぶことができる農業高校として、生徒は落ち着いた環境の中で生き生きと学習や部活動に取り組んでいる。 全日制・定時制ともに、キャリア教育の充実や農業の6次産業化を踏まえた実践的な経営学習、学校農業クラブ活動の充実、FFJ検定の実施、アグリマイスター顕彰制度への取り組みなどをおして自己の可能性を伸長させるとともに、農業関連分野を中心とした生徒の第一志望の実現を図る教育活動を展開している。
			定	農産科 (30)	
5	都立瑞穂農芸 高等学校	西多摩郡 瑞穂町	全	畜産科学科 (35) 園芸科学科 (35) 食品科 (35) 生活デザイン科 (70)	「生命(いのち)に学ぶ学校」として設置する全日制4学科、定時制1学科のすべてで「生命」に係りながら学習している。「生命(いのち)に学び夢を叶える～Learn about life and realize your dreams～」をキャッチフレーズとし全日制では「わかる」「できる」「つかう」、定時制では「知る」「わかる」「できる」「つかう」のステップで学習をすすめている。 都内唯一の畜産科学科では、大動物の飼育・管理が学習できる。豊かな自然環境、恵まれた施設・設備の下、充実した専門科目の学習に取り組める。日本獣医生命科学大学と連携協定を結び大学の施設を使用している学習が体験できる。 さらに、キャリア教育の一環として地域と連携した教育活動を推進し、望ましい職業観や豊かな社会性を育んでおり、進学から就職まで幅広い進路希望に対応している。定時制は規模が小さいが、きめ細かな指導が行われ、園芸、食品、畜産の幅広い分野について学習でき、大変落ち着いた学習環境である。
			定	併合科(普通・農業)(30)	

▽工業に関する学科

6	都立足立工業 高等学校	足立区	全	総合技術科 (175)	機械・電気系の総合技術科。1年は機械、電気基礎を共通履修、2年から機械系か電気系を選択、選択科目で得意分野を伸ばす。第二種電気工事士を中心に資格取得に力を入れている。地域密着の工業高校として、2学年全員のインターンシップ実施や小中学校や地域連携を積極的に推進している。施設・設備拠点校に指定され、施設・設備が充実している。
7	都立荒川工業 高等学校	荒川区	全	電気科 (70) 電子科 (35) 情報技術科 (70)	本校は、都立の高等学校の中で、唯一電気系の学科のみで構成される工業高等学校で、ものづくりと資格取得を特色としている。将来の電気系の技術者・技能者として、特に産業社会を支える人材の育成を目指し、ものづくりに関する技術・技能、社会人としての常識やマナーを確実に身に付ける取組を行っている。資格取得では、電気工事士をはじめとして、工事担任者、特殊無線技士等の国家資格取得を目指し、早朝や放課後に補習や講習が行われている。キャリア教育では、様々な取り組み、個別指導の充実を図り、就職希望者の内定率は、例年ほぼ100%である。部活動は活発で、平成29年度体力気力鍛錬道場指定校でもある。例えば柔道部(定時制課程)では、全日制課程と定時制課程で合同練習を行い、平成29年度全国大会で、上位の成績を収めている。
			定	電気・電子科 (30)	
8	都立葛西工業 高等学校	江戸川区	全	機械科 (35) 電子科 (35) 建築科 (70) デュアルシステム科 (35)	昭和38年に開校した本校は、東京都教育委員会より東京版デュアルシステム科設置の指定を受け平成30年度より新しくなります。機械科・電子科・建築科・デュアルシステム科の4科5クラスの学校になります。 ①地域産業会と連携した授業を行っています。②施設が充実しており、設備拠点校実習を行っています。③地元「ねぶた祭り」をおして、小中学校と連携しています。④防災教育として地域の消防関係と連携しています。また、幼稚園の避難訓練をサポートしています。等、様々な方々と連携し地域貢献をおして、工業人・職業人の育成を目指しています。
9	都立北豊島工業 高等学校	板橋区	全	総合技術科 (175)	全日制課程大正9年に創立され、平成32年に100周年を迎える。社会に有用な人材育成を行い、約2万名の卒業生を社会に送り出している。機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を広く学び、社会に貢献出来る人材育成に取組、電気工事士、危険物取扱者、工事担任者などの社会で役立つ資格取得に力を入れ、確かな進路実現を図り、就職決定100%を保持している。東京都教育委員会より、デュアルシステム推進校として指定を受け、企業と高校が連携した新しい職業教育システムであるデュアルシステムを取り入れた教育課程を編成して、日本のものづくりの後継者の育成を目指している。また、工業実習の設備拠点校としての指定を受け、施設設備を整え、近隣の工業高校と連携し、ものづくりの技術・技能の習得と継承に力を入れている。 定時制課程は機械科の単科であり、各学年一学級30人定員で、ものづくりの加工技術・技能を習得し、確かな進路実現を目指し、人材育成に取り組んでいる。
			定	機械科 (30)	
10	都立蔵前工業 高等学校	台東区	全	機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35)	創立90年を超える伝統に裏打ちされた教育活動により、多くの卒業生が産業界で活躍し、日本の工業界をリードしている。 ○全日制 東京都教育委員会より、ものづくり人材育成教育プログラムに関する「特定分野推進校」指定を受け、都立工業高校を牽引する役割を担い、スペシャリストの育成を目指したもののづくり人材育成教育を実践している。さらに、「部活動推進指定校」として、部活動の活性化を図っている。進路指導では、就職希望者は、高度な技術・技能と資格取得により企業で即戦力となる人材、進学希望者は、理工系大学へ進学する学力を確実に身に付ける指導を実践している。 ○定時制 都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学ぶ。学修方法によっては、3年間で卒業も可能。学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。
			定	建築工学科 (30)	

	学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
11	都立工芸 高等学校	文京区	全 定	マシクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアーツ科(35) マシクラフト科 (30) アートクラフト科 (30) インテリア科 (30) グラフィックアーツ科(30)	本校は、100年を越える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only One のものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。 開校以来2万人を越える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。 また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。 卒業後の進路は、進学割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野へ進学しています。
12	都立小金井工業 高等学校	小金井市	定	機械科 (30) 電気科・電子科 (30)	平成22年3月に全日制課程が閉課程となり、平成22年度から定時制単独校になる。施設・設備が充実していて、多摩地区唯一の定時制工業高校である。校舎の改築・改修工事が進み、新校舎が平成23年8月に完成した。平成23年9月から座学の授業は新校舎で、実習の授業などは改修した新しい実験・実習棟で行っている。
13	都立杉並工業 高等学校	杉並区	全	機械科 (70) 電子科 (70) 理工環境科 (35)	本校は、昭和38年に開校し、教育目標として(1)勤労と責任を重んじる誠実な人をつくる、(2)個性を伸ばし、自主的にして協調性のある人をつくる、(3)豊かな教養を備えた地球環境に配慮できる技術者をつくる、ことを掲げています。東京都No.1の資格取得を目指して朝講習などや期末考査後に様々な講習会を行い、生徒を全面的に応援しています。また、部活動を通じて、顧問や友人同士の絆を深める取組みや近隣の小中学校生に対してのものづくり体験の機会を提供するなど、地域との連携を通じて多くのことを学ばせています。
14	都立墨田工業 高等学校	江東区	全 定	機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35) 総合技術科 (30)	全日制は、4学科をもつ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組み、進路希望達成率100%を維持している。創立118年を迎える歴史と伝統があり、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。 定時制においても全日制と同じく進路希望達成率100%を実現しており、生徒一人一人に応じた実践的教育に取り組んでいる。
15	都立総合工科 高等学校	世田谷区	全 定	機械・自動車科 (70) 電気・情報デザイン科 (70) 建築・都市工学科 (70) 総合技術科 (30)	平成18年4月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校した。 全日制では、理工系大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、約40科目の自由選択科目を設定することで、さまざまな進路希望に対応している。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動の振興を図っている。 定時制では、資格取得を中心に、2年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの3コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3年間での卒業が可能な三修制を実施している。
16	都立田無工業 高等学校	西東京市	全	機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35)	本校は、機械科、建築科、都市工学科の三科からなる工業高校である。都市工学科は、全国でも数少ない学科であり、建築科は多摩地区の工業高校では唯一本校に設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの学科も地域に根差した技術者の育成を目標としている。また、デュアルシステムを導入し、三年間を通してキャリア教育を推進している。
17	都立多摩工業 高等学校	福生市	全	機械科 (70) 電気科 (35) 環境化学 (35) デュアルシステム科 (35)	・地元に着した工業技術者を育成する西多摩地区唯一の工業高校である。 ・環境化学科は、都内唯一の学科である。 ・平成30年度からデュアルシステム科がスタートする。2学年全員によるインターンシップを実施している。 ・各科とも資格取得に向けて積極的な指導を行っている。 ・多くの部活動が活発に活動し、大きな成果をあげている。
18	都立中野工業 高等学校	中野区	全 定	キャリア技術科 (175) 総合技術科 (30)	平成30年度より工業高校として2校目のエンカレッジスクールとしてスタートします。可能性はありながら力を発揮しきれずにいる生徒が、3年間を通して、社会人として必要な基礎・基本を身に付けるとともに、ものづくりを通して自己の在り方生き方を見つめ、社会人として自立していく力を培うために自らの可能性を信じてチャレンジする学校です。 定時制課程では1学年後半から、機械類型、食品工業類型のいずれかを選択し、専門性を深めています。
19	都立練馬工業 高等学校	練馬区	全	キャリア技術科 (175)	平成18年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りをもつ学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3年生では6系列(機械加工技術、オートメカニク技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP技術、インテリア技術)から選択して、より専門的な学習を行います。
20	都立府中工業 高等学校	府中市	全	機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35)	・「ものづくり人材育成プログラム」の指定を受け旋盤技能士、電気工事士などの各種資格取得に向けた指導に積極的に取り組んでいる。 ・インターハイ出場の陸上競技部、全国大会出場のパソコン部をはじめ、硬式野球部、バスケットボール部、軽音楽部など活発に活動し、実績を上げている。
21	都立本所工業 高等学校	葛飾区	定	総合技術科 (30)	・総合技術科として、一学年では工業の基礎的・基本的な技術を学び、二学年からは、機械・電気・電子の各類型に分かれて、専門知識や技術を学習する。 ・生徒主体の学校行事を通して、「やる気・根気・本気」を引き出し、日々の授業では、少人数指導の特色を生かし、きめ細かい・わかりやすい指導を実践している。 ・「面倒見の良い学校」として、基礎学力向上や技能・資格取得の指導を充実させることにより、生徒一人ひとりの進路実現を図っている。

	学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
22	都立町田工業 高等学校	町田市	全	総合情報科 (175)	本校は、充実した施設・設備、きめ細かな指導体制など優れた学習環境を備えた都立で唯一の「総合情報科」の工業高校です。「情報デザイン」、「アプリケーション」、「情報システム」、「電気システム」、「機械システム」の5つの系列があり、1学年では全員が同じ内容(5系列すべてに関する工業の基礎科目)を学習し、それぞれの興味・関心、進路希望に基づき1つの系列を選択します。2・3学年では系列別のクラスに分かれて専門性を深めるとともに多彩な選択科目で自分に適した学習を進め、「進路実現」、「力をつけて卒業」を目指しています。

▽工業に関する学科(単位制)

23	都立六郷工科 高等学校	大田区	全	プロダクト工学科 (70) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35) デュアルシステム科 (35)	平成16年4月に開校した、都立高校で初めての単位制・二期制の工業系高校である。東京都初の東京版デュアルシステムを持ち、夜間定時制課程も設置されている。全日制課程には、機械系のプロダクト工学科、自動車3級整備士資格取得可能なオートモビル工学科、電気電子情報系のシステム工学科、コンピューターグラフィックスとプロダクトデザインが学べるデザイン工学科の4科がある。各科ともに、一年次から「工業技術基礎」を中心に工業分野の基礎・基本を学べる。普通科目も1学年と2学年の英語・数学を習熟度別クラス編成にしたり、進学に必要な自由選択科目を用意している。デュアルシステム科は、将来のものづくりを担う人材育成のために設置された全国で唯一のデュアルシステム専門の科である。地域の企業と学校で連携して生徒に技術指導する。企業での長期就業体験を最大20単位卒業の単位として認めている。平成30年度から在京外国人入学枠をデュアルシステム科とオートモビル工学科に各5名設置して、城西地域ものづくり人材の確保に繋げていく。定時制には、単位制と3修制を取り入れた生産工学科と普通科の2科がある。
			定	普通科 (30) 生産工学科 (30)	

▽科学技術科

24	都立科学技術 高等学校	江東区	全	科学技術科 (210)	平成13年に都立高校で初めて「科学技術科」を設置した新しいタイプの進学型専門高校です。開校以来、科学技術教育を通じて、創造性、問題解決能力、コミュニケーション能力を養い、将来の科学技術者・研究者として工学系、理学系、農学系、薬学系、医療系などの分野で活躍できる人材の育成を目指しています。材料・流体・力学系、電子・情報系、化学・バイオ系などの科学技術の基礎的な知識や基本的な技能に関する幅広い学習と、理系大学進学に必要な数学、英語、理科などの普通教科の学習、自ら深く考え他者と対話しながらまとも外部に発表する力を身に付ける特色ある教育活動に力を入れています。
25	都立多摩科学 技術高等学校	小金井市	全	科学技術科 (210)	理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高める。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。

▽商業に関する学科

26	都立赤羽商業 高等学校	北区	全	募集停止	商業の専門高校として伝統を引き継ぎつつ、新たなことにチャレンジしています。「体力気力鍛錬道場」「コアディネーショントレーニング地域拠点校」「NIE教育実践校」に加え、今年度は「ボランティア活動推進校」としても活躍しています。スポーツ科学センターや赤羽自然観察公園など「西ヶ丘」の恵まれた環境を活かし、地域とともに歩む学校です。社会で立派に自立できる生徒を育成するため、就職や進学指導等、生徒の自己実現を支援しています。
27	都立足立 高等学校	足立区	定	普通科 (90) 商業科 (30)	学級数15、在籍生徒数約300名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は4学級(各学年1学級)ある。学校規模を生かし定時制単独の文化祭やスポーツ大会など、数多くの学校行事が行われている。運動部を中心に部活動も盛んであり、定通の全国大会にも出場している。定時制専用の情報処理教室はH26年度に更新した。コンピュータ会計の最新ソフトを導入し、コンピュータ会計の資格取得の指導を行っている。
28	都立荒川商業 高等学校	足立区	全	総合ビジネス科 (210)	平成18年度より文部科学省「目指せスペシャリスト」スーパー専門高校に指定(3年間)され、特色ある教育活動を展開している。地元商店会のPRフラッグのデザインを考案(年4回更新)したり、生徒のデザインによるラッピング都電(外装塗装)を、平成18年より22年3月まで通常運行させるなど地域に根ざした教育活動が高く評価されている。生徒商業研究発表大会・全国産業教育フェアにも参加。平成21年度創立50周年を迎えた。
			定	商業科 (30)	
29	都立五日市 高等学校	あきる野市	全	普通科: 「ことばと情報」の コース (80) 商業科 (70)	本校は四季折々に変化する山並みに囲まれた静かな五日市に位置しています。全日制普通科は平成17年度より「ことばと情報コース」に改編しました。このコースではコミュニケーション能力の修得を柱とし3年間で「ことばの力」を身に付けます。商業科では2年次に「簿記コース」と「情報コース」に分かれ、これからの社会に対応した知識・能力・資格の修得を目指します。平成29年度は「都立高校生の社会的自立を目指す進路支援事業」と「学力向上研究校」の指定を受け、中途退学の未然防止や基礎学力の定着などに取り組んでいます。入学選抜では、普通科及び商業科において各1名、女子バスケットボール部の文化・スポーツ特別推薦を実施しています。定時制は面倒見が良い指導で定評があります。全日制・定時制ともに進路実現100%を目指しています。
			定	併合科(普通・商業) (30)	
30	都立葛飾商業 高等学校	葛飾区	全	ビジネス科 (210)	全日制は、平成23年に創立50周年を迎え、地域に根ざした専門高校として、キャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの進路実現に取り組んでいる。また、健全育成に努めるとともに、資格取得指導と実学のビジネス教育の充実を図り、社会に貢献できる人材の育成を目指している。23～25年度言語能力向上推進校、26～27年度規範意識向上推進モデル校、29～31年度アクティブ・ラーニング推進校の指定を受けて、あらゆる機会を通して生徒の資質向上と学校生活の充実に取り組んでいる。なお、30年度入学生から従来の商業科と情報処理科を発展的に統合し、ビジネス科に改編する予定である。定時制は、マーケティング部はもとより、バスケット、バレー、芸術部門の部活動が盛んで、生徒の活躍が学校全体の活力になっている。
			定	普通科 (30) 商業科 (30)	
31	都立江東商業 高等学校	江東区	全	ビジネス科 (175)	ビジネス三言語(IT、会計、英語)に力点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでいる。同時に、社会人としての必須のマナーを身につけた生徒の指導を行っている。さらに、クラブ活動の振興を積極的に図り、学んで楽しい学校作りを目指している。

	学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
32	都立芝商業 高等学校	港区	全	ビジネス科 (210)	社会で活躍することを前提に目標を持って学ぶ東京都の商業高校の拠点校です。実社会で活躍するために経済社会を知り、進路に応じたスキルを身に付けるため、全員インターンシップや竹芝地区まちづくり参画等の地域連携を学習活動に取り入れた実践的・体験的学びを充実。多くの資格取得と共に社会人としてのマナー指導に定評がある。ビジネスと観光の拠点、JR浜松町駅・メトロ大門駅徒歩5分の、東京都都市再生ステップアッププロジェクト竹芝地区に位置する、ビジネス学習には最適な環境にある都心の伝統校です。
33	都立第一商業 高等学校	渋谷区	全	ビジネス科 (210)	学校創立100年を迎える商業の伝統校である。東京都の商業高校のリーダーとして、生徒から「第一商業に入学してよかった」、地域から「第一商業があってよかった」、職員から「第一商業に勤務して良かった」と言われる学校を目指している。大学進学・企業就職の両方に対応した教育課程と進路指導が充実している。進学では、商業科目等での学びの成果として取得した高度な資格等を活用し、指定校推薦や公募推薦等で多くの大学に現役合格している。 部活動では、ソフトボール部や女子バレー部、簿記部、軽音楽部などが盛んであり、地域連携では、学校開放事業、地域の行事への参加、公開講座や出前授業等「地域に学び、地域に貢献する学校」として高い評価を得ている。
34	都立第三商業 高等学校	江東区	全	ビジネス科 (210)	全日課程、定時課程とともに、多くの卒業生がわが国の実業界や経済界の中核で活躍しています。まさに校歌に謳われるように「日本の富を担う」学校です。「生徒一人ひとりが光り輝く学校『SUN 商』というコンセプトに基づき、生徒の思いや願いを実現するため、次のMission Statement (ミッション・ステートメント：使命宣言)を約束します。①充実した商業科目の学習により、将来に役立つ資格取得を応援します。②習熟度別による丁寧な指導により、国語・数学・英語の基礎学力を向上させます。③卒業後の進路実現100%を目指します。④地域と連携し、地域から愛される学校を目指します。
			定	商業科 (30)	
35	都立第四商業 高等学校	練馬区	全	ビジネス科 (210)	「マナーの四商、資格の四商、社会人基礎力を養成する学校」 昭和15年の開設から今日に至るまで、77年の伝統と歴史の中で一貫して産業界で活躍する多くの有為な人材を育成してきました。 平成30年度より商業科と情報処理科が統合されビジネス科となりますが、情報処理科の学びについても選択科目で学べます。外部諸機関と連携した調査・研究・販売・商品開発等の実践的な実学のビジネス教育やITパスポート試験や各種検定合格など着実に力をつけています。 部活動も盛んで、アーチェリー部は関東大会出場、他にも硬式野球部、女子バスケットボール部、女子バレーボール部、女子ソフトボール、吹奏楽部なども学校として力を入れています。
36	都立第五商業 高等学校	国立市	全	ビジネス科 (210)	全日課程は、創立76年を迎えた多摩地区唯一の伝統ある商業高校です。平成30年度から都教育委員会の施策による商業科からビジネス科への改編にあたり、教育課程を変更し、7時間45分授業をスタートします。これまで取り組んできた高度資格指導に加え、高大連携や地域連携等の充実を図り、新しいビジネス教育を推進します。また、大学進学指導と都立高校屈指の就職実績についてもさらに磨きをかけていきます。 定時課程は、「基礎・基本の学習を徹底」「楽しい行事」「部活動がさかん」「夢が実現する進路」「充実した施設設備」を特色とする伝統校です。平成28年度から標準服を制定しました。パソコン部がワープロ全商全国大会に出場します。
			定	商業科 (30)	

▽ビジネスコミュニケーション科

37	都立千早 高等学校	豊島区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	・英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 ・「使える英語」を目指して「多読と発表」を授業に取り入れ、会話もイングリッシュキャンプ(1年)、海外修学旅行(2年)と行事で実践。 ・新しいビジネス教育分野にNPO/NGOを学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学を特色とする。
38	都立大田桜台 高等学校	大田区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	「本当に英語を使える人」を育てるために13,000冊以上の英書を活用した「英語多読」の授業や「アメリカン・キャンプ(1年生)」「キャリア・アップ修学旅行(2年生)」などの学校行事を通し国際理解を深めます。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「プレゼンテーション技術」「ファイナンス」「ビジネスモデル研究」など多様な学校設定科目により充実したビジネス教育を行います。

▽家庭に関する学科

39	都立忍岡 高等学校	台東区	全	普通科 (160) 生活科学科 (70)	平成18年度に、全日制・単位制、普通科と生活科学科の併置校として開校した。学科の目標は、普通科「大学進学希望の実現」、生活科学科「将来のプロフェッショナルとして必要な資質・能力の育成、大学進学希望の実現」である。 単位制を活用した多様な選択科目を設置するとともに、習熟度別授業、少人数授業による基礎的・基本的な学力と向上に努めている。また、大学・専門学校と連携した専門性の高い授業も実施すると共に、茶道、華道、将棋などの「日本の伝統文化」を自由選択科目として第7限に設置している。
----	--------------	-----	---	-------------------------	---

▽福祉に関する学科

40	都立野津田 高等学校	町田市	全	福祉科 (35)	平成8年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成18年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。
----	---------------	-----	---	----------	--

▽国際関係に関する学科

41	都立大島海洋 国際高等学校	大島町	全	海洋国際科 (80)	「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験的な国際教育・海洋教育により、21世紀の課題を発見・探求するとともに、これに貢献する高い志と国際化社会に対応する優れたコミュニケーション能力、良識、学力、逞しさをもつ国際人を育成します。2年生からは「国際系」と「海洋系」に分かれ、前者は国際的な視野を持ち4年制大学を目指し、後者は海洋系大学進学向けに海洋のスペシャリストを目指します。また、都立高校唯一の実習船大島丸による航海学習、海外語学研修を行い、寄宿舎においては自律的な生活習慣を育て、学習サイクルと「宅習3時間」による学習習慣により、生徒の進路実現を図ります。
----	------------------	-----	---	------------	--

学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
▽併合科				
42 都立大島 高等学校	大島町	全	普通科 (80) 併合科 (農林・家政) (35)	併合科の農林と家政では、専門科目の基礎から応用まで発達段階に応じた実習を多く取り入れて実践力を身に付けます。農林では産学公連携を拡大して、野菜・畜産・草花・森林分野の地域産業振興を重視して学びます。島の特産であるツバキに関しては、世界水準の学校椿園 (平成28年2月26日にICS 優秀つばき園認定) での研究も可能です。家政はスペシャリストの育成に向けて、技能オリンピックメダリストの招聘において、教科書にはない専門技術、知識を習得できるようにしています。その他、グローバル化や地域社会貢献に向けた体験的活動や奉仕活動もあり、恵まれた大島の自然環境においてジオパーク等の調査、地元産業の研究などの世界水準のブレ研究を可能にしています。
		定	普通科 (30)	
43 都立八丈 高等学校	八丈町	全	普通科 (120) 併合科 (園芸・家政) (35)	八丈島唯一の高等学校として、地域のニーズから左記の各科を設置している。敷地面積は約63,000㎡を有する。全日制は習熟度別学習や少人数制を導入し、生徒の学力に応じた授業を展開している (昨年度進路実績96%)。部活動が大変盛んで、生徒の約80%が所属している。定時制は三修制を取り入れるなど、生徒の要望に柔軟に対応している。島のほぼ中央に位置し、学校内外、花と緑に囲まれた素晴らしい環境にあり、羽田空港から空路約50分、1日3便就航。大変至便な学校である。
		定	普通科 (30)	
44 都立三宅 高等学校	三宅村	全	普通科 (40) 併合科 (農業・家政) (35)	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。
▽産業科				
45 都立橘 高等学校	墨田区	全	産業科 (210)	「ものづくりから流通、販売まで」を総合的に学習して、将来、地域社会・産業界を担う人材と起業家を育成します。「ものづくり・ビジネス・IT」を専門教育の柱に、上級学校への進学を視野に入れた好ましい勤労観・職業観を身につけるキャリア教育を実践します。
		定	産業科 (60)	
46 都立八王子桑志 高等学校	八王子市	全	産業科 ：デザイン分野 (70) ：クラフト分野 (35) ：システム情報分野 (35) ：ビジネス情報分野 (70)	本校はIT特区&学園都市八王子に開校、産業界や地域社会との連携を発展させます。国家試験をはじめ高度な資格取得や検定合格で自信をつけ将来を切り開き、複眼的に考える力と専門性を身につけ各界において活躍する人材を育て、広く社会から信頼される学校を目指します。特色は、桑高ブランド指導計画「千の夢計画」をもって時代の要請に応える「未来の産業人」の育成です。
▽情報科 (単位制)				
47 都立新宿山吹 高等学校	新宿区	定	普通科 (100) 情報科 (65)	各自が興味・関心・進路等に基づき科目を選び、幅広く、深く、学習するので、基本的に一人一人時間割が異なります (単位制)。定時制 (普通科・情報科) と通信制 (普通科) があり、どちらも、努力次第で3年間で卒業ができます (三修制)。定時制は、朝から夜まで、四つの部に分かれます (4部制)。情報科は、都唯一の「情報」の専門学科です。29年度からスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH) に指定されました。通信制は、自宅でレポート作成を行い、土曜日はスクーリングで本校に登校し授業を受けます。教員相互の授業見学を全教員で行い授業力高め、夏期講習等も行っています。毎年、国公立大や、早慶上理大・GMARCH等の難関私大に現役で40名以上が合格しています。
		通	普通科 (50)	
▽総合学科				
48 都立青梅総合 高等学校	青梅市	全	総合学科 (240)	平成18年旧都立農林高等学校跡地に、全・定併置の総合学科高校として開校した。豊かな自然に恵まれ、都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を活用して食・農・環境等の様々な体験活動を通して学ぶ特色ある総合学科高校である。全日制課程は文科・理科、生命・自然、食品・健康、環境・資源、生活・福祉の5系列を、定時制課程は生命・自然、生活・福祉の2系列を設けている。
		定	総合学科 (90)	
49 都立葛飾総合 高等学校	葛飾区	全	総合学科 (240)	平成19年度に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。平成29年度入学生から、国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、サイエンス・テクノロジーの4系列を配置している。ゼミナールと同様の講座を開講して課題研究に取組ませ、卒業生全員に2万字の論文作成を課している。生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目から「自分だけの時間割」を作成させる指導など系統的なキャリア教育により、社会で有用となる基礎的汎用的能力を育成し、生徒個々の進路実現を目指している。
50 都立杉並総合 高等学校	杉並区	全	総合学科 (240)	平成16年4月に、東京都で3番目の総合学科高校として開校。学校のキャッチフレーズは、「志を世界に繋ごう 自己実現・国際人・生涯学習」。国際理解教育に特に力を注いでおり、第二外国語の必修化 (1年次で中国語かハンガール)、台湾修学旅行、姉妹校交流 (オーストラリアのフォートストリート高校、台湾の内思高級職業高等学校、韓国的美林女子情報科学高等学校)、年間5回程度の海外訪問団受け入れ、年間5名程度の留学生の受け入れ、交換留学 (オーストラリアとフランス) 等の実施、トビタテ留学ジャパンで海外に派遣、次世代リーダー育成道場で毎年2人程度の海外留学をしている。個人で留学する生徒は年々増えている「人間・社会、科学・環境、メディア・文化、ビジネス、国際コミュニケーション」の5系列を持つ。
51 都立世田谷総合 高等学校	世田谷区	全	総合学科 (240)	○平成20年4月開校 ○幅広い6系列 (社会・教養、環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり) に魅力ある様々な選択科目を配置し、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー (身だしなみ、頭髮等) を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャーム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視。

	学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
52	都立つばさ総合高等学校	大田区	全	総合学科 (240)	平成14年に新規開校した都立2校目の総合学科高校である。美術・デザイン系列、科学・技術系列、国際・コミュニケーション系列、スポーツ・健康系列、生活・福祉系列の5系列を配備し、生徒が自身の適性・能力・興味・関心・進路希望等に応じて独自の時間割を編成し学習を進め、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001(国際環境認証)を取得し、環境教育に力を入れ、平成19年度「環境大臣賞」、平成21年度「文部科学大臣賞」、平成27年度「米国環境保護局EPA表彰盾」を受賞している。平成29年度には、環境省主催・環境教育実践力強化研修の会場となり、代表生徒がこれまでの環境活動の取り組みを発表するとともに、研究成果の審査員を務めるなど運営にも協力している。豊かな施設・設備の下、部活動も盛んであるとともに、様々な地域連携活動を展開し、地域に愛され親しまれている学校である。
53	都立晴海総合高等学校	中央区	全	総合学科 (280)	東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成8年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会・経済の6系列に多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図る学校である。「青い海 潮風の中 自分探しの旅に出よう!」のキャッチフレーズのとおり、「自分だけの時間割」を作成しながら夢の実現方法を学んでいる。
54	都立東久留米総合高等学校	東久留米市	全 定	総合学科 (240) 総合学科 (60)	本校は、平成19年4月に開校した全日制、定時制併置の総合学科高校。全日制では、学ぶ意欲を育てるための魅力選択や先進的な進路指導により大学などへの希望進路の実現を図る。自然科学、人文科学、情報・ファイナンス、スポーツ科学、看護・福祉、美術・デザインの6系列を設置。定時制では、教養、情報・ファイナンスの2系列を設置するとともに、三修制を実施。
55	都立若葉総合高等学校	稲城市	全	総合学科 (240)	平成17年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の4系列を持つ。教育目標のコンセプト“TO BE AMBITIOUS, ACTIVE, AND ATTRACTIVE” *大志を抱き (AMBITIOUS)、生き生きと活動し (ACTIVE)、魅力あふれた (ATTRACTIVE) 若者を育てる学校
56	都立町田総合高等学校	町田市	全	総合学科 (240)	○平成22年度4月開校、全日制総合学科高等学校 ○社会での生き方を視野に捉えた「キャリア教育」を教育活動の根幹とした学校 ○校訓「創」; 「自分創り」に取組み、「社会創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○基本的な学力を養うとともに、生徒一人ひとりが自己実現のための科目を自ら選択する。自分で創る自分自身のための時間割 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の4つの系列・自らを磨く「日本文化」の授業・社会と連携し、体験を重視した教育活動・自主・自立・自律の部活動。
57	都立王子総合高等学校	北区	全	総合学科 (240)	平成23年度開校、全日制総合学科高校 ○“Design your Dream”(あなたの夢を実現するために企画する)をキャッチフレーズとしている。自己の進路への自覚を深め、自ら夢を描き、その実現に向けて意欲的に計画し、実行する行動力と態度を身に付けます。 ○「国際・ビジネス」「文化・芸術」「メディア・ネットワーク」「サイエンス・テクノロジー」「スポーツ・健康」の5つの系列があります。

▽総合学科 (チャレンジスクール)

58	都立大江戸高等学校	江東区	定	総合学科 (180)	平成16年4月開校の三部制総合学科(単位制、定時制)高校。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行います。体験学習や実習、行事などを重視し、少人数の授業で、丁寧な指導を行っています。「チャレンジする人間」「創造的な人間」「信頼される人間」の教育目標のもと、様々な専門家の支援を受け、一人ひとりの自立を支えていきます。
59	都立桐ヶ丘高等学校	北区	定	総合学科 (180)	平成12年度に開校した、最初のチャレンジスクール(総合学科、単位制、昼夜間開講三部制の定時制)です。 『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の3系列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教育活動を展開しています。
60	都立世田谷泉高等学校	世田谷区	定	総合学科 (180)	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「製作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。
61	都立稔ヶ丘高等学校	中野区	定	総合学科 (210)	平成19年4月に開校したチャレンジスクール(三部制、定時制、総合学科、単位制)で、各学年7学級です。 校服(制服)があり静かな学習環境です。行動心理学に基づいた授業「コーピング」ではコミュニケーション能力の向上を図るなど、「強い(つよい)心」「自立した未来」を目標に、多くの選択科目や少人数授業、体験学習を展開しています。
62	都立六本木高等学校	港区	定	総合学科 (180)	平成30年度に開校14年目を迎えるチャレンジスクール。小中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしています。教育目標は“見つけて 磨いて 未来を拓く”です。基礎力を身に付けさせる普通科目と3つの系列に属する特色のある学校設定科目で生徒の見つけて磨く力をサポートしています。丁寧な進路指導により生徒の未来を拓く力を伸ばし、進路実現を図っています。

▽普通教育を主とする学科 (単位制)

63	都立浅草高等学校	台東区	定	普通科 (240)	平成18年4月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9階建て全館冷暖房完備のオフィスビルディングタイプの校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと保育体験や介護体験のできる「体験学習」などを特色とする。
----	----------	-----	---	-----------	--

学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
国立高校				
1 東京工業大学 附属 科学技術 高等学校	港区	全	科学・技術科 (推薦60、一般140)	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2年次から、材料科学・環境科学・バイオ技術・情報・コンピュータサイエンス、システムデザイン・ロボット、エレクトロニクス・エネルギー・通信、立体造形・デジタルデザインの5分野に分かれる。
高等専門学校				
1 都立産業技術 高等専門学校	品川区 荒川区	全	ものづくり工学科 (320) 創造工学専攻 (32)	平成18年度に都立工業高等専門学校(工業高専)と都立航空工業高等専門学校(航空高専)の再編統合を行い、本科の「ものづくり工学科」に8つの教育コースを設置した東京都立産業技術高等専門学校を開校しました。本校では「首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成」を目指しており、平成28年からは「情報セキュリティ技術者育成プログラム」「航空技術者育成プログラム」を新設し、首都東京が抱える課題解決に貢献しています。更に、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる、より高度な総合的実践的技術者を育成することを目指し、本科5年の上の2年の専攻科課程「創造工学専攻」を設置しています。平成20年4月には、公立大学法人首都大学東京に移管し、同法人の首都大学東京及び産業技術大学院大学との連携を推進しています。
専修学校				
1 愛国学園保育 専門学校	江戸川区	昼	幼児教育科 (50) 介護福祉士専攻科 (募集停止中)	本校は、昭和44年に設立された伝統のある専門学校である。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭2種免許状が取得できる。学生は、完備された学園において、斯界の権威ある教授に囲まれ、楽しく熱心に勉強している。就職についてみると、幼児教育科は毎年ほぼ100%の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職している。卒業生は勤務先から、専門に精通しており、明るく元気で、礼儀正しく、真面目で就職後もよく成長するという評価を得ている。
2 青山製図 専門学校	渋谷区	昼 夜	建築工学科 (30) 建築設計デザイン科 (60) 住宅設計デザイン科 (30) 建築インテリア工学科 (30) 商空間デザイン科 (30) 建築インテリアデザイン科 (40) 建築設計研究科 (80) 建築科 (50) インテリア工学科 (30)	昭和52年に設立以来、設計・製図・デザイン・CADの技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の9学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。
3 香川調理製菓 専門学校	豊島区	昼	調理マイスター科 (40) 調理師科 (120) 製菓科 (120)	女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部を併設する香川調理製菓専門学校は1959年、調理師学校として東京都で最初に認可を受けた伝統校です。校内には、一般のお客様を対象とした営業店を設置し実際の現場で実際のお客様を対象に仕事を学ぶという独自のカリキュラムに取り入れている。調理マイスター科は職業実践専門課程の認定を受けました。
4 窪田理容美容 専門学校	中野区	昼 夜 昼 通	美容学科 (200) 美容学科トライエンジ*コース (40) 理容学科 (40) テクニカルスタイリストビューティ*コース (40) テクニカルスタイリストアーティストコース (40) 美容学科 (160) 美容学科 (160)	昭和25年開校以来、「忍耐・創造・独立」を校訓に、理容師・美容師となるための専門知識、技術を習得させる事を縦軸、人としてマナーや接客方法などのサービス従事者としての心構えを習得させる事を横軸とし教育を行なっています。
5 国際デュアル ビジネス専門 学校 (新校名) 国際観光専門 学校 (旧校名)	台東区	昼	国際観光学科4月生 (30) 国際ホテル学科4月生 (120) 医療・医薬学科4月生 (40)	「人間教育」「実践教育」「国際人教育」の3つの教育理念を掲げ、観光・ホテル・医療分野への業界人の育成に取り組んでいる。専門知識と一般教養を育むカリキュラムに加え、座学と企業実習を組み合わせた、「日本版デュアルシステム」を取り入れている。平成28年に国際ホテル学科について「職業実践専門課程」の認定を受けた。知識と業界経験豊かな職業人の育成を目指している。
6 国際理容美容 専門学校	荒川区	昼 通	職業実践専門課程⇒ 理容科 (80) 美容科 (120) ビジネス美容科(80) 【修業年限2年】 専門課程⇒ ビューティアーティスト科 (40) 【修業年限1年】 高等課程⇒美容高等科 (60) 【修業年限3年】 理容科 (40)、美容科 (80) 【修業年限3年】	専門的な知識・技術と共に、心からお客様に尽くす為に自らを磨き続けることのできる人間を育て、「匠」の教育を目標としている。また、生活文化の向上による顧客の多様なニーズに応え、今後の時代の変化に対応できる人材および業界の向上と発展を担う人間性と教養豊かな資質の高い職業人の育成を目指している。

	学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
7	中央工学校	北区	昼	建築学科、建築工学科、 建築設計科、木造建築科、 建築設備設計科、建築室 内設計科 (260) インテリアデザイン科、 インテリア科 (40) エンターテインメント設 営科 (20) 土木建設科、造園デザイ ン科、測量科、地理空間 情報科 (170) 機械学科、メカニカルデ ザイン科、3D-CAD 科 (50) スポーツ健康学科 (30)	中央工学校は1909年(明治42年)に創設し、2009年10月21日創立100周年を迎えた。伝統と歴史を誇る専門学校で、社会に送り出した卒業生は10万5,000人を超え日本の国づくりをリードしています。教育理念『厳しい実務教育』『人間涵養教育』『誇りの持てる学校』とし、時代の変化やニーズに対応した教育内容と実習施設・設備を完備し、本格派の技術者を育成しています。学習面においては、クラス担任制できめ細やかな指導を行い、教師陣も技術革新の時代にふさわしい内容で備えています。学生寮なども充実しており、地方からの進学者にも安心して学べる環境となっています。資格についても建築系の全ての学科で卒業と同時に2級建築士の受験資格、土木・測量系学科では国家資格の測量士補が卒業と同時に無試験取得できる学科などプロフェッショナルになるためのカリキュラムを整えており、また、資格取得のバックアップ体制も整えています。就職指導においては、全国に広がった卒業生とのネットワークを活かしてクラス担任と就職指導の担当職員が連携を取り、学生の希望職種に就職できるようにしっかりとサポートしています。毎年ほとんどの学生が自分の目指す職業に内定を決めています。『中央工学校=就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。
			夜	建築科 (80) 土木科・測量科 (30)	
8	東京エアトラベル・ ホテル専門学校	小金井市	昼	エアライン科 (60) エアポートサービス科(40) 英語キャリア科 (30) ホテル科 (60) ブライダル科 (60) ビジネスマナー・秘書科(30) ファッションビジネス科(30) 観光旅行科 (30) 鉄道交通科 (40) 研究科 (20)	昭和48年の設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、エアライン、ホテル、観光、ブライダル、鉄道の各分野に優秀な人材を送り出している。少人数制で仕事に直結した豊富な実習やインターンシップ実習での現場を体験、ことば遣いや礼儀作法などのホスピタリティ教育、英語の他にも近年需要が高まっている中国語や韓国語などの語学教育など充実したカリキュラムで、社会で通用する品格のある人材を育成。こうした教育内容が評価され、現在は、アジアナスタッフサービス(株)や中国東方航空の採用指定校となっています。
9	専門学校東京工科 自動車大学校	中野区	昼	1級自動車整備科 (4年・50名) 自動車整備科 (2年・100名) エンジンメンテナンス科 (2年・80名)	日本の基幹産業である自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した特徴ある学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラムと安心して学べる独自の授業システムにより「解る・出来る・取れる」教育をしております。二級課程は短大卒と同等の専門士、一級課程は四大卒と同等の高度専門士の称号が付与され、大学院入学資格も与えられます。企業からの信頼も厚く、就職は毎年ほぼ100%を達成。平成26年度より「職業実践専門課程」の文部科学省大臣認定を受けている学校です。
10	東京工学院 専門学校	小金井市	昼	コンサート・イベント 科(60)音響芸術科(40) ミュージック科(20)放 送芸術科(30)声優・演 劇科(40)ゲームクリ エーター科(40)CGク リエーター科(30)Web クリエーター科(30)マ ンガ科(40)アニメー ション科(30)グラ フィックデザイン科(30) スポーツビジネス科(60) 幼児教育学科(40)こども 学科(40)教育専攻科 (40)公務員科(30)建築 学科(40)インテリアデ ザイン科(20)情報シス テム科(40)電気主任技 術者専攻科(20)航空学 科(20)法律情報科(30) 経営情報科(30)大学併 修学科(40)研究科(20)	昭和34年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。オックスフォード大学をはじめとする海外大学との提携や一流企業の現場でのインターンシップ体験、各業界で活躍している講師陣による徹底指導など、時代のニーズに応える高度な専門性や広い視野を持つ人材を50年以上社会に送りだしている。25学科59コースもの多彩な専門分野から構成される総合学院であり、各専門分野の知識や技能を修得するのみならず、他の専門分野との学科間、コース間を越えた学びも可能。それぞれの専門分野が協力して成り立っている社会という形を学校内に再現することで、学生たちにとっては貴重な経験となっている。一つのキャンパスで様々な専門分野を学ぶ学生同士が交流できることで、新たな価値観に触れ視野を広げ、コミュニケーション能力を鍛えられるのも特長の一つ。各学科は少人数制なので、学生一人ひとりの個性や適性に合わせた丁寧な指導を実施。また、中央大学、産業能率大学、日本大学、姫路大学、星槎大学との4年制大学通信教育課程と連携したWスクールシステムにより、「専門士」と「学士」の両方の学位の取得も可能。ビジネスの最先端で求められる力を身につけたスペシャリストの育成を目指している。
11	東京誠心調理師 専門学校	大田区	専門	調理師科2年制(120) シェフパティシエ科2年 制(40) 調理師科1年制(40) [調理技術・福祉調理]	1970年創立。2007年8月京急蒲田駅西口すぐそばに HACCP や ISO22000 に適用した、全く新しいコンセプトの基、新校舎が完成。調理師科2年制には、学内レストランにて、一般の方々を対象に専門学校生レストランを運営。メニュー開発から運営までをトータルに学ぶことができます。この他、毎年2月に開催されている全国調理技術コンクールでは、数々の大臣賞を受賞しており、技術教育についてもその質の高さを誇っています。2012年からは、週3日制の夜間部2年制を開校。社会人や大学生の方々にも入学し易い学科を設立。
			高等	調理師科夜間部 2年制(40)	
12	東京デザインテク ノロジーセンター 専門学校	新宿区	昼	スーパーIT科(80) IT・デザイン科(80)	本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。学科は、ITを核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。

学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
13 東京美容 専門学校	新宿区	昼 美容総合科ヘアスタイリ ストコース (80)(専門課程) 美容総合科トータル ビューティーコース (40)(専門課程) エステティック科 (16)(専門課程) メイク・ネイル科 (40)(一般課程)		本校は1947年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に70年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約80店舗のヘア&ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。
		通 美容通信科(通信)(80) エステティック通信講座(16)		
14 東京 YMCA 医療福祉 専門学校	国立市	昼 社会福祉専門課程 介護福祉科(2年)(80) 医療専門課程 作業療法学科(3年)(30)		世界のYMCAに共通の精神である「平和で優しい社会の実現に貢献する」に基づいて、学校法人東京YMCAによって1996年に設立されました。学生一人ひとりに合わせた指導で「人に向き合い、人を支える専門家」として豊かな人間性を持つスペシャリストを養成し業界に送り出しています。
15 日本ウェルネス スポーツ専門学校	練馬区	昼 アスレティックトレーナー科 (40) 健康スポーツ科 (40) ライフプロモーション科 (37) ウェルネスIT科A (4月入学)(30) ウェルネスIT科B (10月入学)(30)		日本ウェルネススポーツ専門学校は、1998年(平成10年)4月に開校された体育スポーツ・健康づくり及び、情報技術に関する知識・技能を修得するための専門教育を行い、その分野における指導並びに社会活動に対応し得る人材を育成する専門学校です。本校はオリンピック出場、世界選手権優勝、国際大会優勝等、数々の実績を残しているスポーツ専門学校の名門です。競技スポーツを中心としたアスリート(硬式野球・サッカー・陸上など多数のスポーツ)の他、スポーツトレーナー(トップアスリート、スポーツクラブ、学生のトレーナー)、スポーツインストラクター、保育士、幼児体育指導者のスペシャリストを養成します。学校主導の徹底した就職支援による高い就職率と、たくさんの専門資格を取得できることが特色です。本校グループでは、スポーツ業界初の「専門学校・大学連携の内部推薦制度」が誕生しました。本校の卒業生は内部推薦により、「日本ウェルネススポーツ大学」の3年次に編入学できます。3年次編入の際、本校での取得単位が大学の単位として読替えされるので、編入後無理なく2年間で大学を卒業できます。また、日本ウェルネススポーツ大学では「保健体育教員免許」の取得が可能です。本校卒業後、大学にて学位を取得し、職業に直結した実践力を深めたい方には、この内部推薦制度による編入学はお勧めです。
		夜 アスリート研究科(40) 保育科(40)		
16 日本工学院 専門学校	大田区	昼 放送芸術科(160)、声優・演劇科(160)、演劇スタッフ科(80)、マンガ・アニメーション科四年制(40)、マンガ・アニメーション科(200)、ゲームクリエイター科四年制(80)、ゲームクリエイター科(80)、CG映像科(80)、グラフィックデザイン科(40)、Webクリエイター科(40)、インテリアデザイン科(40)、プロダクトデザイン科(40)、ミュージックアーツイスト科(80)、コンサート・イベント科(320)、音響芸術科(120)、ダンスパフォーマンス科(80)、ITスペシャリスト科(80)、情報処理科(160)、パソコン・ネットワーク科(40)、情報ビジネス科(40)、電子・電気科(120)、環境・バイオ科(40)、建築学科(40)、建築設計科(80)、機械設計科(40)、医療事務科(40)、臨床工学専攻科一年制(80) 平成30年度実績		本校は、1947年の創立以来、「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来創造に寄与する」をミッションとし、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、それぞれが各分野の第一線で活躍していることが、本校の教育の何よりも実績と自負しております。 多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制 長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウと、グレードの高い専門教育を実現するために、カレッジ制を導入。総合専門学校のメリットはそのままに、これまでの学科を発展させ、より専門性を追求する学習環境を実現。「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わりました。 「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療・保育」の6つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造を実現しています。 より充実した教育を提供する「教育設計図」 本校では、就職難の時代に対応し学校の本質である学生への教育をより充実させるべく、長年積み上げてきた教育ノウハウを結集・体系化した「教育設計図」を確立いたしました。これは、“すべての学生に就労に必要なスキルを身につけさせること”を目的とした、全く新しい教育カリキュラムです。すべての学生にこの「教育設計図」に基づいた「専門力」教育を行うとともに、社会人として必要不可欠となる「人間力」の育成にも力を入れ、学生全員が就職・デビューを叶えることができるよう徹底サポートしております。

	学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
17	日本工学院 八王子専門学校	八王子市	昼	放送芸術科(80)、声優・演劇科(80)、マンガ・アニメーション科四年制(40)、マンガ・アニメーション科(120)、ゲームクリエイター科四年制(80)、ゲームクリエイター科(40)、CG映像科(80)、グラフィックデザイン科(40)、Webクリエイター科(40)、インテリアデザイン科(40)、プロダクトデザイン科(40)、ミュージックアーティスト科(80)、コンサート・イベント科(120)、音響芸術科(40)、ITスペシャリスト科(40)、情報処理科(120)、パソコン・ネットワーク科(40)、情報ビジネス科(40)、ロボット科(40)、電子・電気科(120)、一級自動車整備科(50)、自動車整備科(100)、応用生物学科(40)、建築学科(40)、建築設計科(120)、土木・造園科(80)、機械設計科(40)、スポーツトレーナー科三年制(40)、スポーツトレーナー科(40)、スポーツ健康学科三年制(40)、スポーツ健康学科(120)、医療事務科(40)、鍼灸科(60)、柔道整復科(60)、こども学科(80) 平成30年度実績	<p>本校は、1947年に東京都大田区西蒲田に創立した創美学園を起源とし、1987年に八王子市に開校しました。「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、約38万㎡の広大な敷地に最先端の学習・研究施設を機能的にレイアウト。充実した学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、それぞれが各分野の第一線で活躍していることが、本校の教育の何よりもの実績と自負しております。</p> <p>多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制 長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウと、グレードの高い専門教育を実現するため、カレッジ制を導入。総合専門学校のメリットはそのままに、これまでの学科を発展させ、より専門性を追求する学習環境を実現。「総合性」+「専門性」までのカレッジ制専門学校として生まれ変わりました。 「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療・保育」「スポーツ」の7つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造を実現しています。</p> <p>より充実した教育を提供する「教育設計図」 本校では、就職難の時代に対応し学校の本質である学生への教育をより充実させるべく、長年積み上げてきた教育ノウハウを結集・体系化した「教育設計図」を確立いたしました。これは、“すべての学生に就労に必要なスキルを身につけさせること”を目的とした、全く新しい教育カリキュラムです。すべての学生にこの「教育設計図」に基づいた「専門力」教育を行うとともに、社会人として必要不可欠となる「人間力」の育成にも力を入れ、学生全員が就職・デビューを叶えることができるよう徹底サポートしております。</p>
18	日本電子 専門学校	新宿区	昼 夜	<p>コンピュータグラフィック学科(160)、コンピュータグラフィックス研究科(40)、CG映像製作科(40)、ゲーム制作科(150)、ゲーム制作研究科(120)、ゲーム企画科(80)、アニメーション科(80)、アニメーション研究科(40)、Webデザイン科(80)、グラフィックデザイン科(80)、A I システム科(40)、ケータイ・アプリケーション科(40)、ネットワークセキュリティ科(80) 情報処理科(120)、情報システム開発科(80)、高度情報処理科(80)、電子応用工学科(40)、電気工学科(50)、高度電気工学科(30)、電気工事技術科(50)</p> <p>ネットワークセキュリティ科(40)、情報処理科(40)、電気工学科(50)、電気工事士科(50)</p>	<p>「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する」という建学の精神により、現在は「最先端の技術をいち早く実学として取り込み、個性を生かせる教育環境の中で、国際社会に貢献することのできる感性豊かなスペシャリストを育成する」を教育理念として掲げ、独自の教育システムを構築している。</p>
19	二葉栄養 専門学校	武蔵野市	昼	<p>管理栄養士学科(40) 栄養士科(120) 調理師科(76) 調理実践科(76)</p>	<p>本校は開校以来数多く調理師、栄養士を養成してまいりました。平成14年より管理栄養士学科を東日本地区にて第一番目に開設し、平成27年には第10期生の90.6%を管理栄養士国家試験合格として輩出いたしました。栄養士科においては2つのコースを2年次に選択し、希望の就職先に合わせた教育により、就職希望者に対する就職率100%を実現しています。また、調理師科においては基礎衛生知識と、食の安全を中心に学習、調理実習時間は300時間を設定し、知識と技術をバランスよく学び即戦力に対応できる人材を育成しています。2年制の調理実践科を新設し調理実習授業のさらなる充実とフードサービス全般の知識と技術の習得をします。</p>
20	二葉ファッション アカデミー	武蔵野市	昼 夜	<p>ファッション総合学科(100) ファッション専攻科(10) 高等ファッションデザイン科(40)</p> <p>ファッション本科(40) ファッション技術科(40)</p>	<p>1937年の創立以来、ファッションデザイナーの森英恵先生をはじめとする、多くのファッションスペシャリストを産業界に送り出してきました。「涵養の精神と職業人としての自立」という建学の理念のもと、学内ブランドを有し、「東京コレクション」に参加する等、常に産業界と連携した教育活動を展開しています。</p>

学校名	所在地	課程	平成30年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
21 マリールイズ 美容専門学校	新宿区	昼	美容本科 (40)	106年を迎えるマリールイズ美容専門学校は、「日本の美容の歴史は、常にマリールイズと共にありました。」歴史を踏まえ「1に人格・2に技術」を教育の根幹に捉え、「1学年40人」少人数による指導の下で、一人ひとりの学生と向き合い「美容のプロ」を本気で育てたいと日々授業に取り組んでいます。その結果、美容師免許合格率100%の実績を積み重ね、未来の「夢実現」に卒業生を輩出しています。求人件数も約1000社・就職について手厚くサポートします。授業内容は、入学後の6カ月間はカットやメイクの美容の基礎を学び、その後は、自らの個性を重視し、希望する「将来像」に合わせたセレクトできる授業を行っており、専門知識と技術を学ぶことができます。インターンシップを重視し、複数のサロンを経験します。さらに、卒業後の希望に合わせ、(株)美容マリールイズ企業連携、卒業生の経営するサロン提携等を結び、職業人として実習を通して、実践的なカリキュラムを編成、特色化を図っています。
22 町田・デザイン 専門学校	町田市	昼	建築デザイン科 (60)、 インテリアデザイン科 (40)、雑貨・プロダクトデ ザイン科 (40)、グラフィッ クデザイン科 (40)、イラ ストレーション科 (40)、 Web・CGアニメーション 科 (35)、まんが科 (40)、 コミックイラスト科 (60)	創立38年の総合デザイン系専門学校です。 4学群(建築学群・ビジュアル学群・コミック学群・ライフ学群)・8学科38専攻で、 3年制2学科(グラフィックデザイン科、Web・CGアニメーション科)2年制6学科 で編成されています。独自のステップアップ方式とpeer.Cを特徴にした就職内定率 95.8%、デビュー率66.6%の「就職・デビューに強い」デザインの専門学校です。
		通	二級建築士受験科 (30) 建築デザイン科 (20)	東京都初の通信制の学科を設置しています。最短2年で二級建築士の受験資格を取得す る二級建築士受験科と二級建築士の受験資格と専門士を同時に取得する3年制の建築デ ザイン科を設置しています。両学科とも、eラーニングを使用しながら「いつでも、ど こでも」学習が可能で、学費も昼間学科の1/3程度で学ぶことができます。
23 武蔵野東 高等専修学校	武蔵野市	昼	総合キャリア学科 (75)	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職 業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間的成長を図る。 また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視 している。
24 早稲田速記 医療福祉専門学校	豊島区	昼	医療秘書科 (120)、医療マネ ジメント科 (80)、診療情報 管理専攻科 (30)、医師事務 技術専攻科 (30)、くすり・ 調剤事務科 (40)、介護福祉 科 (30)、鍼灸医療科 (30)、 看護科 (35)、字幕制作・速 記者養成科 (20)	1935年に創立し、1972年に日本で初めて医療秘書科をスタートさせました。いつも時 代の先を読み、社会の変化に対応するスペシャリストを育てています。 専門的な学びのほかに、マナーやコミュニケーション能力などの社会性を身につけるこ とで、長く社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。 また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視 している。 正職員就職率が高いことも本校の特徴の一つです。

短期大学

1 愛国学園 短期大学	江戸川区	全	家政科： 家政専攻 (50) 食物栄養専攻 (50)	「経済的に独立し、家庭の幸福の源泉となれる女性の育成」の建学の精神の下、豊かな 教養とともに、家政専攻では、家政学の幅広い知識と技術を身につけ、目指す将来に応 じた実践力を養います。同専攻では中学校教諭二種免許(家庭)、医療事務管理士をは じめ、医・食・住・介護・福祉に関わる様々な資格が取得可能です。また、食物栄養専 攻では、栄養士として、食・栄養の専門知識と技術に加え、思考力、実践力と問題解決 力を養います。栄養士資格とともに、栄養教諭二種免許やフードスペシャリストの資格 も取得できます。両専攻ともに卒業と同時に社会福祉主事任用資格が取得できます。ま た、所定の単位を取得することによりフードコーディネーター3級の資格を取得できま す。他にも秘書技能、簿記、アロマセラピーなど様々な検定資格取得の支援科目や、ア スリートフードマイスター3級、介護職員初任者研修終了資格を得るための講座も設け られています。
2 東京家政大学 短期大学部	板橋区	全	保育科 (120) 栄養科 (80)	本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得 に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。 保育科は保育士、幼稚園教諭二種の資格・免許が取得でき、90%が専門職に進路を決定。 公立の保育士合格者多数。 栄養科は栄養士、中学校教諭二種(家庭)、栄養教諭二種の免許、フードスペシャリスト(受 験資格)が取得でき、栄養士には約40%、その他食品関連企業を中心に一般企業に進路 を決定。

平成29年度会員中学校

公立中学校

	学校数		学校数		学校数		学校数		学校数
千代田区	2	江東区	23	杉並区	23	江戸川区	33	国分寺市	5
中央区	4	品川区	9	豊島区	8	武蔵野市	6	狛江市	4
港区	10	目黒区	9	北区	12	青梅市	10	東大和市	5
新宿区	10	大田区	28	荒川区	10	府中市	11	羽村市	3
文京区	10	世田谷区	29	練馬区	34	調布市	8	三宅村	1
台東区	7	渋谷区	8	足立区	35	町田市	1		
墨田区	10	中野区	11	葛飾区	24	東村山市	1		

合 計 404

区立中等教育学校
千代田区立九段中等教育学校
区立義務教育学校
品川区立日野学園
品川区立伊藤学園
品川区立八潮学園
品川区立荏原平塚学園
品川区立品川学園
品川区立豊葉の杜学園

都立中学校
都立白鷗高等学校附属中学校
都立両国高等学校附属中学校
都立武蔵高等学校附属中学校
都立富士高等学校附属中学校
都立大泉高等学校附属中学校
都立中等教育学校
都立小石川中等教育学校
都立桜修館中等教育学校
都立立川国際中等教育学校
都立南多摩中等教育学校
都立三鷹中等教育学校

私立中学校
愛国中学校
鷗友学園女子中学校
恵泉女学園中学校
武蔵野東中学校
国立大学法人
筑波大学附属中学校

個人会員

1. 堀居 英治
2. 齋藤 武捷
3. 倉持 俊義
4. 梶谷 正義
5. 末松 茂孝
6. 内川 武雄
7. 中村 浩
8. 松井 章朗
9. 花野 耕一
10. 富岡 逸郎
11. 曾根 敏邦
12. 森 健
13. 福島 正幸
14. 佐々木健一
15. 石曾根栄之

本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調して、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善をはかり、産業経済の発展に寄与すること」を目的としています。

産業教育に関心のある企業・学校・個人で入会希望の方または新会員を御紹介いただける方は、本会事務局まで御連絡ください。

(連絡先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

東京都産業教育振興会 事務局

TEL 03 (5320) 6729 FAX 03 (5388) 1727

編集後記

明治、大正、昭和、平成と時代が変遷する中で、産業を取り巻く環境は大きく変化しています。とりわけ最近では、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展しています。このような時に、これから産業教育はどうあるべきかを模索するため、本年度は特集テーマを昨年度に引き続き「特色ある産業教育を目指して一各校・各学科の取組一」とし、特色ある産業教育に積極的に取り組んでいる会員校の優れた実践を紹介いたしました。

御多用にも拘わらず、玉稿を御執筆いただきました皆様に感謝申し上げますとともに、今後も本会への更なる御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

産業界と教育界、教育行政が連携して産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要となります。産業教育の充実・発展のために本誌が幾許かの参考になればと願っております。

ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

表紙デザイン (平成24年度本誌50号記念表紙デザインコンクール最優秀作品)

製作者 川口彩花さん (東京都立工芸高等学校 グラフィックアート科3年:当時)

東京の産業教育 第55号

発行 平成30年(2018年)3月1日 発行
東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03 (5320) 6729 FAX 03 (5388) 1727

印刷 昭和印刷株式会社

広告 目次

1	株式会社カナック企画	表表紙 内 側
2	東京美容専門学校	99
3	株式会社ツバサ	100
4	中央工学校	101
5	公益社団法人東京都専修学校各種学校協会	102
6	株式会社第一成和事務所	103
7	東京商工会議所	104
8	窪田理容美容専門学校	105
9	マリールイズ美容専門学校	106
10	ヤマ産業株式会社	107
11	愛国中学校・高等学校	108
12	ベストワールド株式会社	109
13	東京 YMCA 医療福祉専門学校	110
14	株式会社小薬印刷所	111
15	恵雅堂出版株式会社	112
16	昭和第一学園高等学校	113
17	株式会社ハチオウ	114
18	学校法人誠心学園	裏表紙 内 側
19	エス・イー・シーエレベーター株式会社	裏表紙

あらゆる美の感性を磨く。
それは喜びと感動のはじまり。

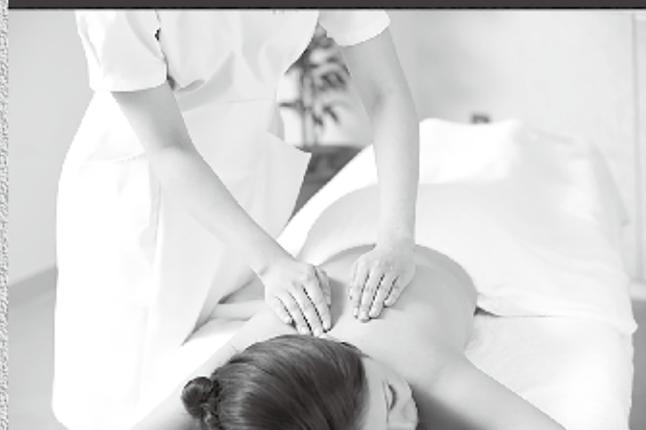
美容総合科 ヘアスタイリストコース



美容総合科 トータルビューティーコース



エステティック科



メイク・ネイル科



美容通信科

エステティック通信講座

体験入学

体験実習(選べる2コース)&個別説明
土・日は毎週開催
午前の部:10時~12時30分(先着4名)
午後の部:14時~16時30分(先着4名)

ご予約はコチラ

☎0120-344276
<http://www.tahb.ac.jp/nyugaku/taiken.html>

カット&スタイリングコース・フェイシャル&ネイルアートコース
※希望のコースと土曜日か日曜日の午前か午後をお選びください。



携帯QRコード
からお申込み

tahb*

Tokyo Academy of Hairdressing & Beauty

学校法人 田中芸術学園
東京美容専門学校

日本でいちばん大切にしたい会社大賞受賞
東京都経営革新奨励賞受賞



翼学院グループ

学習困難な児童・生徒のための進学・補習塾 **翼学院**

NHK総合・朝日学生新聞等メディアで話題
芦澤式学習法が本になりました!

学院長が開発した対話と定式化の“芦澤式”指導法。
学習が苦手でも学力が飛躍的にのびます。
その実績が話題となり「学校では何ともしてくれない小中高生を
何とかしてくれる塾」「他に例をみない塾」など多数のマスコミで
紹介されています。

落ちこぼれでも大丈夫! **1か月で
偏差値20伸ばす
芦澤式学習法**

東京都指定
児童発達支援・放課後等デイサービス **つばさクラブ**

対人関係など苦手感のあるお子さんのソーシャルスキルトレー
ニングや学習のベースとなる復習を行っています。また、常勤の養護
教諭(保健師・看護師、埼玉県立大学院で保健医療福祉研究)がメ
ンタルケアやご家族からの相談を受けています。

成績オール1、学校嫌い、学習障がいでも
「学力と心を豊かに育める」指導法教えます!

NHK総合テレビ「おはよう日本」で
独自の指導法を紹介!

「ウチの子、どうしよう……」
とお悩みの親御さんも必ず解決できます!

第一薬科大学付属高等学校
学習センター

翼学院高等部

「翼学院高等部」は生涯の生きる力を育む高校卒業サポート校です。
主要5科目から実技科目まで教員免許所持の専門性の高い講師が
指導。進学指導はもちろん、都立高での面接指導や全国ランキング
No1就活本の執筆と当学院は“キャリア教育”に自信があります。地域
企業と連携した就業体験で、自分の夢探しを行います。教員が同伴し、
体験後に一緒に振り返ることで生徒の“夢”が見つかります。

全国ランキングNo.1就活本を執筆!
翼学院はキャリア教育に自信あり!!

2018年度版 **サクセス!**
**一般常識
最新時事**
翼学院・芦澤唯志

同じ問題
が出た!
注目ニュースも
業界のトレンドも
まるわかり!!
売上実績 **No.1**
売上 アプリ



「地域の皆様からのご支援に感謝し、これからも一筋に歩んでいきます!」

学院長 **芦澤 唯志**

公益財団法人 産業教育振興中央会 理事
東京商工会議所 本部 生産性向上委員
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員



(株)ツバサ
翼学院

- 高砂校
- 青砥駅前校
- 青砥西口校
- 水元校
- 東水元校

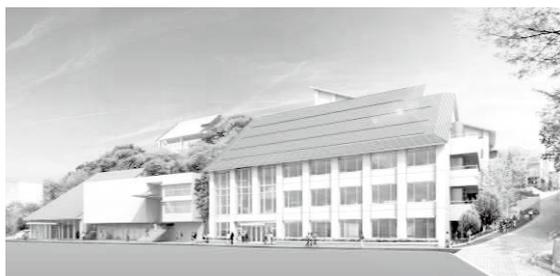
お問い合わせはこちらまで!

合格 ツバサ
03-5699-5283

翼学院 検索

中央工学校

109年を超える伝統と実績！
あなたの夢《未来》を勝ち取る！



次の100年に向けて、新校舎建設中！

次世代へ自信をもって引き継いでいける建物にすることで、これまで以上に確かな技術者を輩出できるキャンパスへと進化させていきます。

建築・木造・設備



- 建築学科 (4年) ■建築設備設計科 (2年)
- 建築工学科 (3年) ■建築室内設計科 (2年)
- 建築設計科 (2年) ■夜間 建築科 (2年)
- 木造建築科 (2年)

《建築関連学科》

— 平成29年1級建築士試験 専門学校トップの合格者数 —
平成29年1級建築士試験「設計製図の試験」学校別合格者一覧が発表され、専門学校では連続トップの成績を収めました。
(平成29年12月21日、公益財団法人建築技術教育普及センター発表)

室内・インテリア・家具



- 建築室内設計科 (2年)
- インテリアデザイン科 (3年)

《インテリア関連学科》

住空間・商業空間のインテリアデザインから、施工方法まで学び、さらに家具デザイン・家具制作技術などを身につけた、インテリアデザイナーを目指します。

舞台美術・イベント設営



- エンターテインメント設営科 (2年)

《エンターテインメント設営科》

TVや野外ステージなどの設営に必要な設計技術（舞台造形・空間装飾デザインなど）から、仮設足場を計画し、イベント設営物の制作・設営技術まで習得します。

土木・測量・造園



- 土木建設科 (2年) ■造園デザイン科 (2年)
 - 測量科 (1年) ■夜間 土木・測量科 (2年)
 - 地理空間情報科 (1年)
- 《測量士補取得者対象》

《土木・測量関連学科》 ※造園デザイン科を除く

Point 1	Point 2	Point 3
卒業と同時に測量士補を無試験取得※	2年の実務で測量士を無試験取得※	地理空間情報科を卒業すると測量士を無試験取得

機械・CAD



- 機械学科 (4年)
- 機械設計科 (2年)
- 3D-CAD科 (2年)

《機械・CAD関連学科》

身の回りの工業製品などの、設計技術を作品制作を通して、習得します。また、最先端のCAD技術を短期間に習得できます。

- 〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目 26-17
- TEL : 03-3905-1511 (入学相談室) ☎ 0120-79-1511
- PC : <http://chuoko.ac.jp> (携帯からもアクセス可)
- Mail : info@chuoko.ac.jp



オフィシャルサイトにアクセスできます。
(資料請求や学校説明会・体験入学の申込可能)





いいかも！
高等専修学校！

中学校のみなさまへ

- 高等専修学校で「総合的な学習の時間」の授業プログラムの実施
- 中学校生徒の高等専修学校訪問の受け入れ
- 高等専修学校から中学校の「総合的な学習の時間」授業への講師派遣

高等学校のみなさまへ

- キャリア教育における講師派遣
- 大学・短期大学・専門学校への進学
 - 分野別の教育内容、取得資格、就職指導など
 - 学納金、奨学金について
 - 体験学習、卒業生や在校生の体験談など



やっぱり
専門学校だっ！

「わたしの進路が見えてきた！」をお手伝い

〈キャリア教育〉を スペシャリストが サポート

キャリア教育のあり方が模索されているいま、東京都専修学校各種学校協会では、キャリア教育のスペシャリストによる出張授業や講演、また上位学校の訪問などの提案やコーディネートを実施し、子どもや若者が「自立して生きていくために必要な能力や人間性を育てる教育」（中央教育審議会）のお手伝いをしています。

上記のほかにもさまざまなテーマやご要望に応じたアレンジをご提案。現場の先生がたより「生徒たちは、将来についての考えをいっそう深めることができました」「インターネットや本からは得られない実感的な手応えをつかんだようです」とご好評をいただいています。

お問い合わせ、資料のご請求：

公益社団法人 東京都専修学校各種学校協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-58-1 石山ビル 6階 TEL 03-3378-9601 / FAX 03-3378-9625

info@tsk.or.jp <https://tsk.or.jp/>

充実のガイドブックを
無料でお送りしています！

協会ウェブサイトよりお申し込みください。



東京都高等専修学校概要



東京都専門学校概要



東専各

検索

〈関連情報〉



〈出版物のご案内とお申込〉

インターンシップ・ボランティア等体験活動保険

キャリア教育
補償制度

職場体験・就業体験・奉仕活動中の賠償事故・ケガに対応

低額の保険料で
高い補償

賠償責任保険
→250円
(年間)

傷害保険
→30円から
(1日あたり)

対象となる活動

学校が教育活動の一環とするキャリア教育(職場体験等)、インターンシップ(就業体験等)、ボランティア(奉仕活動)

詳しくは産業教育振興中央会
ホームページをご参照ください。

<http://www.sansinchuoukai.or.jp>

※2008年度の制度改定により、対象となる活動を勤務観、職業観育成のための上記の活動に限定しておりますのでご注意ください。

補償の対象者

学校教育法に定める小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校(盲、聾、養護学校)、高等専門学校の児童・生徒・学生(専攻科生徒・学生を含みます。)

保険金のお支払い事例

賠償責任保険			傷害保険		
 <p>ボランティア活動 (奉仕活動)</p>	 <p>インターンシップ (就業体験)</p>	 <p>介護体験等</p>	 <p>①ボランティア活動に参加する途中で自動車にはねられた。</p>	 <p>②インターンシップ体験中にケガをした。</p>	 <p>③介護体験中にケガをした。</p>
活動内容 (場所)	事故内容	賠償金額	活動内容 (場所)	事故内容	賠償金額 (治療日数)
職場体験活動 (インターンシップ先)	農作業の実習中にローダー操作を誤り牛舎を破損。	306,600円	就業体験活動 (インターンシップ先)	精肉加工コーナーで肉を切っていた時に誤って指を切る。	32,000円 (通院16日)
就業体験往復途上 (帰宅途上)	自転車で帰宅中に十字路口で出会い頭に衝突し、他人にケガを負わせる。	838,720円	就業体験往復途上 (帰宅途上)	自転車で帰宅中、見通しの悪い下り坂で車と正面衝突し負傷。	18,000円 (入院3日・通院3日)
ボランティア活動中 (ボランティア先)	除草作業中に誤ってガラス窓を破損。	42,000円	ボランティア活動中 (ボランティア先)	草むしりをしていたところ、ミツバチに指を刺された。	2,000円 (通院1日)

※実際のお支払いはご加入の内容やおケガの状態により異なります。

ダイイチセイワジムシヨ
(取扱代理店) 株式会社 第一成和事務所

〒103-8214 東京都中央区日本橋久松町11-6 日本橋TSビル8F
TEL 03-3669-2831 FAX 03-3667-9037 E-mail:seiwa@d-seiwa.co.jp

東商グランドホール
580㎡ 椅子席の場合最大500名

[3時間パック] 437,400円 (税込)
午前 9時~12時 / 夜間 18時~21時

東京商工会議所 ホール / 会議室

2019年1月OPEN!

東京商工会議所ビル2018年秋竣工予定

Room A1

195㎡ スクール形式 64名 / 口の字形式 36名

[3時間以内] 129,600円 (税込)

Room A2

85㎡ スクール形式 24名 / 口の字形式 20名

[3時間以内] 58,320円 (税込)

Room A1-A2 (連結)

280㎡ スクール形式 104名 / 口の字形式 52名

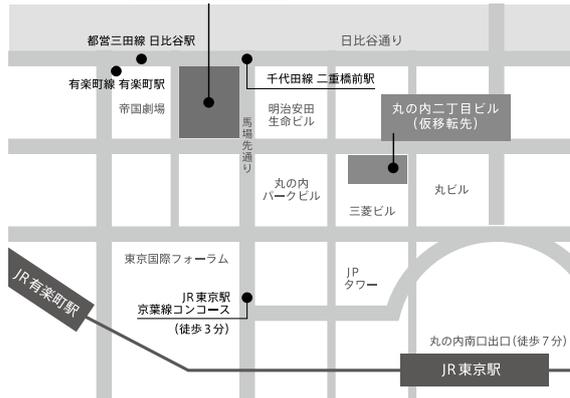
[3時間以内] 187,920円 (税込)

受付
開始

駅直結の好立地！ 皇居外苑を一望できる眺望！
会議映像を別会議室へ同時配信可能！

最新の設備を兼ね備えた大ホールと8室の会議室を同フロアに配置
社内会議から、セミナー・講演会、株主総会まで用途に合わせてご利用いただけます。

東京商工会議所ビル
2018年秋竣工予定
ホール・会議室
2019年1月オープン



- JR
 - ・JR「東京駅」京葉線コンコースより徒歩3分
 - ・「有楽町駅」国際フォーラム口より徒歩5分
 - ・「東京駅」丸の内南口より徒歩7分
 - ※ビル直結の地下通路をご利用いただけます。
- 地下鉄
 - ・千代田線「二重橋前駅」
 - ・日比谷線「日比谷駅」
 - ・都営三田線「日比谷駅」
 - ・有楽町線「有楽町駅」
 - ・丸の内線「東京駅」
 - ※ビル直結の地下コンコースをご利用いただけます。

お問合せ
お申込み

東京商工会議所 東商ビル建替え準備室
Tel 03-3283-7857 平日 9:00~17:00
E-mail kaigishitsu@tokyo-cci.or.jp
<http://www.tokyo-cci.or.jp/kaigishitsu/>



学科

美容学科

[昼間2年]

美容学科

[夜間3年]

トライチェンジコース

理容学科

[昼間2年]

・本科コース
・認定エステティシャン取得コース

テクニカルスタイリスト科

[昼間1年]

ビューティーコース

特色

挨拶、マナー徹底した人間教育
自力進学可能なトライチェンジコース
窪田独自の奨学金制度

入学資格

高卒（見込）または同等以上の者

試験

推薦入試 特別推薦入試 一般入試

取得資格

美容師、理容師

窪田独自の奨学金制度

窪田特別奨学金基金

上限100万円を無利子で貸与、返済期間も最長10年



確かな技術
を養う教育
豊かな人間性
を育む環境

学校法人 窪田学園 厚生労働大臣指定

職業実践専門課程 認定校

東京都知事認可



窪田理容美容専門学校

理事長 窪田 多美子

校長 池宮 慧泉

〒164-8585

東京都中野区中野 4-11-1

TEL : 03-3386-6789

Mail : kbc@kubota.ac.jp

得意分野、専門分野のある美容のスペシャリストをめざして



100年以上も前から世界に通用する美容師を育ててきました。

マリールイズは、ワンランク上のプロを育てる少人数制にこだわっています。

本校の始まりは1912年(明治45年)。

創立者マリールイズは世界文化の中心地パリより、

日本で初めて西洋美容の髪型であるマルセルウェーブ、

フェイシャルエステ及び化粧品製造技術等を携えて20年ぶりに帰国します。

当時の宮家皇族14家に出入り、

パリのお洒落を紹介。

ヨーロッパ風俗・西洋化の流れは

マリールイズから始まりました。

「日本近代美容の母」と謳われる

由縁です。

当時働くことを必要とした女性の

ために、

手に職をと美容学校の前身となった美容講習所を日比谷

に立ち上げます。

その教育理念は「一に人格、二に技術」。

社会に活躍する後進を大勢育て、美容業界への発展に尽くした功績を認められ、

美容業界初の「藍綬褒章」を受賞、美容師の社会的地位を確立しました。

「学校見学&体験入学」随時受付中! ※詳しくはお電話又はホームページにてお問い合わせください。



学校法人 マリールイズ学園 厚生労働大臣指定

マリールイズ美容専門学校

<お問い合わせ>

TEL:03-3357-8015 www.marie-louise.ac.jp

教育備品総合商社

ヤマ産業株式会社

学びの場づくりの一翼をになつて、
教育現場からのきびしい要求にお応えします。

- スチール・木製家具
- 各種特別教室
- 黒板・スクリーン
- 学校用品
- 室内装飾
- 図書館設備
- 視聴覚設備
- OA事務機器



〒112-0015
東京都文京区目白台3-26-8
TEL：03(3941)7258
FAX：03(3943)3826

愛国中学校 募集人員

60名

愛国高等学校 募集人員

普通科 160名

(一般教養コース・進学コース)

商業科 80名

(会計コース・情報処理コース)

家政科 80名

卒業と同時に無試験で

調理師免許取得

衛生看護科 40名

准看護師試験受験資格取得

資格試験 100%合格実績

創立 80 年
伝統ある中高一貫女子教育

愛国中学校・愛国高等学校

TEL.03-3653-4111 FAX.03-5663-1717

〒133-8585 東京都江戸川区西小岩5-7-1

中学校 <http://www.aikokugakuen.ac.jp/junior-high/>

高等学校 <http://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/>

京成小岩駅下車徒歩3分・JR小岩駅北口下車徒歩10分・北総線新柴又駅下車徒歩13分・JR金町駅よりバス12分

優先入学できる上級併設学校

愛国学園大学 人間文化学部



仕事や生活に直結する
専門的知識や技能を修得

取得できる資格

- 認定心理士
- 上級秘書士
- 上級情報処理士
- 社会福祉主事任用資格
など

愛国学園短期大学 家政科 (家政専攻・食物栄養専攻)



食と健康に関係する
広範囲な知識を修得

取得できる資格

- 栄養士免許
- 中学校教諭二種免許 (家庭)
- 栄養教諭二種免許
など

愛国学園保育専門学校 幼児教育科 (2年制)



人間性豊かな保育士、
幼稚園教諭へ

取得できる資格

- 幼稚園教諭二種免許
- 保育士

愛国高等学校衛生看護専攻科 (全日制2年過程)



看護師として必要な知識、
技術を修得する

取得できる資格

- 看護師国家試験受験資格
- ※衛生看護専攻科受験資格
高等学校卒業かつ
准看護師資格所有

愛国学園は皆さんの夢を応援しています

当社は昭和 44 年創業以来、約 50 年に亘り旅行業を営んでまいりました。

顧みますと、無事今日を迎えることが出来たのは、社員一同の弛まぬ刻苦精励によることはもとよりですが、何と申しましても創業以来、数限りない多くの方々から絶大なるご支援とご愛顧を賜り、今日に至っております。

おかげさまで創業以来、借入金は無で、常に好成績を維持して参り、各方面から、当業界の中でも、特に優れた健全な経営であると賛辞を賜っております。

旅行業に携わる私共としまして多くの方々と一緒に、旅のお供が出来たことは、何物にも代え難い感動であります。

社訓は下記三条項であります。これは創業時の精神であります。

- 世のお役に立つ
- 顧客の喜びをわが喜びとする
- 顧客との出会いを尊び、ご縁を大切にする

昨今の厳しい環境と予測も困難な変化の渦中に在っては、創業の精神を想起し、向上発展を志すことこそ、最も肝要であると確信いたしております。

これを機に、心を一新して、社業発展に邁進の覚悟であります。

【主な業務内容】

1. 海外旅行業務

- 海外団体旅行の企画、主催、諸手配、添乗
- ホームステイによる英語研修、海外留学の企画
- 海外業界視察、研修、親善旅行等の企画、主催、並びに業界訪問の予約業務等

- 修学旅行・国内旅行

- ジャパンフェスティバル

2. IATA 公認代理店業務

- IATA 加盟の航空各社の航空機の予約と発券

3. 海外オペレーター業務

4. 旅行附随業務

- 旅行傷害保険代理店

- 海外旅行用品の販売

- 海外イベント、フェスティバル、国際見本市等の情報収集並びに手配

5. 国内旅行

- 国内旅行全般の斡旋並びに手配

6. 輸入販売業務



東京 Y M C A 医療福祉専門学校

厚生労働大臣指定 介護福祉士養成施設・作業療法士養成施設 職業実践専門課程認定校

介護福祉科

昼間部 2年制 ・男女80名

卒業時、介護福祉士国家試験受験資格取得

作業療法学科

昼間部 3年制 ・男女30名

卒業時、作業療法士国家試験受験資格取得



「互いに愛し合いなさい」これが私たちのカレッジスピリットです。

生きるために他人の手を必要とする人々を、直接支える介護福祉士・作業療法士には、専門知識や技術だけでなく、常に笑顔と優しさを持って人と接することができる豊かな人間性が求められています。人間愛に基づいた本物の医療・福祉を実践できるスペシャリストになっていただきたいと、私たちは心から願っています。

一人ひとりを大切に育てる個別指導、ぜひ皆さんの目を見て、本校の雰囲気を感じてください。

〒186-0003 東京都国立市富士見台 2-35-11

TEL : 042-577-5521 FAX : 042-577-5506

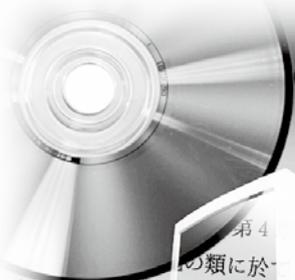
email: ifs@tokyo.ymca.ac.jp URL: <http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/>



印刷とともに90年

学会誌、社内報、教科書・教材、研究年報、講演会録、
同窓会報、自費出版、少部数印刷等 ※学会誌事務局代行も承っております。

90年にわたり培ってきた信用が当社の
財産です。安心してお問合せ下さい。



(modus; wyze)



第4章で概観してきた如く、スピノザの形而上学
の類に於て (in suo genere) 無限な本質を表現す
多くの属性から成る「絶対無限な (absolute infinita)」実体、或は
の内に在り且つそれ自身によって明瞭判然と考えられるもので、永遠
本性を表現する実体の属性たる能産的自然 (natura naturans) とい
でも解し得る「神」が主体となっている。しかもこの神は、論理的な
からいて、自己の能力 (potentia) = 自己の本質そのものといふかた
内に認識論的「主・客」構造の core を内包し、規定肢として無限の
に実在するとともに、規定肢でもある自らを模範的
る構図になっているといふ得る
が単に自己の本性の必然性の
するものに他ならないという
る可能性と現実性との一致乃
然るような範疇の問題は全く次元の異
のである。そしてまた、彼の形而上学
けることもなく自己の本性の法則に依
必然的に且つ無限に生じせしめるという、所謂スピノザ



Since 1930



Small but Excellent

株會 小藥 印刷所

式社

〒104-0042 東京都中央区入船2-7-4

TEL (03) 3551-1222 FAX (03) 3551-3447

E-Mail kogusuri@blue.ocn.ne.jp

KEIGADO PUBLISHING Co., Ltd

感動をカタチに、 想いを明日へ

- 卒業アルバム制作と出版活動を通じて培ったノウハウを土台に、一般企業や個人の皆様からも、様々な「思い出」にかかわる印刷物のご注文をいただいております。
 - 弊社は出版社ですので、一般への流通を希望される場合は、書店からの注文に応じることも可能です。
- 「思い出」の制作には、経験とアイデアと「想い」が必要です。何かを残そうと思いついたら、ぜひ下記の弊社企画室までご相談ください。

- 卒業アルバム
- 学校案内・会社案内
- 文集・記念誌
- 各種リーフレット
- ポスター制作
- 記念 CD・DVD 制作
- 自費出版制作
- 同窓会誌・広報誌
- 講演記録作成・聞き書き
- 出張取材・出張撮影



恵雅堂出版株式会社

〒162-0053 東京都新宿区原町 1-28
TEL 03-3203-4754 企画室 8:30 ~ 17:30 土日祭除く



昭和第一学園高等学校

Showa Daiichi Gakuen High School

普通科・工学科の総合学園

+
One
Step!

未来は
ココから
動き出す。



教育目標

確かな学力と豊かな人間性に支えられた人間力の育成

工 学 科

2017年4月リニューアル

機械・電子情報・建築デザインの専門3コースを統合

- ◇「ものづくり」に関する知識と技術を総合的に学習
- ◇次代を見据えたデジタルなものづくりを学ぶ

自分の進路や得意分野を生かした科目の選択が可能

- ◇大学一般入試にも対応。理工系大学進学に限らず一般教養に十分対応できる学力を身につけられる一般科目
- ◇理工系大学や専門学校、就職先で活躍できる技術を習得できる専門科目
- ◇各種資格も専門科目履修で取得。他資格取得支援も充実

〒190-0003 東京都立川市栄町2-45-8 TEL.042-536-1611 FAX.042-537-6880

<http://www.sdg.ed.jp>

昭和第一学園

検索

化学系廃棄物の専門業者として、
御社をサポートします。



化学物質・廃棄物対策

Q. 施設の移転、担当者の異動で
不要となった薬品が大量にあるが...

A. 専門スタッフが廃棄に必要な作業をサポートします！



- 化学薬品の処理
- 実験・分析廃液の処理
- 工業廃液の処理
- 特殊廃棄物の処理

業界トップランナーの証
東京都第三者認証

《産廃エキスパート》

- 収集運搬
- 中間処理
- 専門性（感染性廃棄物）

2010年2月
認定取得



化学物質と安全につきあい、
責任を持って管理し、
最後は環境にやさしく処理する必要があります。
化学物質や薬品による事故の影響は
現場だけにとどまらず、
環境に深刻なダメージを与えることは
言うまでもありません。

ケミカル廃棄物の総合アドバイザー

HACHIOH

八櫻

株式会社 ハチオウ

<http://www.8080.co.jp>

TEL: 03-3625-8077

〔調理師科 2 年制〕

フランス料理専攻コース
イタリア料理専攻コース
日本料理専攻コース
中国料理専攻コース

〔シェフパティシエ科 2 年制〕

〔調理師科 1 年制〕

調理技術コース
福祉調理コース
※入学後にコースを選択

〔調理師科夜間部 2 年制〕

国際フード製菓専門学校 ◆

〔製菓製パン科 2 年制〕

洋菓子専攻コース
和菓子専攻コース
パン専攻コース

〔製菓製パン科 1 年制〕

〔調理師科 1 年制〕

〔製菓製パン科夜間部 2 年制〕



学校法人 誠心学園

東京誠心調理師専門学校
国際フード製菓専門学校

〒144-0052
〒220-0004

東京都大田区蒲田3-21-4
神奈川県横浜市西区北幸2-9-6

Tel.03-3734-4411
Tel.045-313-4411



50th ANNIVERSARY

技術と人材で、 縦の交通を快適に。

昭和42年の創業以来50年、
都市高層化の歩みとともにSECも発展してまいりました。
全メーカー対応の技術力、高度な専門知識を有するスタッフで、
安心のエレベーター環境づくりを提供いたします。

SECエレベーター株式会社

検索

イメージキャラクター
具志堅 用高



エス・イー・シーエレベーター株式会社

本社：〒110-0016 東京都台東区台東 3-18-3 SECビル
東京本社：〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-3-3 神田中央通りビル



0120-83-1171 www.secev.co.jp

※支店支社含め全国150拠点以上のサービス網でメンテナンスサービスを提供しております。

業務内容

- 全メーカーのエレベーター保守管理
- エレベーター改修工事一式
- SEC製エレベーター製造販売
- デジタルサイネージの企画製造販売
- LED等照明事業を含むエコ事業